

高 崎 城 遺 跡 25

独立行政法人国立病院機構高崎総合医療センター病棟等増築整備工事に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書

2 0 1 8

高崎市教育委員会

独立行政法人国立病院機構高崎総合医療センター

株式会社 測研

例 言

- ・本書は、独立行政法人国立病院機構高崎総合医療センターの病棟等増築整備工事に伴い事前調査された高崎城遺跡の第25次発掘調査（高崎市遺跡調査番号702、遺跡名：高崎城遺跡25）の発掘調査報告書である。
- ・本遺跡は、群馬県高崎市高松町36番地に所在する。
- ・発掘調査及び整理等作業は、高崎市教育委員会の指導・監督の下に、事業者と委託契約を締結した株式会社測研が実施した。
- ・発掘調査から整理等作業を経て本書刊行に至る経費は、事業者である独立行政法人国立病院機構高崎総合医療センターに負担していただいた。
- ・発掘調査の体制は下記のとおりである。

高崎市教育委員会 角田 真也 矢島 浩
株式会社 測研 高林 真人

- ・発掘調査期間は平成29年7月23日～平成29年10月12日、整理等作業期間は平成29年10月13日～平成30年3月20日である。
- ・本書の執筆・編集は、高林が行った。
- ・出土した遺物及び各種原図・写真などの記録類は高崎市教育委員会が保管している。
- ・本遺跡の発掘調査及び報告書刊行にあたって、下記の方々・機関からご指導・ご協力を賜った。ここに記して御礼申し上げます。（順不同・敬称略）

独立行政法人国立病院機構高崎総合医療センター 山下工業株式会社 川端建材有限会社
株式会社原田総建 高崎市教育委員会 石井克己 黒田 晃

凡 例

- ・遺構番号は、原則として発掘調査時に付したものを使用している。
- ・遺構挿図中に使用した座標値は世界測地系によるものであり、方位記号は座標北を示している。
- ・遺構断面図に付した数値（L＝）は海拔を表す。
- ・土層注記及び遺物の色調は、農林水産省農林水産技術会議事務局 財団法人日本色彩研究所監修『新版標準土色帖（1998年版）』を使用した。
- ・遺構には次の略号を使用した。 S D＝溝跡 S K＝土坑 S E＝井戸跡 P＝ピット（小穴）
- ・遺構の実測図は、遺構配置図を1/300、堀跡の平面・断面図を1/150、溝跡・ピットの平面図を1/100、同土層断面図を1/50、基本土層断面図及び土坑・井戸跡の平面・断面図を1/40で掲載した。
- ・遺物の実測図は、土器は播鉢・内耳鍋・焙烙・土瓶を1/4、その他は1/3で掲載し、墨書・刻印は原寸を掲載した。金属製品は矢立を原寸、その他は1/2で掲載した。石製品は1/3で掲載した。木製品は大型品を1/6、小型品を1/2、その他を1/3で掲載した。瓦は1/6を基本とし、刻書・刻印は原寸で掲載した。
- ・遺物写真は、瓦の刻書及び刻印の一部を1/2、その他は実測図とほぼ同寸となるように掲載した。
- ・出土した遺物の注記は、高崎市遺跡調査番号（702）・遺構名・出土層位などを記入した。
- ・本報告書では、次の火山噴出物の略号を使用した。 A s－A＝浅間A軽石
- ・本報告書で使用した地図の原図は下記のとおりである。

◎国土地理院 地形図 「高崎」・「前橋」・「下室田」・「富岡」 1/25,000

◎高崎市都市計画図 1/2,500（50%縮小して使用）

- ・遺物実測図に使用したトーンは以下のとおりである。

還元焰須恵器断面： 灰釉陶器断面・施釉範囲：

この他のトーンについては、各図中に掲載する。

目次

例言・凡例

目次・挿図目次・表目次・写真図版目次

第1章	調査に至る経緯	1
第2章	遺跡の位置と環境	1
第1節	遺跡の位置と周辺の地形	1
第2節	高崎城遺跡の既往の調査	1
第3章	調査方法と調査の経過	6
第1節	調査方法	6
第2節	調査の経過	6
第4章	確認された遺構と遺物	7
第1節	遺構の分布と基本土層	7
第2節	高崎城二ノ丸南堀	7
第3節	土坑	37
第4節	井戸跡	39
第5節	溝跡	41
第6節	ピット	44
第7節	遺構外出土遺物	45
第8節	まとめ	46

挿図目次

第1図	遺跡位置図（1/25,000）	2
第2図	高崎城遺跡発掘調査位置図（1/5,000）	3
第3図	調査区全体図・基本土層図（1/300・1/40）	8
第4図	高崎城二ノ丸南堀平面図・断面図①	10
第5図	高崎城二ノ丸南堀断面図②	11
第6図	高崎城二ノ丸南堀推定平面図①（1/400）	12
第7図	高崎城二ノ丸南堀推定平面図②（1/800）	13
第8図	堀出土近世遺物①（碗1）	14
第9図	堀出土近世遺物②（碗2）	15
第10図	堀出土近世遺物③（碗3・小坏・蕎麦猪口・皿1）	16
第11図	堀出土近世遺物④（皿2・蓋・鉢1）	17
第12図	堀出土近世遺物⑤（鉢2・徳利）	18
第13図	堀出土近世遺物⑥（鍋・土瓶・急須・播鉢1）	19
第14図	堀出土近世遺物⑦（播鉢2・焼塩壺・壺・甕・半胴・秉燭・灯明皿受皿）	20
第15図	堀出土近世遺物⑧（灯明皿・仏飯器・火鉢・香炉・水滴・火消壺蓋）	21
第16図	堀出土近世遺物⑨（矢立）	22
第17図	堀出土近世遺物⑩（煙管・鉄製品・硯）	23
第18図	堀出土近世遺物⑪（木製品1）	24

第 19 図	堀出土近世遺物⑫（木製品 2）	25
第 20 図	堀出土近世遺物⑬（木製品 3）	26
第 21 図	堀出土近世遺物⑭（木製品 4）	27
第 22 図	堀出土近世遺物⑮（木製品 5）	28
第 23 図	堀出土近世遺物⑯（木製品 6）	29
第 24 図	堀出土近世遺物⑰（木製品 7）	30
第 25 図	堀・調査区出土近世瓦①	31
第 26 図	堀・調査区出土近世瓦②	32
第 27 図	堀・調査区出土近世瓦③	33
第 28 図	堀・調査区出土近世瓦④	34
第 29 図	堀・調査区出土近世瓦⑤	35
第 30 図	堀・調査区出土近世瓦⑥	36
第 31 図	堀・調査区出土近世瓦⑦・近代瓦	37
第 32 図	堀出土縄文時代～平安時代遺物	38
第 33 図	堀出土古代瓦	39
第 34 図	1号～6号土坑平面・断面図	40
第 35 図	土坑出土遺物	41
第 36 図	1号井戸跡平面・断面図、出土遺物	42
第 37 図	1号～4号溝跡平面・断面図	42
第 38 図	溝跡出土遺物	43
第 39 図	1号～3号ピット平面・断面図	44
第 40 図	遺構外出土遺物	45

表目次

第 1 表	高崎城遺跡発掘調査一覧	4
第 2 表	高崎城遺跡発掘調査報告書一覧	5
第 3 表	遺物観察表	47

写真図版目次

- 写真図版 1 I 区調査区全景 (真上から 上が北)
II 区調査区全景 (真上から 上が北)
- 写真図版 2 I 区調査区全景 (西上空から)
II 区調査区二ノ丸南堀全景 (東上空から)
- 写真図版 3 I 区調査区二ノ丸南堀全景 (西から)
I 区調査区二ノ丸南堀犬走り全景
(南西から)
II 区調査区二ノ丸南堀全景 (西から)
II 区調査区二ノ丸南堀全景 (東から)
I 区調査区二ノ丸南堀東端部底面全景
(西から)
I 区調査区西端部二ノ丸南堀底面全景
(東から)
I 区調査区二ノ丸南堀全景 (東から)
II 区調査区二ノ丸南堀全景 (西から)
- 写真図版 4 I 区調査区西壁二ノ丸南堀土層断面
B-B'① (東から)
I 区調査区西壁二ノ丸南堀土層断面
B-B'② (東から)
II 区調査区東壁二ノ丸南堀土層断面①
(西から)
II 区調査区東壁二ノ丸南堀土層断面②
(西から)
II 区調査区西壁二ノ丸南堀土層断面
C-C'① (東から)
II 区調査区西壁二ノ丸南堀土層断面
C-C'② (東から)
II 区調査区北壁二ノ丸南堀土層断面①
(南から)
II 区調査区北壁二ノ丸南堀土層断面②
(南から)
- 写真図版 5 I 区調査区北壁二ノ丸南堀土層断面
A-A' (南から)
II 区調査区二ノ丸南堀杭出土状況
(東から)
- 1号土坑全景 (南から)
2号土坑全景 (南から)
3号土坑全景 (南から)
4号土坑全景 (南から)
5号土坑土層断面 (北から)
5号土坑全景 (南から)
- 写真図版 6 1号井戸跡土層断面 (東から)
1号井戸跡遺物出土状況 (東から)
1号溝跡A全景 (東から)
1号溝跡B全景 (東から)
1号溝跡C全景 (東から)
1号溝跡全景 (東から)
2号溝跡全景 (東から)
3号溝跡全景 (南から)
- 写真図版 7 3号溝跡遺物出土状況 (南から)
4号溝跡遺物出土状況 (西から)
4号溝跡全景 (西から)
1号ピット全景 (南から)
2号ピット全景 (南西から)
作業風景①
作業風景②
作業風景③
- 写真図版 8 二ノ丸南堀出土近世遺物①
(土器類1)
- 写真図版 9 二ノ丸南堀出土近世遺物②
(土器類2)
- 写真図版 10 二ノ丸南堀出土近世遺物③
(土器類3、金属製品、石製品、
木製品1)
- 写真図版 11 二ノ丸南堀出土近世遺物④
(木製品2)
- 写真図版 12 二ノ丸南堀出土近世・近代遺物 (瓦)
- 写真図版 13 二ノ丸南堀出土
縄文時代～平安時代遺物、土坑・
井戸跡・溝跡出土遺物、
遺構外出土遺物

第1章 調査に至る経緯

平成29年5月、開発事業者の独立行政法人国立病院機構高崎総合医療センターから、高崎市高松町に於いて計画している病棟建設に先立つ埋蔵文化財の照会が高崎市教育委員会文化財保護課（以下、市教委と略）にあった。市教委では、今回の予定地が近世高崎城をはじめ、弥生時代から平安時代の集落跡、中世和田城などが確認されている「高崎城遺跡」の範囲内にあるため、開発事業者側に埋蔵文化財の保護措置が必要である旨を回答した。開発事業者と市教委で協議をしたが、現状保存は困難との結論に至り、発掘調査による記録保存の措置を講ずることで合意した。

発掘調査は「群馬県内の記録保存を目的とする埋蔵文化財の発掘調査における民間調査組織導入事務取扱要綱」（以下「要綱」とする）に準じ、群馬県登録民間発掘調査組織に民間委託することが決定した。平成29年7月に委託先が株式会社測研に決定し、これを受けて平成29年7月14日付で事業者の独立行政法人国立病院機構高崎総合医療センターと受託者の株式会社測研との間で埋蔵文化財発掘調査業務委託契約書が締結された。また、同日に独立行政法人国立病院機構高崎総合医療センター、株式会社測研、市教委の三者で「独立行政法人国立病院機構高崎総合医療センター病棟等増築整備工事に伴う高崎城遺跡25発掘調査業務の取り扱いに関する協定書」を締結し、発掘調査の実施にあたって市教委が指導・監督をすることとなった。

第2章 遺跡の位置と環境

第1節 遺跡の位置と周辺の地形

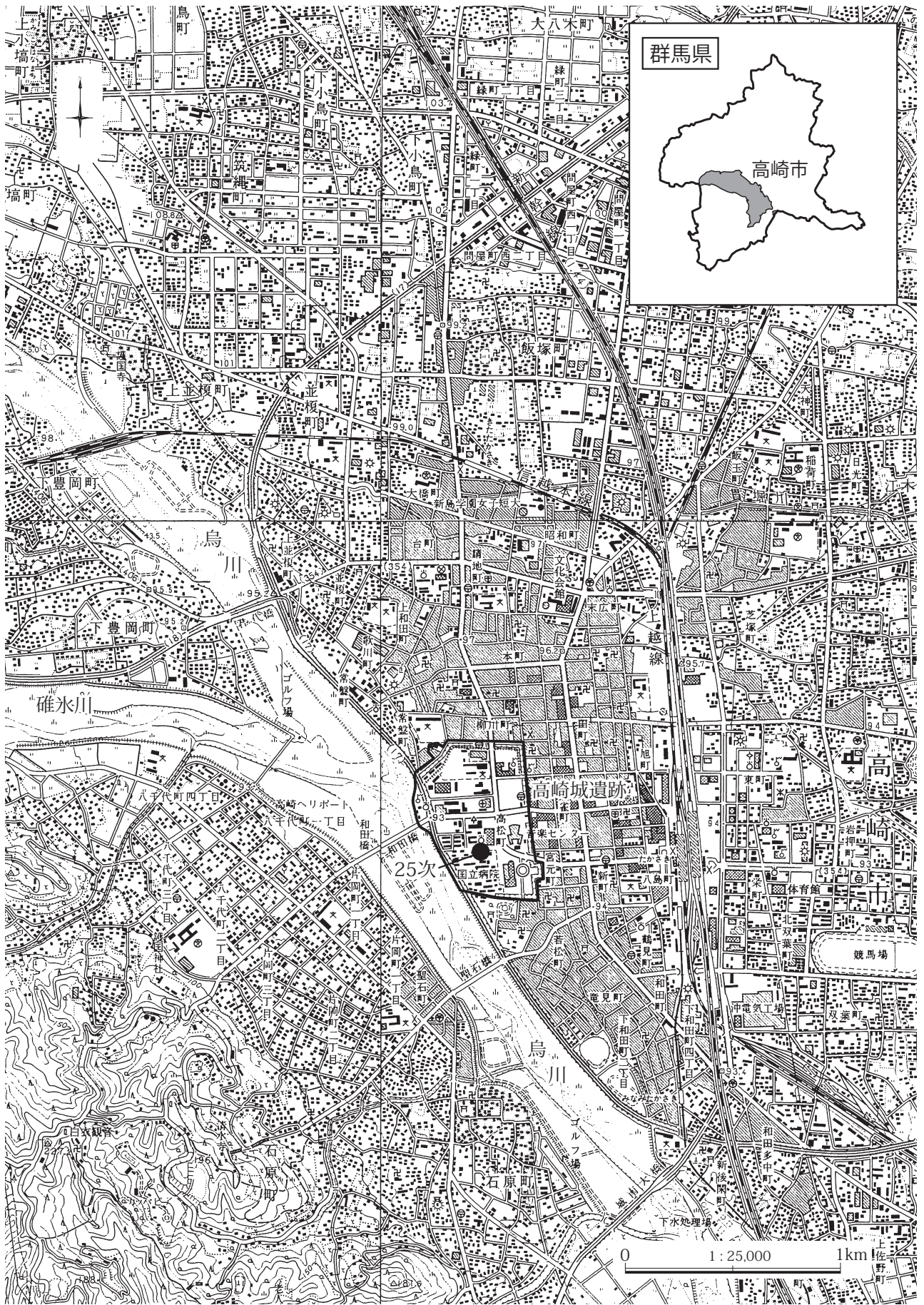
高崎城遺跡は、高崎市高松町に所在する近世高崎城を主体とする縄文時代～近現代までの遺構が確認される複合遺跡である。本遺跡の所在する高崎市は群馬県南西部に位置し、北東側に緩やかに弧を描く北西－南東方向に細長い形をしている。高松町は高崎市の南東側に位置しており、中心市街地の西縁付近にある。東側約900mにJR東日本の高崎駅があり、西側は国道17号線が北西－南東方向に走っている。

本遺跡は、榛名山麓扇状地から南東方向に延びる高崎台地上に立地する。高崎台地は南西側が高崎市倉渕町鼻曲山を源とする烏川の周辺に形成された烏川・碓氷川低地に、北東側が相馬ヶ原扇状地を源とする井野川の周辺に形成された井野川低地に挟まれており、南東端部は烏川が東に向きを変え井野川が合流する高崎市倉賀野町から岩鼻町となる北西－南東方向に長い舌状台地である。本遺跡は高崎台地中央部南西側の烏川沿いの台地縁に位置しており、烏川低地との比高差は約8mである。

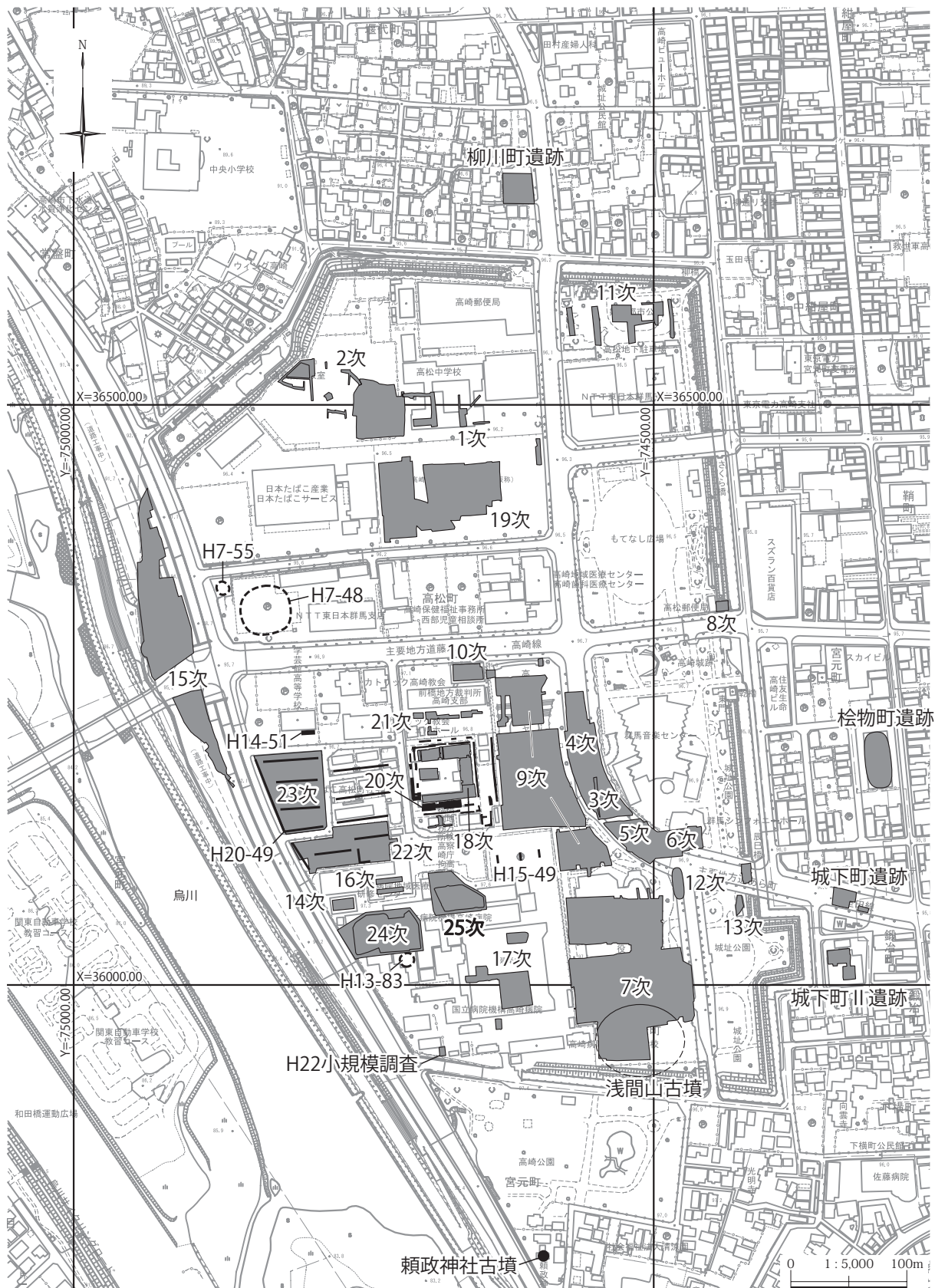
本遺跡は市街地の中にあり公的な建物が多数建つ地域で、本調査区の現況は独立行政法人国立病院機構高崎総合医療センターの駐車場である。標高は97m前後で、概ね平坦である。

第2節 高崎城遺跡の既往の調査

高崎城遺跡の発掘調査は、高松中学校校舎建設に伴い昭和60年に第1次調査として実施された。以降公共・公的施設の建設に伴い実施された発掘調査を中心に行われ、今回の調査が第25次調査にあたる。前回の第24次の発掘調査報告書でこれまでの高崎城遺跡の発掘調査の概要がまとめられているので、今回の概要を加えて掲載する（第1表・第2表）。



第1図 遺跡位置図 (1/25,000)



2500分の1『高崎市都市計画基本図』を50%縮小し、これまでの調査区を合成した図である。調査区の座標が不明なものなどがあるため、8・11・12次調査、及び松物町遺跡・柳川町遺跡試掘調査・小調査についてはおおむねの位置を示している。
 凡例：H13の「H」は平成の略。続く数字は、当該年度の試掘確認調査番号で、市内遺跡発掘調査報告に掲載された情報に一致する。

第2図 高崎城遺跡発掘調査位置図(1/5,000)

第1表 高崎城遺跡発掘調査一覧

調査	調査年	調査原因	概要	文献
1次	昭和60年	高松中学校校舎建設	二ノ丸堀の一部を検出。堀の上幅20m、その埋土は、堀の内側から黄褐色土と褐色土とが互層をなし、土塁を崩して内側から埋めたことを推察。	1
2次	昭和61年	高松中学校校庭築造	赤坂中門前面付近の土橋および榎廓堀を検出。土橋は地山掘削ではなく、石製暗渠を埋設して土橋としていた。榎廓堀西端は烏川へと貫通していた。	2
3次	昭和63年	都市計画道路高崎駅西口線築造	二ノ丸坪ノ榎形と三ノ丸の一部を調査。坪ノ榎形堀の位置を確認。弥生中期の環濠のほか近世までの遺構を検出。	3
4次	昭和63年 平成元年	都市計画道路高崎駅西口線築造	坪ノ榎形堀を完掘。藩主居館跡地点を調査。	3
5次	平成元年 ～2年	都市計画道路高崎駅西口線築造	三ノ丸部分で御作事方関連の建物の可能性がある大型礎石建物を検出。東門付近で三ノ丸土塁の調査。また、三ノ丸部分で弥生中期後半の方形周溝墓を検出。	3
6次	平成元年	群馬シンフォニーホール建設	5次調査の大型建物の一部を検出。土坑から近世後期の陶磁器が大量に出土。	4
7次	平成2年	高崎市役所新庁舎建設	弥生中期後半の環濠および浅間山古墳周溝を検出。古代および中世、高崎城関連の遺構、十五連隊建物を検出。	5
8次	平成2年	高松郵便局建替	追手門北脇部分の調査。石組の側溝を検出。	6
9次	平成3年	高崎市役所新庁舎（高崎シティギャラリー）建設	弥生中期後半の環濠および古代、中世の遺構を検出。二ノ丸堀、梅ノ木廓堀を検出。二ノ丸堀の一部で障子堀を確認。そのほか十五連隊建物を検出。	5
10次	平成3年	前橋地方家庭裁判所高崎支部構内建物増築	梅ノ木郭部分の調査。近世の土塁直下と思われ、中世和田城および馬上宿に関連すると思われる石積土坑、池状遺構、井戸等を検出。	7
11次	昭和63年	市営高松地下駐車場・友好姉妹都市公園建設	浅間B軽石下水田および柱穴内に礎板を持つ大型建物を検出。幕末頃の藩主級住居に付随する建物の可能性。鍋島藩窯の花籠文裏白五寸皿が出土。調査次番号が無かったため後年追加。	8
12次	平成5年	都市計画道路高松若松線改築	弥生中期後半の環濠および近世の遺構を検出。大河内家の家紋が入った陶器碗を出土。	9
13次	平成5年	城址公園公衆便所建設	中世の水路、土坑を検出。土坑からは五輪塔、板碑、青磁碗が出土し、墓壇の可能性もある。近世の遺構も検出。	9
14次	平成8年	国立高崎病院（当時）研修棟建設	古墳時代滑石製品の未製品および剥片、原石が1,000点以上出土。二ノ丸堀の一部（南端付近）を検出。	10
15次	平成14年	国道17号（高松立体）改築	西郭部分周辺の調査。絵図に記載された東西方向の堀のほか、本丸堀とこれ以前の堀を検出。また和田城櫓台と考えられた部分が、16世紀末（高崎城築造期？）の盛土であると確認。	11
16次	平成15年	国立高崎病院（当時）仮設病棟建設	二ノ丸堀？を検出。3棟の掘立柱建物を検出。	12
17次	平成17年	国立病院機構高崎総合医療センター建設	三ノ丸部分（興禅寺・威徳寺付近）の調査。中近世の遺構を検出。遺物は弥生および平安時代が中心。	13
18次	平成20年 ～21年	高崎法務総合庁舎建設	十五連隊第三兵舎の基礎を検出。	14
19次	平成20年 ～21年	高崎市総合保健センター・高崎市立中央図書館建設	本丸堀・二ノ丸堀・榎廓の堀・井戸・溝・土坑等を検出。大河内家の家紋入り鬼瓦出土。古墳時代石田川式の土器・埴輪が出土。中世の溝・井戸・土坑から土器の出土。	15
20次	平成23年	前橋地方検察庁高崎法務総合庁舎建替	十五連隊第三兵舎の基礎を検出。古代の鬼瓦出土。	16
21次	平成24年	前橋地方家庭裁判所高崎支部庁舎耐震改修工事	梅ノ木郭埋門の南堀及び南岸の一部を検出。幕末～明治初期の陶磁器出土。	17
22次	平成26年	国立病院機構高崎総合医療センター看護学校建設	西郭堀・二ノ丸外堀を検出。古代の軒丸瓦を出土。中世、和田城の堀・井戸・溝・土坑から土器の出土。十五連隊の建物の基礎を検出。	18
23次	平成27年	創価学会会館建設	歩兵第十五連隊煉瓦造り火薬庫2基・道・水路・石垣・土塁を検出。近世高崎城新発見の堀割、中世和田城堀割を検出。輪宝墨書土器・古代布目瓦多数出土。	19
24次	平成28年 ～29年	国立病院機構高崎総合医療センター	高崎陸軍病院。高崎城二ノ丸南堀。和田城薬研堀。平安～古墳時代集落。古墳時代滑石等玉作工房址。	20
25次	平成29年	国立病院機構高崎総合医療センター病棟建設	南中門より西側の高崎城二ノ丸南堀の東端部を検出。「威徳寺」と刻書された瓦が出土。	21 本書

第2表 高崎城遺跡発掘調査報告書一覧

	文責	発行	遺跡名・調査報告書	調査主体	調査
1	高崎市教育委員会	1986	『高崎城跡』 仮称・高松中学校建設に伴う発掘調査の略報	高崎市教育委員会	1次
2	久保泰博	1988	『高崎城遺跡Ⅱ 榎郭並びに三ノ丸北西部』 高崎市文化財調査報告書第81集	高崎市教育委員会	2次
3	久保泰博・高橋淳 田村孝・山田史仁	1990	『高崎城遺跡Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ 坪ノ枳形遺跡・坪ノ枳形及び三ノ丸遺跡・ 東門及び三ノ丸遺跡』都市計画道路高崎駅西口線建設に伴埋蔵 文化時緊急発掘調査概報 高崎市文化財調査報告書第107集	高崎市教育委員会	3次 4次 5次
4	高橋淳・山田史仁	1990	『高崎城Ⅵ 三ノ丸遺跡』 群馬シンフォニーホール建設に伴う埋蔵文化財緊急発掘調査 概報 高崎市文化財調査報告書第104	高崎市教育委員会	6次
5	中村茂	1994	『高崎城Ⅶ・Ⅸ 高崎城三ノ丸遺跡』 -高崎市役所新庁舎建設に伴う埋蔵文化財の発掘調査- 高崎市文化財調査報告書第129集	高崎市教育委員会	7次 9次
6	高崎市教育委員会	1992	『高崎城Ⅷ(追手門)遺跡』 高崎市文化財調査報告書第121集	高崎市教育委員会	8次
7	黒沢元夫	1993	『高崎城Ⅹ 高崎城梅ノ木郭遺跡』 前橋地方家庭裁判所高崎支部庁舎増築事業に伴う 埋蔵文化財発掘調査概報	高崎市遺跡調査会	10次
8	横倉興一・星野守弘	1989	『高崎市内遺跡緊急埋蔵文化財発掘調査報告書』 高崎市文化財調査報告書第93集	高崎市教育委員会	11次
9	中村茂・神戸肇	1994	『高崎城ⅩⅡ・ⅩⅢ 三ノ丸遺跡』『高崎市内遺跡埋蔵文化 財緊急発掘調査報告書』 高崎市文化財調査報告書第131集	高崎市教育委員会	12次 13次
10	折原洋一	1997	『高崎城ⅩⅣ遺跡』 高崎市遺跡調査会文化財調査報告書第57集	高崎市遺跡調査会	14次
11	大西雅広	2006	『一般国道17号(高松立体)改築工事に伴う埋蔵文化財 調査報告書 高崎城ⅩⅤ遺跡』 ①群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書第369集	①群馬県埋蔵文化財 調査事業団	15次
12	黒田晃	2003	『高崎城ⅩⅥ遺跡』 高崎市文化財調査報告書第193集	高崎市教育委員会	16次
13	黒田晃	2006	『高崎城ⅩⅦ遺跡』 高崎市文化財調査報告書第206集	高崎市教育委員会	17次
14	秋本太郎他	2011	『高崎城遺跡18』 高崎市文化財調査報告書第279集	高崎市教育委員会	18次
15	黒田晃	2010	『高崎城遺跡19』 高崎市文化財調査報告書第259集	高崎市教育委員会	19次
16	清水豊・飯塚光生	2013	『高崎城遺跡20』 高崎市文化財調査報告書第312集	高崎市教育委員会	20次
17	関晴彦	2013	『高崎城遺跡21』(公財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 調査報告書第574集	(公財)群馬県埋蔵 文化財調査事業団	21次
18	飯塚光生・清水豊	2015	『高崎城遺跡22』 高崎市文化財調査報告書第344集	高崎市教育委員会	22次
19	大塚昌彦・高林真人	2016	『高崎城遺跡23』 高崎市文化財調査報告書第354集	株式会社 測研	23次
20	大塚昌彦	2017	『高崎城遺跡24』 高崎市文化財調査報告書第390集	株式会社 測研	24次
21	高林真人	2018	『高崎城遺跡25』 高崎市文化財調査報告書第408集	株式会社 測研	25次

第3章 調査方法と調査の経過

第1節 調査方法

高崎城遺跡 25 (第 25 次) の発掘調査は、独立行政法人国立病院機構高崎総合医療センターの病棟建設に伴い、現状が変更される場所において工事を行う前に実施された記録保存調査である。開発面積は約 1,340㎡であったが、範囲内に撤去できない既存の排水管が埋設されているため掘り下げることのできない場所があることから、発掘調査面積はその場所を除外した約 690㎡となった。

発掘調査によって生じる廃土の処理は、開発範囲の中で行うことになった。開発範囲内では高崎城の二ノ丸南堀があることが想定されていたため大量の廃土が出るが見込まれたことから、発掘調査は廃土置き場を反転して 2 回に分けて行うこととした。そのため、最初に調査を行った東側を I 区、後から調査を行った西側を II 区とした。

遺構の確認は、近接する前回調査の高崎城遺跡 24 の成果を参考に現表土の除去を重機を使用して掘削し、現表土の下の黄褐色砂質土 (II 層、第 4 章基本土層参照) の上面を人力で削り遺構確認作業を行った。

遺構の掘り込みは、溝跡は残存長のほぼ半分的位置及び切り合っている遺構との新旧関係を把握できる位置に土層観察ベルトを設定し、土坑・井戸跡・ピットは平面形や大きさに応じて適宜半截位置を設定して行った。堀は調査区際で土層観察を行う様にしたため土層観察ベルトを設定せずに掘削を行った。過去の調査事例から堀は深さが 4 m ほどになることが明らかだったので、平面形が確認できた後、堀東壁・南壁際及び底面際を残して重機での掘削を行った。堀底が深いこと、かつ湧水が想定されたことから調査区北壁は一割勾配を付けて掘削し、I 区調査区西壁及び II 区調査区東・西壁では段掘りを行った。堀の掘削を進めると多量の水が湧出した。そのため堀内部に釜場を設定し水中ポンプを使用して 24 時間排水処置を行いながら調査を進めていった。

堀の底部に関して、I 区調査区に於いては廃土置き場の容量が不足する状況であったことから、すべてを掘削する必要はなく、堀東端部及び I 区調査区西端部の調査を行い、その間の部分は推定線で結ぶことで問題はないと高崎市教育委員会の了承を得た。

遺物の取り上げは、遺存状態の良い遺物は座標値を測量して取り上げ、それ以外の遺物は遺構覆土で取り上げた。堀の覆土は、上層が黄褐色を主体とする人為堆積土、下層が黒褐色を主体とする自然堆積土に分かれていることが確認できた。また下層には天明 3 年 (1783 年) の浅間山噴火の際に降下した火山噴出物 (A s - A 軽石) の純層が挟まれていることも確認された。下層の自然堆積土からは多量の遺物が出土したためその土を分けて置いておき、後から遺物の採集を行い下層出土遺物として扱った。黄褐色主体の人為堆積土を上層、黒褐色主体の自然堆積土を下層として取り上げ、明確に A s - A 軽石層からの出土と認められたものは A 軽石層出土として取り上げた。また、人力で精査した堀壁際からの出土遺物は、南壁で取り上げた。

遺構の記録は、遺構実測図作成及び写真撮影を実施している。遺構実測図は光波測距儀を用いて全体図を 1/200、遺構平面図を 1/40、土層断面図を 1/20 の縮尺で図化した。写真撮影は 35mm 小型一眼レフカメラと約 1800 万画素のデジタル一眼ノンフレックスカメラを使用して行った。35mm カメラはモノクローム・カラーリバーサルフィルムを使用し、ともに同一カットで露出を変えて 3 枚 1 単位で撮影を行った。また、小型無人航空機 (ドローン) による空中写真撮影を実施し、ブローニー版中型カメラでカラーリバーサルフィルム、デジタルカメラでの撮影を行った。

第2節 調査の経過

平成 29 年 7 月 23 日、開発範囲の外周に仮バリケードを設置し、開発範囲内の樹木の伐採を行う。7 月 24 日、開発範囲のアスファルト切断を行う。7 月 25 日、開発範囲内のアスファルト・コンクリート・外灯の除去作業を開始する。7 月 28 日、プレハブ・トイレ搬入。

8 月 1 日、開発範囲内のアスファルト・コンクリート・外灯の撤去作業が終了。開発範囲外周に A 型バリケード

ドを設置する。開発範囲の仮囲いの準備が整わなかったため作業を一時中断する。8月9日、仮囲い設置作業を行う。8月17日、I区調査区の表土掘削を開始する。8月18日、堀の掘削を開始する。8月21日、遺構確認作業を開始し、堀の東壁・南壁の精査を開始する。堀底が深く重機のアームが届かないため、一旦堀の掘削を中断する。後日、堀底まで掘り下げることとなった。8月22日、溝跡・土坑・井戸跡などの遺構精査を行う。8月30日、I区調査区の空中写真撮影を実施する。高崎市教育委員会に堀下部を除くI区調査区の終了確認を受け、8月31日から堀下層の掘削を開始する。

9月4日、I区調査区堀底部の調査が終了し、高崎市教育委員会の終了確認を受ける。9月5日、I区調査区の埋め戻しを行う。9月7日、I区調査区の埋め戻しが終了する。9月8日、II区調査区の表土掘削・堀掘削を開始する。9月9日、II区調査区の堀精査を開始する。9月13日、遺構確認作業を実施、II区調査区は後世のカクランが激しく、遺構は残っていなかった。9月19日、高崎市教育委員会からII区調査区の調査終了の確認を受ける。9月21日、II区調査区の空中写真撮影を実施する。9月22日、発掘調査道具の片付け作業を行う。9月26日、II区調査区の埋め戻し開始する。9月28日、コンクリート基礎・パイル杭の搬出作業を実施する。9月30日、II区調査区の埋め戻しが終了。

10月13日、開発範囲の仮囲いの撤去を行う。10月16日、プレハブ・トイレを搬出する。発掘調査に伴う全ての作業が終了した。

第4章 確認された遺構と遺物

第1節 遺構の分布と基本土層

遺構分布 今回の高崎城遺跡25の発掘調査では、近代の土坑2基（SK05・06）、近世の高崎城二ノ丸南堀、土坑3基（SK01・02・04）、溝跡1条（SD04）、中世と思われる井戸跡1基（SE01）、溝跡1条（SD03）、平安時代と思われる溝跡1条（SD01）、時期不明の土坑1基（SK03）、溝跡1条（SD02）、ピット3基（P01～03）が確認された。今回の調査範囲は後世のカクランを多く受けており、遺存状況は非常に悪いものであった。堀を除くすべての遺構はI区調査区で確認され、II区調査区ではカクランを受けていた面がI区調査区よりも深かったため二ノ丸南堀以外の遺構は壊されてしまったと考えられる。

土坑・井戸跡・ピットの分布は、近代の土坑2基と中世の井戸跡は二ノ丸南堀の東端部で確認されている。近代土坑は堀が埋められてから、中世井戸跡は堀が造られる前に造られたものと考えられる。その他の土坑・ピットは、P02・03が堀付近、SK01～04、P01は調査区南壁際に分布する。カクランの影響を受けているため分布の傾向を見ることは困難である。

溝跡の分布は、SD01が堀と平行、SD03が堀と直交する方向で堀付近に、SD02・04が堀とほぼ平行する方向で調査区南壁際で確認されている。SD01・02は溝幅、方向がほぼ同じであることから、一連の遺構の可能性はある。SD04は堀とほぼ平行していることから、堀と関係する遺構の可能性はある。

基本土層 I層は現代の碎石層、I'層は現代の盛土層である。II層は明黄褐色砂質土である。この土層面で遺構確認を行った。カクランを受けているため面は一定ではなく、場所によって遺構を確認した高さが異なる。III層は浅黄色砂質シルトである。堀の壁面で確認したところ黄色系の砂質土が厚く堆積し、堀底付近で緑灰色のシルト質砂となる。

第2節 高崎城二ノ丸南堀

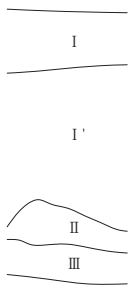
今回の発掘調査では、高崎城二ノ丸の南中門より西側に位置する二ノ丸南堀の一部が確認された。堀東端部の南側約1/3の幅で、長さ約30m分が確認され、南隅部東壁及び南壁、底面の一部が明らかとなった。

高崎城二ノ丸南堀（第3図～第33図、写真図版2～5・8～13）

位置 調査区北壁際。**重複関係** SK05・SK06・SE01と重複する。SK05・SK06より古く、SE01より新しい。**遺存状態** 大半が調査区外にある。上端部がカクランにより削平されているが、概ね良好。



A L=97.50m A'



基本土層

- I . 碎石層
- I' . 10YR4/3 にふい黄褐色土 しまり強 粘性弱 黄褐色土粒・白色軽石 (φ 5mm)・礫(φ 5cm)少量、礫(人頭大)微量含む、後世のカクラン。
- II . 10YR6/6 明黄褐色砂質土 しまり硬い 粘性弱 酸化鉄(φ 1cm・粒)少量、白色軽石(φ 1cm)微量含む。
- III . 5Y7/3 浅黄色砂質シルト しまり強 粘性中 白色軽石(φ 5mm)多量、白色軽石(φ 1cm)少量、酸化鉄(φ 5mm・粒)微量含む。

0 1:40 1m

第3図 調査区全体図・基本土層図 (1/300・1/40)

覆土 上層は黄褐色土を主体とする人為堆積土、下層は黒褐色砂質シルトなどが主体の自然堆積土が堆積する。上層の黄褐色土は、北側が高く南側へ傾斜する土層が何層にもわたって堆積している状況が見て取れる。大量の黄褐色土が堆積していること、北側から南側へ傾斜している状況から、堀北側にあった土塁の土を利用して北側から逐次土を流し入れた状況を示していると考えられる。堀東端部では、黄褐色土の前に黒褐色土で埋められていた状況が確認された。下層は、堀底面の南壁際で水が流れている状態の水成堆積土と考えられる土と地山に似た土が交互に堆積している状況が確認された。このことから、堀が造られてからしばらくの間は水の流れがある状況であり、その間に堀の壁が数回崩れたと想定することが出来る。その上には堀幅全域にわたるとされる水の流れが停滞した状態の水成堆積土と考えられる土が70cmほど堆積しており、長期間にわたって水の流れが滞っていたとみられる。その土は間に1783年(天明3年)の浅間山噴火の際に降下したAs-A軽石の純層が堆積している。

平面形と規模 平面形はほぼ東西方向に走る直線的な堀で、東端部が確認されている。規模は上端幅12.4m、長さ30.1mが確認された。確認面から底面までの深さは3.99mを測る。

長軸方向 N-84°-E。

壁面 南壁が確認されており、下部1/3がI区調査区西壁で52°、II区調査区西壁で59°の傾斜で立ち上がり、上側2/3がともに35°の傾斜で大きく傾いて立ち上がる。堀内部に壁面の崩落土と思われる堆積土が見られることから、本来は一律50°以上の傾斜であったものが時間の経過に伴い壁が崩落し、安定する現況の傾斜になったものと考えられる。堀東端部では、壁面中位に幅80cmほどの犬走りのような平坦な場所が確認された。

底面 堀が調査区北側で確認されたこと、崩落を防ぐため調査区北壁側は一割勾配を付けて掘削を行ったため、確認できた底面はごくわずかであった。底面の標高は、東端部が92.86m、II区調査区西端部が92.78mで、東西方向で比高差はほとんど見られない。南北方向では南壁際と中央寄りがわずかに低くなっているが、概ね平坦といえる。堀を築造した際に講じた排水処置と考えられる。堀底は礫を少量含む緑灰色シルト質砂である。

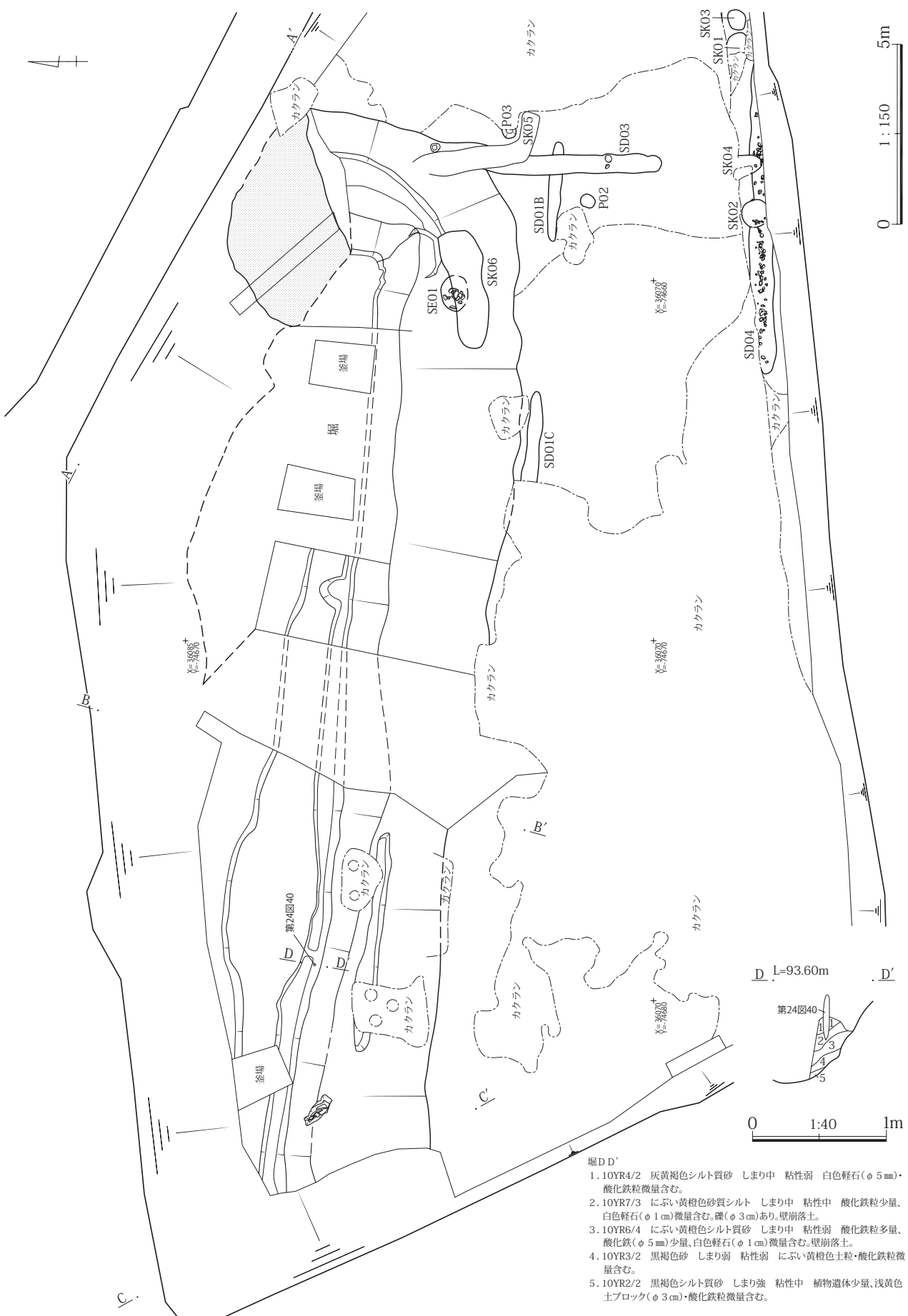
遺物 上層からも遺物は出土しているが、大半が下層から出土している。出土した遺物は、陶磁器、土師質土器、須恵器、土師器、弥生土器、縄文土器の土器類のほか、近世・近代瓦、古代瓦、木製品、金属製品、石製品と多岐にわたり、タバコ21箱分と大量に出土した。

第8図～第15図は近世遺物の土器類を掲載した。第8図1～第10図66が碗類で、第8図1が青磁染付、第8図2～第9図36が染付、第9図37が色絵、第9図38～41が白磁、第9図42～第10図61が陶磁器、第10図62～64が焼締め陶器である。第10図65は染付小坏、第10図66は陶器小坏である。染付は器形にバリエーションが見られ、小型のものも多く見られる。また、多種多様の絵付けがされているが、第8図14・15や第8図19・20のように同じ意匠のものでも出来に差がある遺物も見られた。第8図14・15は内面見込みに「文化年製」と書かれていたと思われる。第9図52は織部焼の四方筒向付と思われる。細長い四角形の筒形をした器形である。第10図61は美濃焼と思われる小型の半筒碗で、底部に「●●●● 鳥居氏」と墨書されている。最初の2文字は「卯一四日●●」と読むことが出来るのではないか。また『元禄十四年十一月高崎藩新規召抱家臣書上』ほか複数の近世文書に複数の鳥居姓の人名が見られることから、それらの人物または家族・親類が関わるものと思われる。

第10図67～72は染付の蕎麦猪口である。大・中・小と大きさに違いが見られる。第10図68は細かく割れたものを漆継ぎで補修されていたものである。

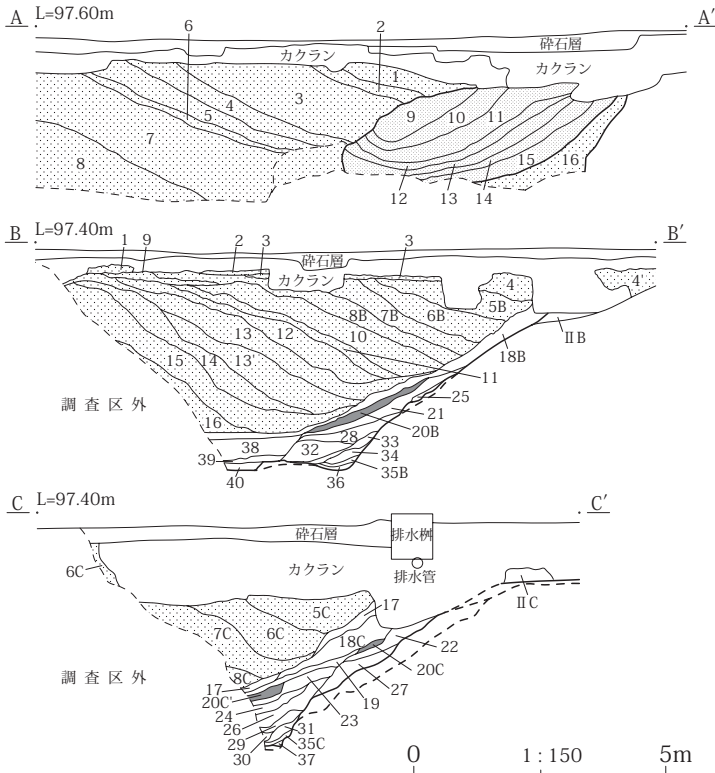
第10図73～第11図90は皿で、第10図73～76が染付、第10図77・78が青磁、第10図79～81が白磁、第10図82～84が陶器、第10図85が焼締め陶器、第11図86～91が土師質土器かわらけである。第10図73はほぼ完形の染付である。内面に松と鶴という縁起の良い図柄が描かれており、口唇部に鉄錆釉が施されていることから、特別な日に使用されたものかと思われる。第10図80・81は内面に陽刻で文様が施されている。第10図84は木葉型で、陰刻で外面に網目模様、内面に葉脈模様が描かれている。

第11図92～99は蓋で、第11図92が青磁染付、第11図93～98が染付、第11図99が陶器である。第11図93は外面見込みに「萬暦年製」、第11図94は内面見込みに「万延年製」と書かれている。第11図98・99は合子の蓋と思われる。



第4図 高崎城二ノ丸南堀平面図・断面図①

- 堀 D D'
1. 10YR4/2 灰黄褐色シルト質砂 しまり中 粘性弱 白色軽石(φ 5mm)・酸化鉄粒微量含む。
 2. 10YR7/3 にぶい黄橙色砂質シルト しまり中 粘性中 酸化鉄粒少量、白色軽石(φ 1cm)微量含む。礫(φ 3cm)あり、壁崩落土。
 3. 10YR6/4 にぶい黄褐色シルト質砂 しまり中 粘性弱 酸化鉄粒多量、酸化鉄(φ 5mm)少量、白色軽石(φ 1cm)微量含む。壁崩落土。
 4. 10YR3/2 黒褐色砂 しまり弱 粘性弱 にぶい黄橙色土粒・酸化鉄粒微量含む。
 5. 10YR2/2 黒褐色シルト質砂 しまり強 粘性中 植物遺体少量、浅黄色土ブロック(φ 3cm)・酸化鉄粒微量含む。



黄褐色人為埋土
 黒褐色人為埋土
 As-A軽土純層

堀A'

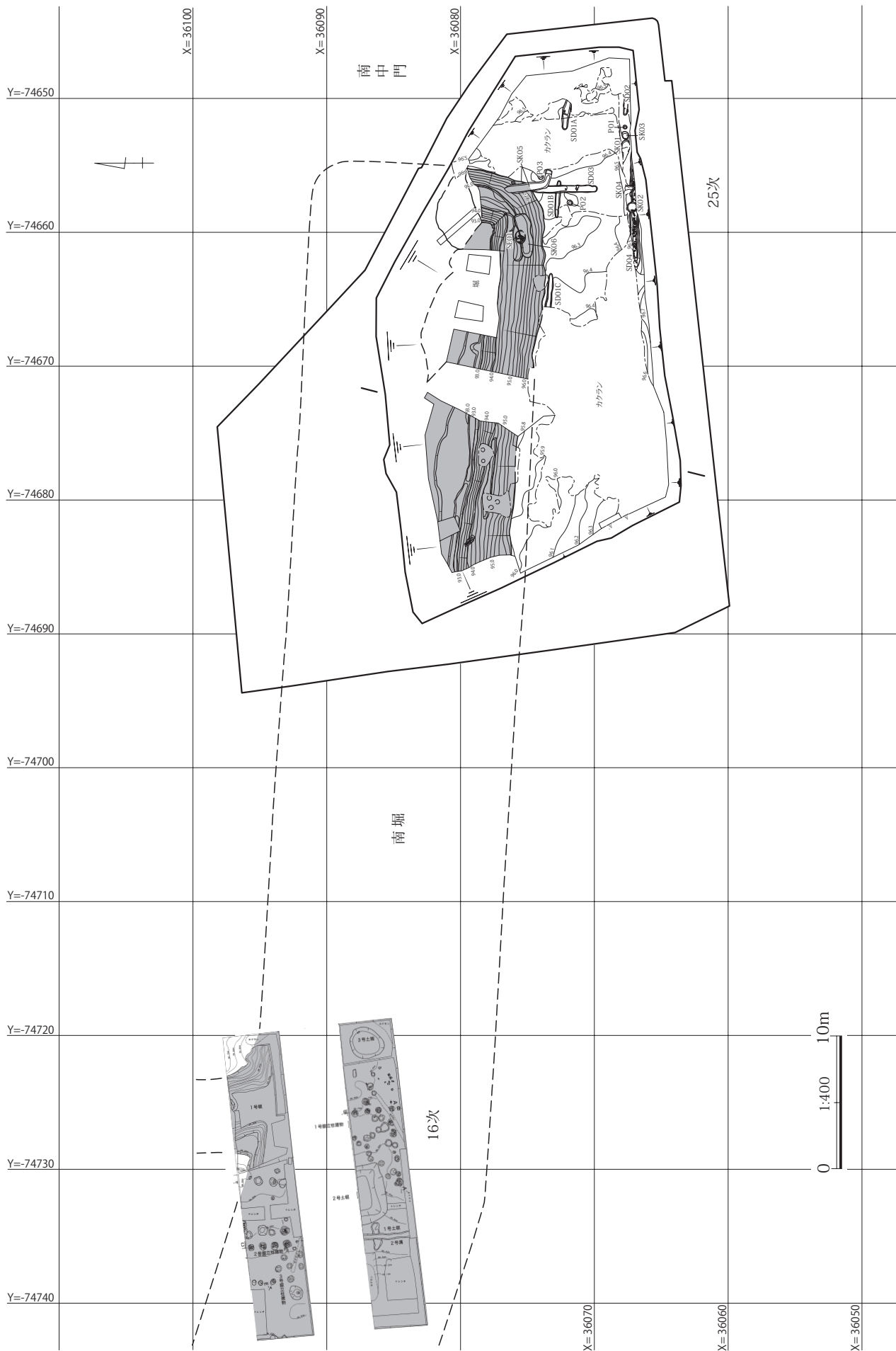
1. 10YR6/4 黄褐色砂質シルト しまり中 粘性弱 白色軽石(φ1cm)・礫(φ1cm)多量、礫(φ3~5cm)少量、礫(拳大)微量含む。人為堆積土。
2. 10YR4/3 黄褐色土 しまり中 粘性なし 白色軽石(φ1cm)少量、ロームブロック(φ3cm)・礫(φ3cm)微量含む。人為堆積土。
3. 10YR6/4 黄褐色砂質シルト しまり中 粘性弱 白色軽石(φ1cm)多量、礫(φ3~5cm)少量、炭化物(φ1cm)・焼土粒(φ3mm)・酸化鉄粒・礫(拳大)微量含む。人為堆積土。
4. 10YR3/3 暗褐色土 しまり中 粘性なし 白色軽石(φ1cm)少量、ロームブロック(φ1cm)・礫(拳大・φ1cm)微量含む。人為堆積土。
5. 10YR5/4 黄褐色粘質土 しまり強 粘性中 白色軽石(φ1cm)多量、礫(φ1~3cm)少量、酸化鉄(φ1cm)・礫(拳大)微量含む。人為堆積土。
6. 10YR3/3 暗褐色土 しまり強 粘性中 ロームブロック(φ1cm)・白色軽石(φ1cm)少量、酸化鉄(φ1cm)・礫(φ1~3cm)微量含む。人為堆積土。
7. 10YR5/3 黄褐色粘質土 しまり強 粘性中 白色軽石(φ1cm)多量、酸化鉄(φ1cm)少量、暗褐色土ブロック(φ3cm)・礫(φ3~5cm・φ1cm)微量含む。人為堆積土。
8. 10YR6/4 黄褐色粘質土 しまり強 粘性中 白色軽石(φ1cm)多量、酸化鉄(φ1cm)少量、暗褐色土ブロック(φ1~3cm)・酸化鉄(φ3cm)・礫(拳大・φ5cm)微量含む。人為堆積土。
9. 10YR3/2 黒褐色土 しまり中 粘性なし ロームブロック(φ1cm)・炭化物(φ1cm)少量、炭化物粒・焼土粒(φ5mm)・礫(φ1cm)微量含む。人為堆積土。
10. 10YR3/2 黒褐色土 しまり中 粘性なし ローム粒・炭化物(φ5mm)少量、ロームブロック(φ1cm)・炭化物(φ1cm)・焼土粒・礫(φ5mm)微量含む。人為堆積土。
11. 10YR2/3 黒褐色土 しまり中 粘性弱 炭化物(φ5mm)・焼土粒(φ3mm)・礫(φ5cm)少量、ローム粒・白色軽石微量含む。人為堆積土。
12. 10YR2/3 黒褐色土 しまり中 粘性弱 ローム粒多量、ロームブロック(φ3cm)・炭化物(φ5mm・φ1cm)・焼土粒(5mm)微量含む。白色粘土(φ1cm)あり。人為堆積土。
13. 10YR2/3 黒褐色土 しまり中 粘性なし ローム粒・炭化物(φ5mm・φ1cm)・焼土粒(φ5mm)・礫(φ5cm)微量含む。人為堆積土。
14. 10YR2/3 黒褐色土 しまり中 粘性弱 焼土粒(φ3mm)少量、ロームブロック(φ1cm)・ローム粒・炭化物粒・礫(φ3cm)微量含む。人為堆積土。
15. 10YR2/3 黒褐色土 しまり中 粘性弱 ローム粒少量、炭化物(φ3mm・φ1cm)・焼土粒(φ5mm)・礫(φ3cm)微量含む。人為堆積土。
16. 10YR3/3 暗褐色土 しまり強 粘性中 ロームブロック(φ5mm)・ローム粒・炭化物(φ5mm)・白色軽石(φ5mm)・酸化鉄(φ1cm)・礫(φ1~3cm)微量含む。人為堆積土。

堀B'・C'

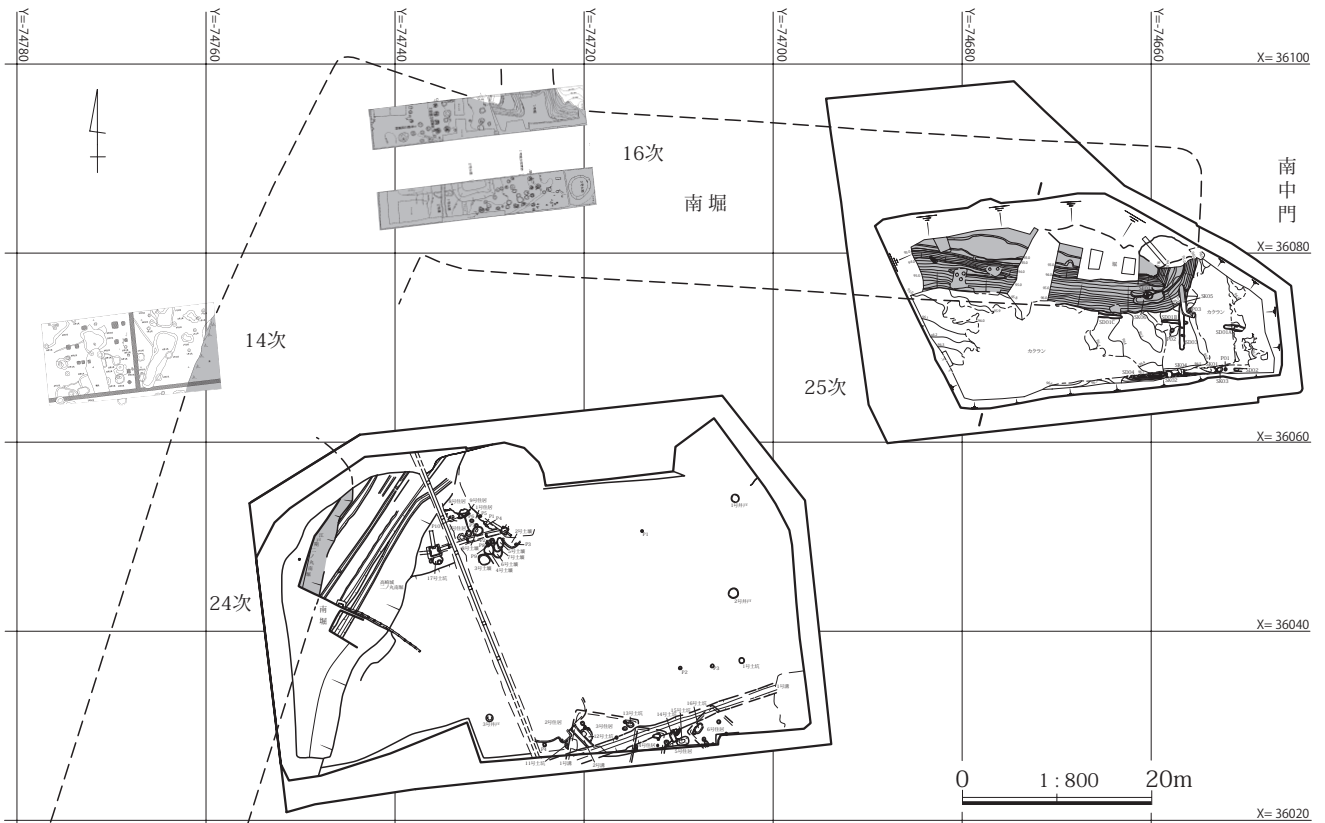
1. 10YR6/6 明黄褐色砂質土 しまり強 粘性なし 白色軽石(φ1cm)多量、黄褐色土ブロック(φ3cm)・焼土粒(φ5mm)・酸化鉄(φ5mm)微量含む。人為堆積土。
2. 10YR5/4 黄褐色砂質土 しまり強 粘性なし 白色軽石(φ1cm)多量、酸化鉄(φ1cm)少量、黄褐色土ブロック(φ1cm)微量含む。人為堆積土。
3. 10YR3/3 暗褐色粘質土 しまり強 粘性弱 白色軽石(φ1cm)少量、炭化物粒・白色軽石(φ5mm)・酸化鉄(φ1cm)・礫(φ1~3cm)微量含む。人為堆積土。
4. 10YR5/3 黄褐色砂質土 しまり強 粘性弱 白色軽石(φ1cm)・酸化鉄(φ1cm)・礫(φ5mm)微量含む。人為堆積土。
- 4' . 2.5Y7/4 浅黄褐色粘質土 しまり強 粘性中 黄褐色土粒少量、白色軽石(φ1cm)・酸化鉄(φ5mm)微量含む。人為堆積土。
- 5B. 10YR5/4 黄褐色粘質土 しまり強 粘性中 黄褐色土ブロック(φ1cm)・白色軽石(φ1cm)・酸化鉄(φ5mm)・礫(φ5cm)微量含む。人為堆積土。
- 5C. 10YR5/4 黄褐色土 しまり強 粘性弱 暗褐色土粒下部に多量、ローム粒・白色軽石(φ1cm)少量、ロームブロック(φ5mm)・暗褐色土ブロック(φ1cm)・礫(φ5cm)微量含む。人為堆積土。
- 6B. 10YR6/4 黄褐色粘質土 しまり強 粘性弱 黄褐色土ブロック(φ5mm)・黒褐色土ブロック(φ1cm)・白色軽石(φ5mm)・酸化鉄(φ1cm)・礫(φ3cm)微量含む。人為堆積土。
- 6C. 10YR6/4 黄褐色土 しまり強 粘性弱 黄褐色土粒・白色軽石(φ1cm)少量、黄褐色土ブロック(φ5mm)・黄褐色土粒・暗褐色土ブロック(φ5cm・φ5mm)・白色粒(φ5mm~1cm)・酸化鉄(φ5mm)・礫(拳大・φ3cm)微量含む。人為堆積土。
- 7B. 10YR5/3 黄褐色粘質土 しまり強 粘性中 黄褐色土ブロック(φ5mm)・黒褐色土粒・白色軽石(φ1cm)・酸化鉄(φ1cm)少量、黄褐色土粒・黒褐色土ブロック(φ1cm)・礫(φ3cm)微量含む。礫(拳大)あり。人為堆積土。
- 7C. 10YR7/6 明黄褐色土 しまり強 粘性中 黄褐色土粒・白色軽石(φ5mm)少量、黄褐色土ブロック(φ5cm)・炭化物粒・白色軽石(φ1cm)・酸化鉄(φ3~5cm)微量含む。暗褐色土ブロック(φ5cm)あり。人為堆積土。
- 8B. 10YR6/4 黄褐色粘質土 しまり強 粘性弱 白色軽石(φ1cm)少量、黄褐色土ブロック(φ1cm)・黒褐色土ブロック(φ1cm)・黒褐色土粒・酸化鉄(φ1cm)・礫(φ3cm)微量含む。礫(拳大)あり。人為堆積土。
- 8C. 10YR7/3 黄褐色土 しまり強 粘性中 暗褐色土粒多量、礫(φ3cm)少量、白色軽石(φ1cm)・酸化鉄(φ5mm)・礫(拳大)微量含む。人為堆積土。
9. 10YR4/3 黄褐色砂質土 しまり強 粘性なし 白色軽石(φ1cm)少量、酸化鉄(φ1cm)・礫(φ5cm)微量含む。人為堆積土。
10. 10YR6/4 黄褐色粘質土 しまり強 粘性中 黒褐色土ブロック(φ1cm)・白色軽石(φ5mm)少量、黒褐色土粒・白色軽石(φ1cm)・酸化鉄(φ1cm・φ5mm)・礫(φ3cm)微量、黒褐色土ブロック(φ5mm)ごく微量含む。礫(人頭大)あり。人為堆積土。
11. 10YR5/4 黄褐色粘質土 しまり強 粘性中 黄褐色土粒・黒褐色土ブロック(φ1cm)・白色軽石(φ5mm)・酸化鉄(φ1cm)少量、黄褐色土ブロック(φ1cm)・黒褐色土粒・黒褐色土ブロック(φ1cm)・白色軽石(φ1cm・φ5mm)・酸化鉄(φ1cm)・礫(φ3cm)微量含む。人為堆積土。
12. 10YR6/3 黄褐色粘質土 しまり強 粘性中 黒褐色土ブロック(φ1cm)・白色軽石(φ1cm)・酸化鉄(φ1cm)少量、黄褐色土ブロック(φ1cm)・黒褐色土ブロック(φ3cm・φ5mm)・黒褐色土粒・炭化物(φ1cm)・礫(φ1cm)微量含む。礫(φ5cm)あり。人為堆積土。
13. 10YR5/4 黄褐色粘質土 しまり強 粘性弱 黄褐色土ブロック(φ3cm)・黒褐色土ブロック(φ1cm)・白色軽石(φ1cm)・酸化鉄(φ1cm)少量、黄褐色土粒・黒褐色土ブロック(φ3~7cm・φ5cm)・酸化鉄(φ1cm)微量含む。黒褐色土ブロック(φ10cm)・礫(φ5cm)あり。人為堆積土。
- 13'. 10YR4/3 黄褐色粘質土 しまり強 粘性中 黄褐色土ブロック(φ3cm)・黒褐色土ブロック(φ1~3cm)・白色軽石(φ5mm)・酸化鉄(φ1cm)少量、黄褐色土粒・黒褐色土ブロック(φ5cm)・白色軽石(φ1cm)・酸化鉄(φ5mm)・礫(φ1~3cm)微量含む。人為堆積土。
14. 10YR4/3 黄褐色粘質土 しまり強 粘性弱 黒褐色土ブロック(φ1cm)・黒褐色土粒・白色軽石(φ3cm)・φ5mm)・酸化鉄(φ5mm)少量、黒褐色土ブロック(φ3cm)・黒褐色土粒・炭化物(φ1cm)・白色軽石(φ1cm)・礫(φ5cm)微量含む。人為堆積土。
15. 10YR5/4 黄褐色粘質土 しまり強 粘性中 黒褐色土ブロック(φ3~5cm・φ1cm)・黒褐色土粒・酸化鉄(φ1cm)・礫(φ1cm)少量、黒褐色土ブロック(φ10cm)・白色軽石(φ1cm・φ5mm)・酸化鉄(φ5mm)・礫(φ3cm)微量含む。黄褐色土ブロック(φ5cm)あり。人為堆積土。

16. 10YR4/3 黄褐色土 しまり強 粘性なし 黒褐色土ブロック(φ3cm)・白色軽石(φ1cm)・酸化鉄(φ1cm)・礫(拳大)少量、黒褐色土ブロック(φ5cm)・黒褐色土粒微量含む。人為堆積土。
17. 10YR3/3 暗褐色砂質土 しまり弱 粘性なし 酸化鉄(厚さ5mm)底面に少量、ロームブロック(φ1cm)・炭化物(φ5mm)微量、ローム粒微量含む。
- 18B. 10YR3/3 暗褐色土 しまり強 粘性弱 黄褐色土ブロック(φ1cm)・炭化物粒・白色軽石(φ3mm)・酸化鉄(φ5mm)・焼土粒微量含む。黄褐色粘質土ブロック(φ10cm)あり。
- 18C. 10YR4/2 灰黄褐色砂質シルト しまり弱 粘性中 酸化鉄(φ5mm)下部に多量、黄褐色シルトブロック(φ3cm)・黄褐色シルト粒少量、黄褐色シルトブロック(φ3cm)・黄褐色シルト粒・礫(φ3cm)微量含む。礫(φ5cm)あり。
19. 10YR4/2 灰黄褐色砂 しまり弱 粘性なし As-A 軽土多量、炭化物(φ5mm)・酸化鉄粒・礫(φ1~3cm)微量含む。
- 20B. 10YR4/2 灰黄褐色軽石 しまりなし 粘性なし As-A 軽土純層。
- 20C. 2.5Y6/1 黄灰色軽石 しまりなし 粘性なし As-A 軽土純層。
- 20Y. 10YR6/2 灰黄褐色軽石 しまりなし 粘性なし As-A 軽土純層。
21. 10YR4/2 灰黄褐色粘質土 しまり中 粘性弱 酸化鉄多量、酸化鉄(φ1cm)少量、白色軽石(φ5mm)・礫(φ3~5cm)微量含む。礫(拳大)あり。
22. 10YR4/2 灰黄褐色砂質シルト しまり中 粘性強 酸化鉄(φ1cm)少量、黄褐色シルトブロック(φ5mm)・白色軽石(φ5mm)微量含む。
23. 10YR4/2 灰黄褐色砂質シルト しまり中 粘性強 酸化鉄(φ5mm)・礫(φ3cm)少量、白色軽石(φ5mm)微量含む。白色軽石(φ1cm)・礫(φ5cm)あり。
24. 10YR6/2 灰黄褐色シルト質砂 しまり中 粘性弱 酸化鉄(φ1cm)多量、白色軽石(φ5mm)少量、礫(φ3cm)微量含む。炭化物(φ5mm)あり。
25. 10YR4/3 黄褐色粘質土 しまり弱 粘性強 白色軽石(φ5mm)・酸化鉄(φ1cm・φ5mm)微量含む。礫(拳大)あり。
26. 10YR6/3 黄褐色シルト質砂 しまり中 粘性弱 酸化鉄(φ1cm)大量、白色軽石(φ1cm)・礫(φ5cm)微量含む。
27. 10YR7/6 明黄褐色砂質シルト しまり中 粘性中 酸化鉄(φ1cm)多量、酸化鉄(φ3cm)少量、白色軽石(φ1cm)・礫(φ5cm)微量含む。
28. 10YR4/2 灰黄褐色砂質シルト しまり弱 粘性強 酸化鉄多量、黒褐色土ブロック(φ10cm)・酸化鉄(φ1cm)・礫(φ5cm)微量含む。礫(拳大)あり。
29. 10YR4/2 灰黄褐色シルト質砂 しまり弱 粘性弱 酸化鉄粒多量、黄褐色土粒・酸化鉄(φ1cm)・礫(φ3~5cm)微量含む。
30. 2.5Y5/2 暗灰黄色砂質シルト しまり弱 粘性強 暗緑灰色礫(φ1cm、地山に含まれる)微量含む。
31. 10YR6/2 灰黄褐色砂質シルト しまり弱 粘性中 黄褐色土粒帯状に・酸化鉄(厚さ1cm)帯状に少量、白色軽石(φ1cm)微量含む。
32. 10YR5/3 黄褐色シルト質砂 しまり中 粘性強 酸化鉄粒多量、黒褐色土ブロック(φ3cm)・白色軽石(φ5mm)微量含む。
33. 10YR4/2 灰黄褐色砂質シルト しまり弱 粘性強 酸化鉄粒少量、白色軽石(φ3mm)微量含む。
34. 2.5Y5/2 暗灰黄褐色シルト質砂 しまり中 粘性強 酸化鉄粒多量、白色軽石(φ1cm)微量含む。礫(拳大)あり。
- 35B. 10YR2/2 黒褐色シルト しまり弱 粘性強 酸化鉄粒・礫(φ3cm)微量含む。
- 35C. 10YR2/1 黒色砂質シルト しまり弱 粘性中 楠木遺体・砂粒少量含む。
36. 2.5C/Y6/1 黄褐色砂 しまり弱 粘性なし 酸化鉄粒多量、白色軽石(φ1cm)少量含む。
37. 5Y5/1 灰色砂 しまりなし 粘性なし 黄褐色砂微量含む。
38. 10YR3/1 黒褐色シルト しまり弱 粘性強 灰色シルト粒大量、木質遺体(φ2cm)少量、炭化物(φ1cm)・酸化鉄微量含む。
39. 5Y4/1 灰色砂質シルト しまり弱 粘性強 灰色シルト少量、礫(φ5cm)微量含む。
40. 2.5C/Y6/1 オリーブ灰色シルト質砂 しまり弱 粘性弱 浅黄褐色シルト粒・白色軽石(φ5mm)少量、灰色砂質シルト粒・橙粒・酸化鉄粒微量含む。
- II B. 10YR7/4 黄褐色粘質土 しまり中 粘性強 酸化鉄(φ5mm)微量含む。礫(拳大)あり。
- II C. 10YR6/4 黄褐色土 しまり中 粘性中 酸化鉄粒多量、白色軽石(φ5mm)少量、白色軽石(φ1cm)微量含む。

第5図 高崎城二ノ丸南堀断面図②



第6図 高崎城二ノ丸南堀推定平面図① (1/400)



第7図 高崎城二ノ丸南堀推定平面図② (1/800)

第11図100～第12図110は鉢で、第11図100～102は染付、第11図103が青磁、第11図104～第12図109が陶器、第12図110が土師質土器である。第12図111は染付徳利である。第11図100は角鉢と思われる。第11図103は陰刻、第12図109が象嵌で文様が施されている。食膳具は、染付が一番多く出土しているが、他の種類の焼物も多く、当時使用していた食器の多様さを窺い知ることができる。

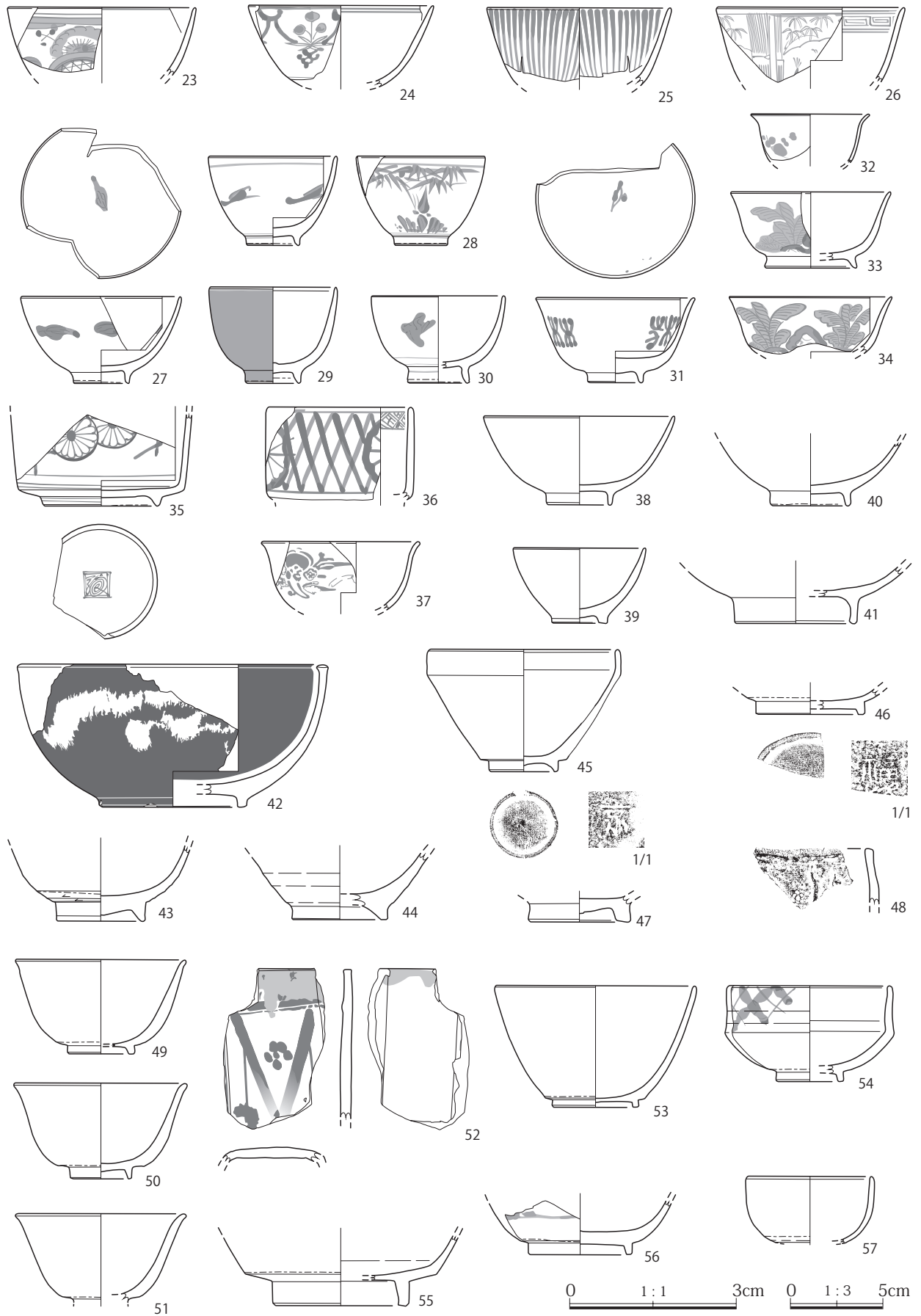
第13図112～第14図140は調理具・貯蔵具を掲載した。第13図112・113は陶器土鍋である。ともに小型と思われ、耳が一方所遺存する。第13図114～122は土師質土器の内耳土器で、第13図114～118はいわゆる内耳鍋、第13図119～122はいわゆる焙烙である。第13図123～125は陶器土瓶、第13図126は陶胎染付の急須、第13図127は染付急須である。第13図128～第14図132は播鉢で、第13図128・132は陶器、第13図129～131は焼締め陶器である。第14図133は土師質土器の焼塩壺、第14図134～136が陶器壺である。第14図134は肩部に耳があることから四耳壺又は三耳壺と思われる。第14図136は小型品で用途は不明である。第14図137は陶器水甕、第14図138・139は焼締め陶器甕、第14図140は陶器半胴である。

第14図141～第15図157は道具類を掲載した。第14図141～143は陶器秉燭、第14図144・145は焼締め陶器灯明皿受皿、第15図146は焼締め陶器、第15図147～149は土師質土器かわらけの灯明皿、第15図150は染付、第15図151は陶器の仏飯器、第15図152・153は土師質土器火鉢、第15図154は陶器香炉である。第15図155は焼締め陶器水滴、第15図156は土師質土器火消壺蓋、第15図157は不明であるが土師質土器火鉢ではないかと考えられる。

第16図・第17図は金属製品・石製品を掲載した。第16図1は真鍮製の矢立である。墨壺と筆筒の一体型であるが、一体型の一般的な形態である柄杓型とは異なり分離型の筆筒内に墨壺が含まれるような形態となっている。江戸時代後期の随筆『世の姿』に「天明の末までは真鍮にて柄杓の如きものばかりなりしが、寛政年中、印籠矢立といふもの行はれ、筆入れと墨入れとは別にして墨入れは印籠の如く作り、紐を筆入れに通して結び、腰に差せば、墨入れ印籠の如く下るなり。また文化の初めより生赤銅の矢立新製して、是より印籠型真鍮製の物



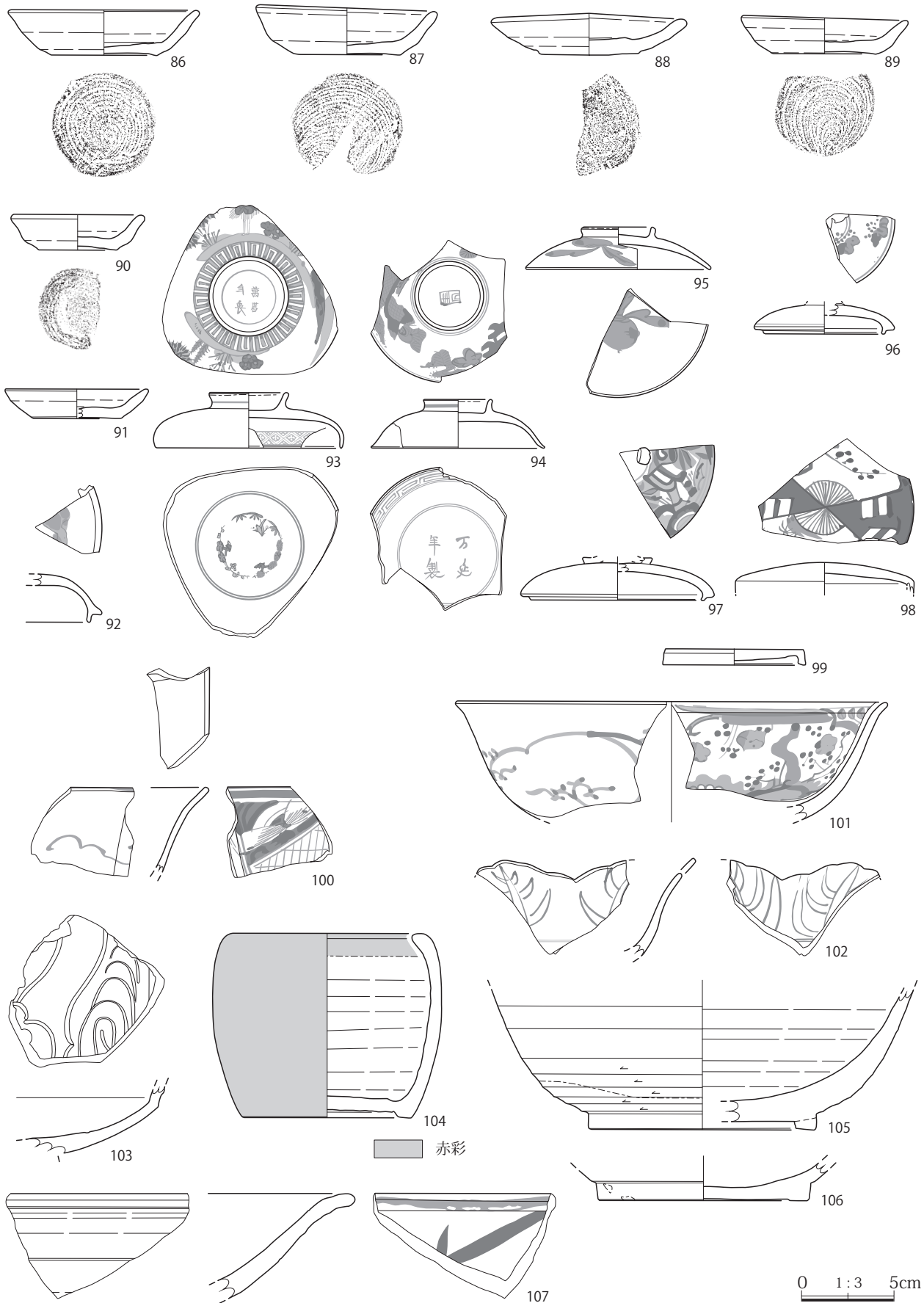
第 8 图 堀出土近世遺物① (碗 1)



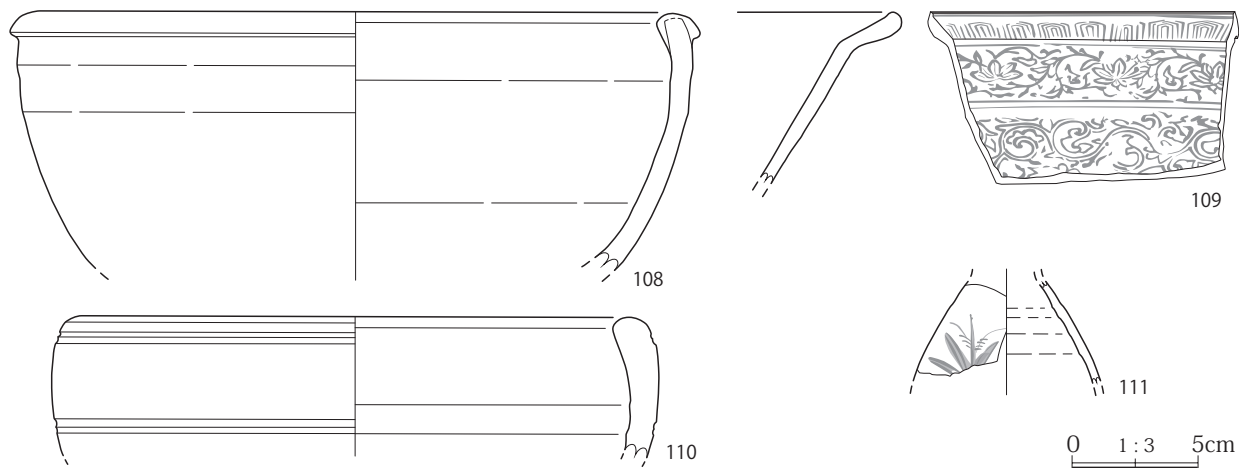
第9図 堀出土近世遺物②(碗2)



第 10 图 掘出土近世遺物③ (碗 3 · 小坏 · 蕎麦猪口 · 皿 1)



第 11 図 堀出土近世遺物④ (皿 2・蓋・鉢 1)



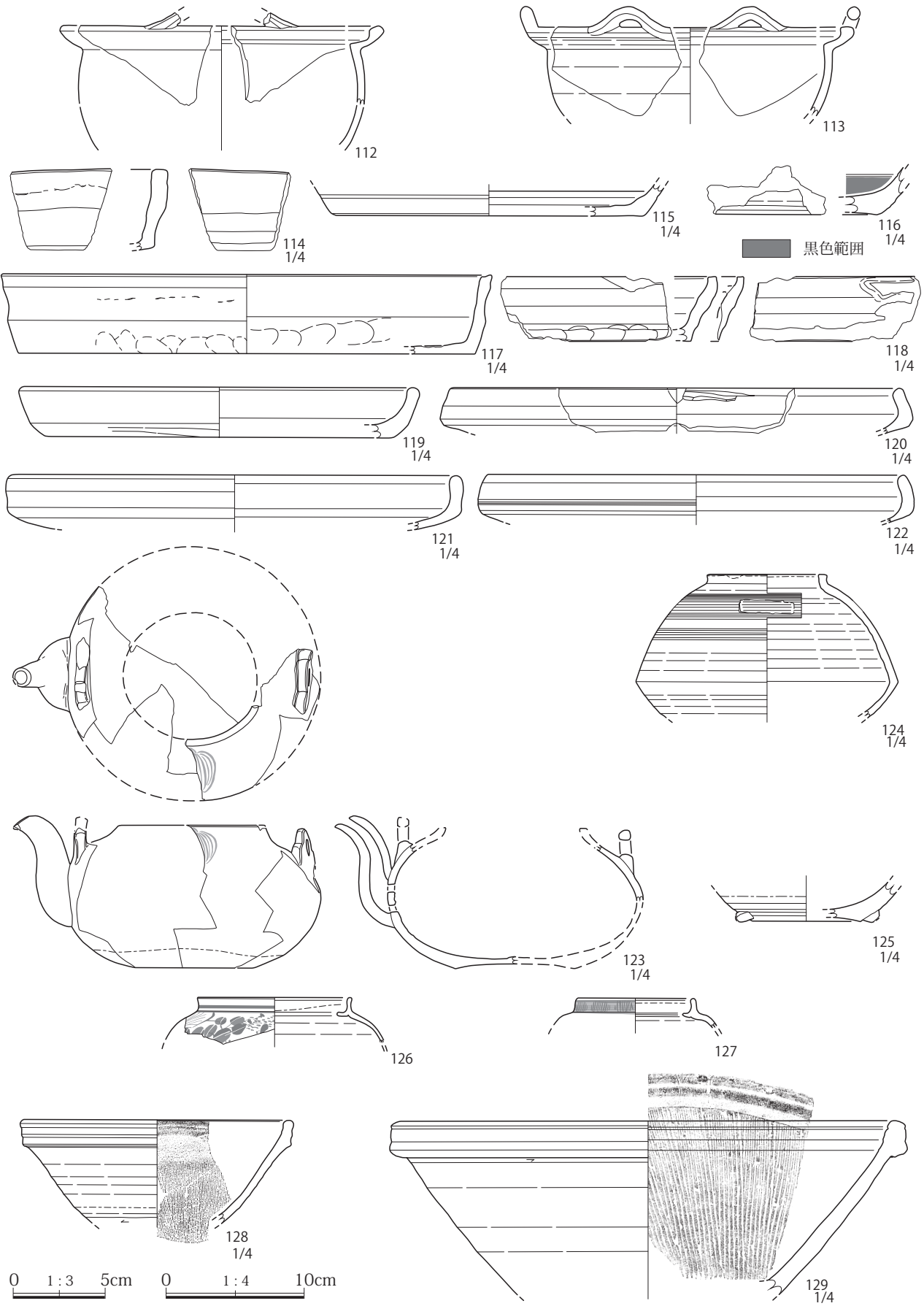
第12図 堀出土近世遺物⑤（鉢2・徳利）

絶へたり」とあることから、本製品は一体型から分離型へ移行する過渡期のものと思われる。第17図2・3は煙管雁首、第17図4は煙管吸口である。第17図2・4は真鍮製、第17図3は銅製で緑青が付着する。第17図5～7は鉄製品で、第17図6は釘と思われる。第17図5・7は用途不明で5は赤色塗料が塗布されている。第17図1は石製品の硯である。

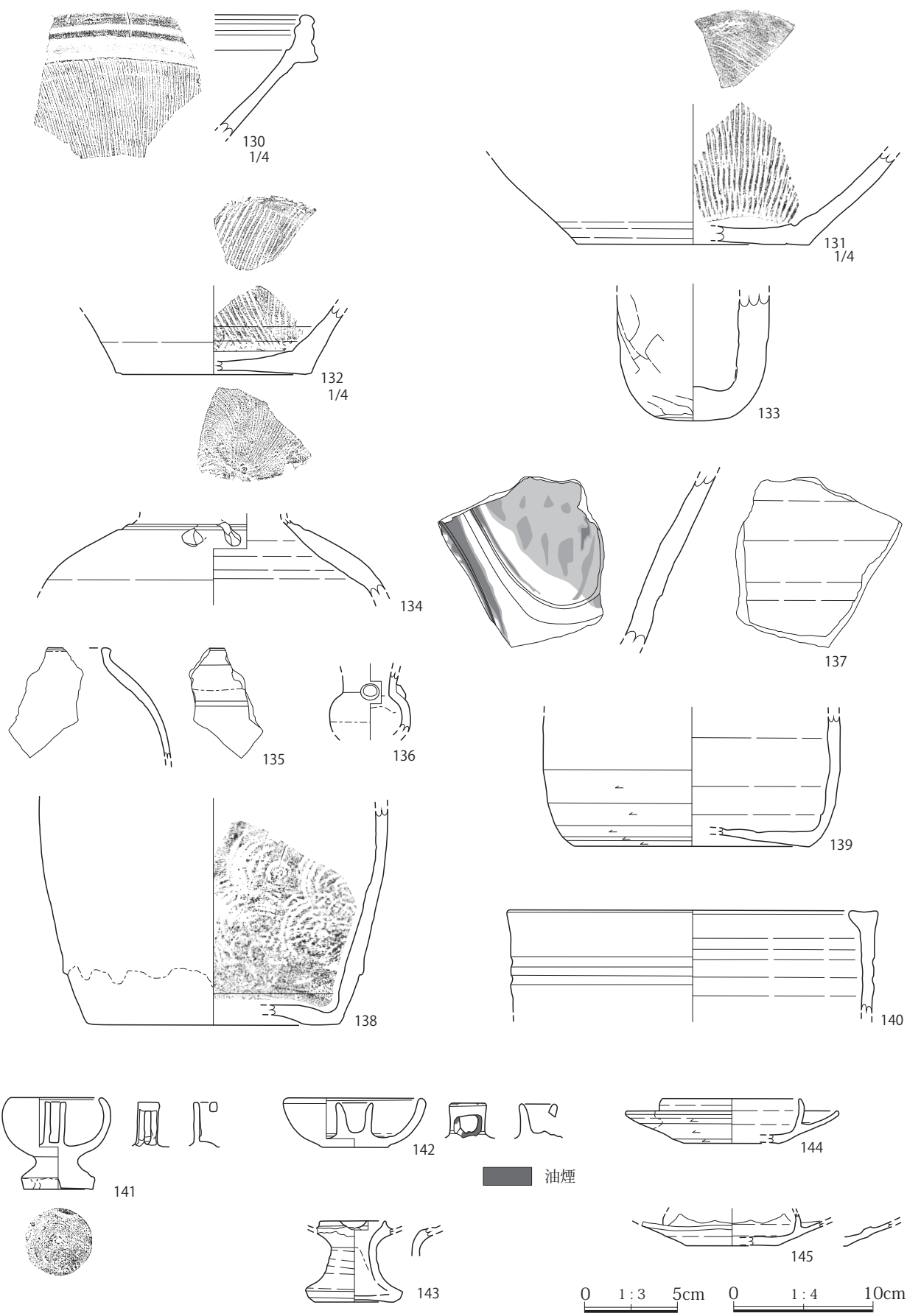
第18図～第24図は木製品である。堀下部は土が多量の水を含んでいたため、道具類・部材などの木製品のほか枝などの自然遺物も多量に残っていた。第18図1～第20図18は道具類を図示した。第18図1・2は下駄で、第18図1は差歯下駄、第18図2は一木下駄である。第18図2は大きさから女性用または子供用と思われる。第18図3～第19図8は曲げ物・桶などの底板である。第18図3・4・第19図8は小型の曲げ物、第18図5・6は桶類、第18図7は大型の桶のものと思われる。第19図9～12は桶の側板である。第19図9・10は持手を取り付ける穴があることから水汲み桶または手桶と思われる。第19図10は屋号と見られる焼印が押されている。第19図11はたらい、第19図12は湯桶と思われる。第19図13はのし棒、第20図14は糸巻きの一部である。第20図15は形状から風呂鍬の風呂部分と判断した。第20図16は細長い形状であること、横断面が窪んでいることから樋と考えられる。第20図17は何らかの道具と思われるが不明である。第20図18は筒状で両端部がケズリ加工されており、形状から浮きと思われる。

第20図19～第23図39は部材と考えられるものを図示した。第20図19・第21図21は片方の先端が細くなる形状から楔と考えられる。第20図20・第21図22～25・第22図26～28・30は角材と判断した。第20図20は虎口面角に3つの切り込み、第21図22・24・25は釘穴がある。第21図24は側面に鉄釘が遺存する。第21図23はほぞがあったと思われる。第22図26は斜め方向に鉄釘が刺さり、一部炭化している。第22図27は斜め方向にφ4cmの穴が少なくとも3つ開いている。第22図28・30は1～2面が著しく炭化しており、一方から火を受けたものと思われる。第22図29・32～第23図39は板材である。第22図29は表面が整えられているが、裏面は著しく炭化している。裏側から火を受けたものと思われる。第22図32は鋸でつけたと思われる切り込みが6本見られる。第22図33は一部が斜めに切断加工されている。第23図34は床板か。第23図35は一方の端部を斜めに切断した薄く細長い板で、もう一方の端部に小さな切り込みがある。用途は不明である。第23図36～38は小さな板材で、いずれも釘穴が複数見られる。第23図39は細長い板材で、端部が細くなるように加工され、釘穴が見られる。用途は不明である。第22図31は角を落とした四方板目角材の木端を利用した部材か。墨痕がある。第24図40・41は杭である。第24図40は堀下部の南壁際から覆土に刺さった状態で出土した。壁崩落などで堀の一部が埋まった後に打ち込まれていたものと思われる。

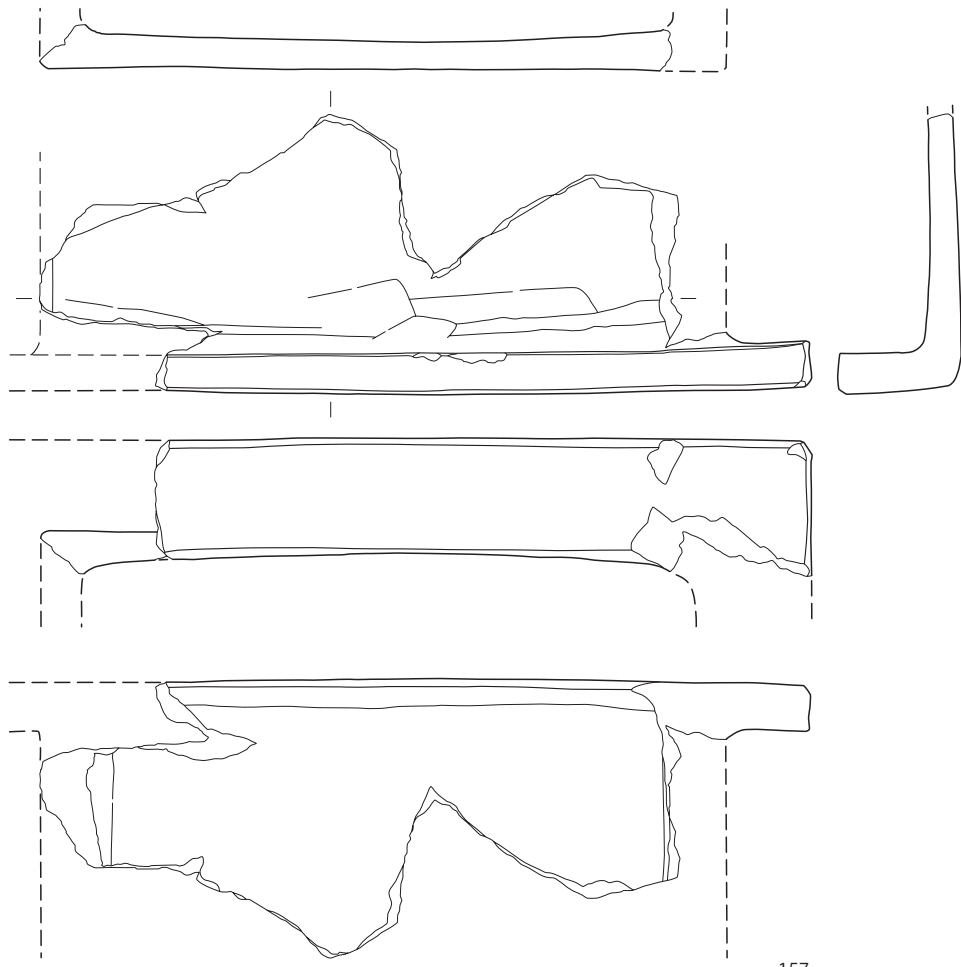
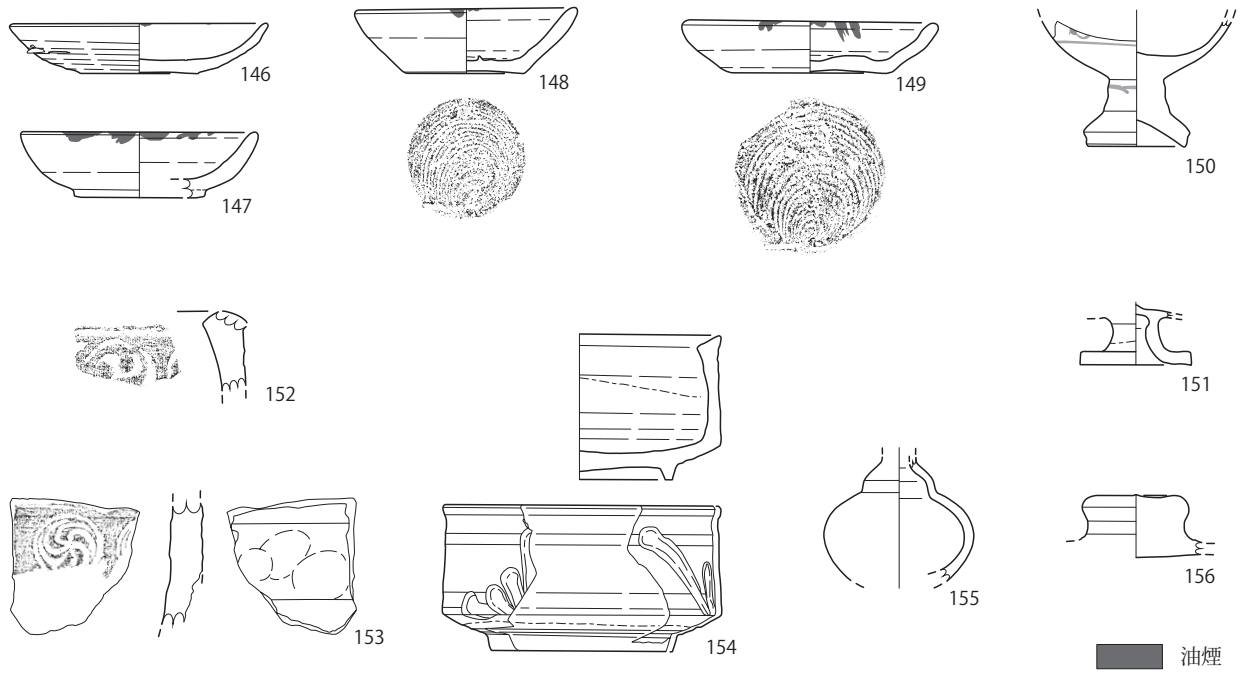
第25図～第31図は瓦を図示した。近世瓦が主体であるが、一部近代の瓦も掲載している。掲載するにあたって、堀出土の瓦は厳密に言えば堀に直接かかわるものではないと考えられることから種類ごとにまとめて掲載する方が良いかと考え、堀以外の遺構外（廃土・表土）の遺物も掲載している。出土位置は遺物観察表に記載した。



第13図 堀出土近世遺物⑥ (鍋・土瓶・急須・播鉢1)

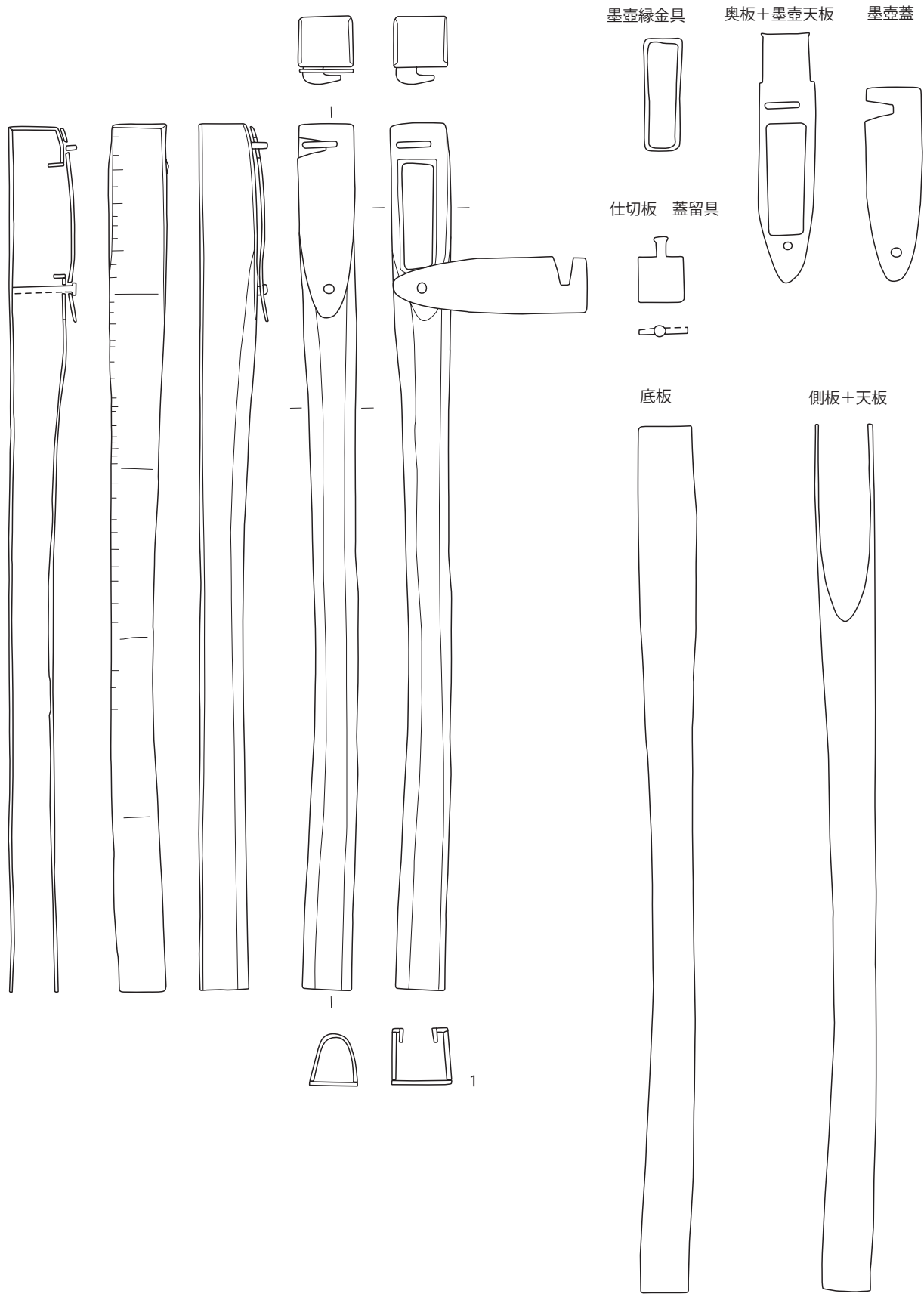


第14图 堀出土近世遺物⑦(播鉢2・焼塩壺・壺・甕・半胴・秉燭・灯明皿受皿)

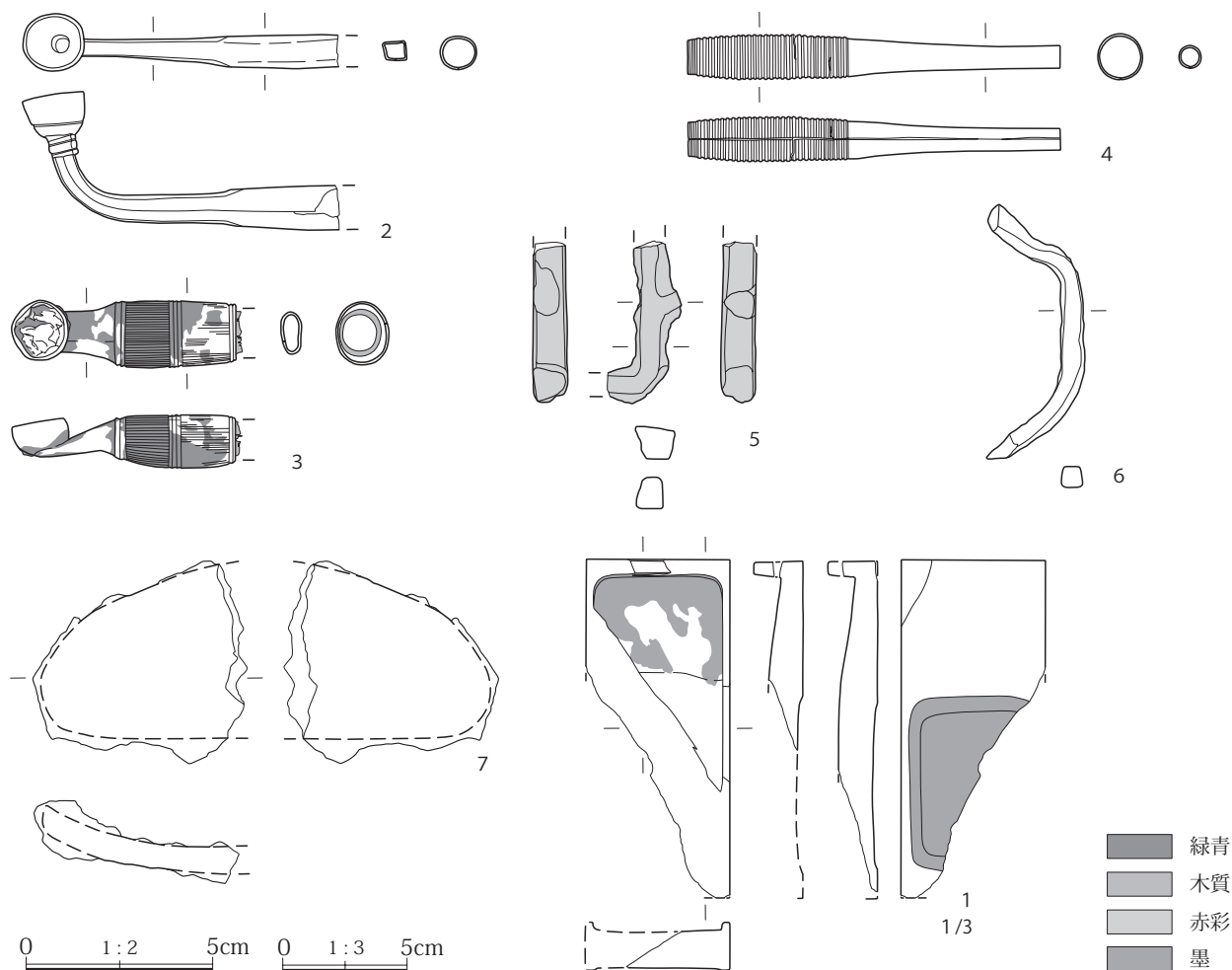


0 1:3 5cm

第15図 堀出土近世遺物⑧(灯明皿・仏飯器・火鉢・香炉・水滴・火消壺蓋)



第 16 図 堀出土近世遺物⑨ (矢立)



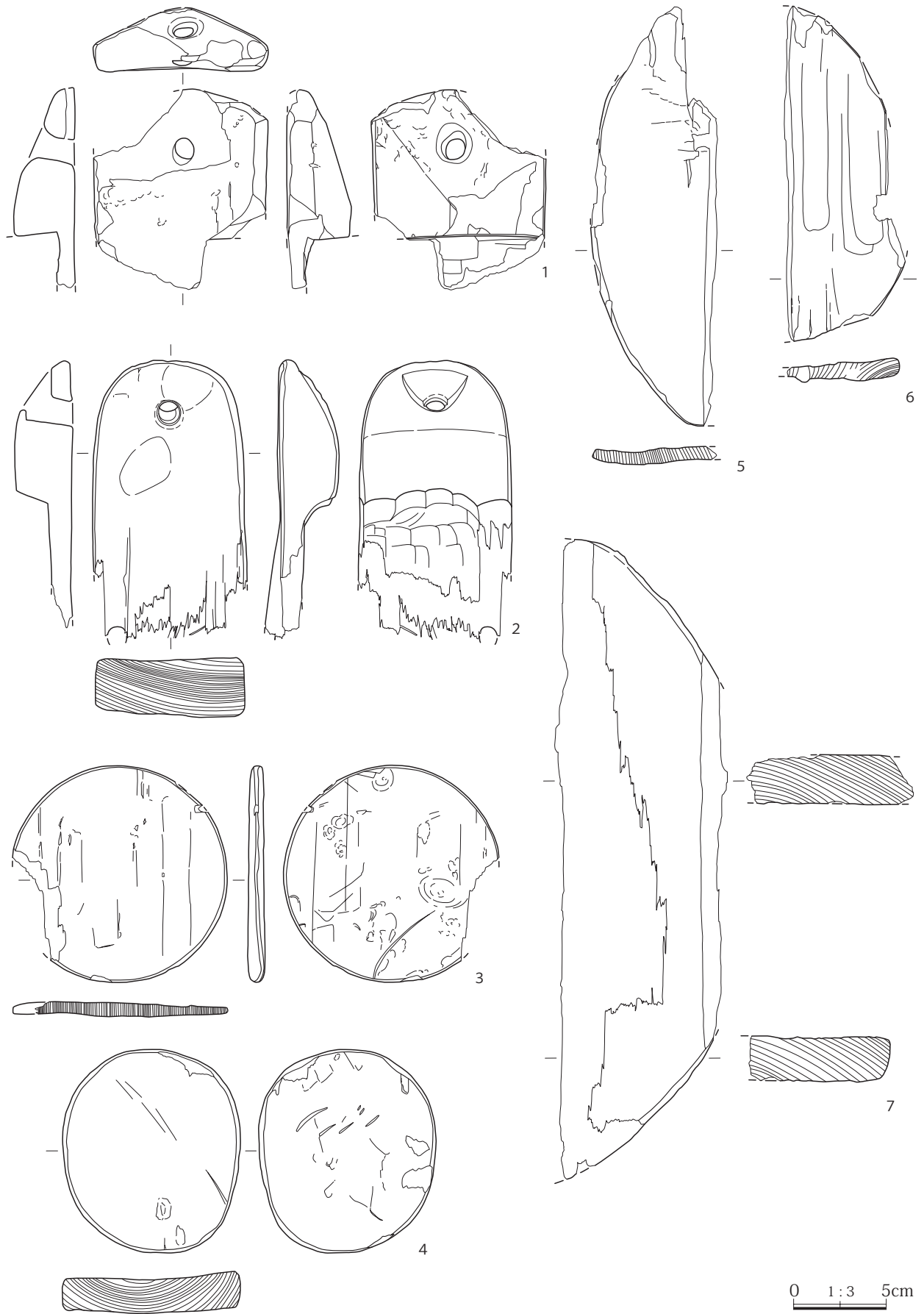
第17図 堀出土近世遺物⑩(煙管・鉄製品・硯)

出土した瓦は、高崎城遺跡 24 の調査を踏襲し A・B の 2 タイプに分類を試みた。A は江戸時代後半～明治時代にかけての瓦と考えられるものである。高温で良く焼かれたもので、黒色が主体である。表面に炭素の被膜が付着し銀色に光るものが見られる。B は江戸時代の瓦と考えられるものである。灰色から黒色で厚みのあるものが多く見られる。分類は遺物観察表にも掲載した。今回の分類は執筆者の感覚で行ったものであるため、間違っているものもあるかと思われるのでその場合はご容赦願いたい。

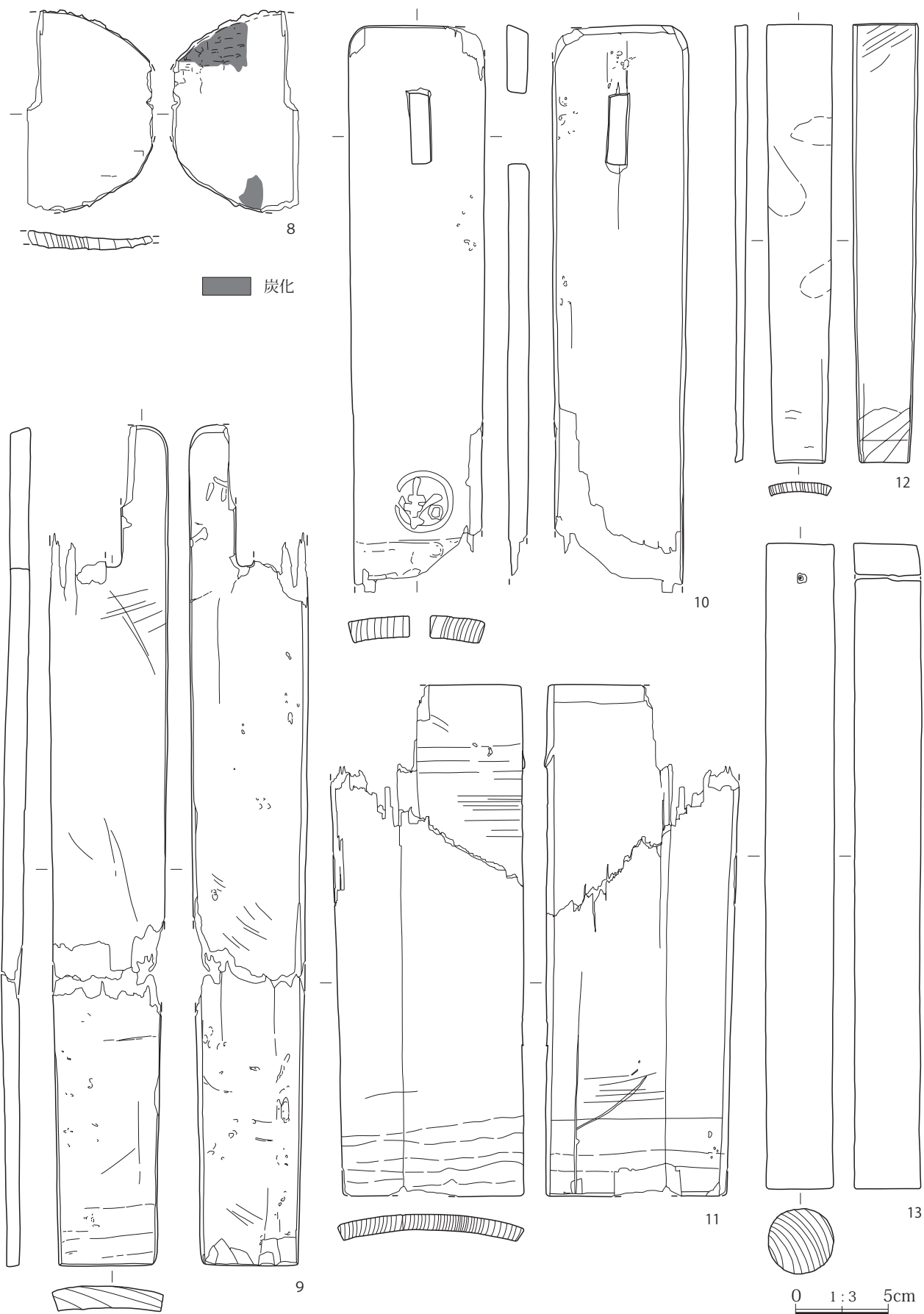
第 25 図 1～5 は伏間瓦、いわゆる冠瓦ですべて A タイプである。第 25 図 1～3 は角椽伏間瓦で第 25 図 3 は縁に刻印が押されている。第 25 図 4・5 は弧の形状から伏間瓦と判断した。第 25 図 6・7 は丸瓦と同じ形状であるが、縁に段差が見られることから鳥衾瓦と思われる。第 25 図 6 は A タイプで、釘穴がある。第 25 図 7 は B タイプである。第 25 図 8～13 はいずれも横幅が短く細長い形状を呈する熨斗瓦で、第 25 図 8～12 が A タイプ、第 25 図 13 が B タイプである。

第 25 図 14～16 は門や塀の屋根に用いる目板瓦である。第 25 図 14 は垂が付くもので、第 25 図 15 は垂が付き目板が左右両側に付くものである。第 25 図 16 は釘穴がある。第 25 図 14・16 が A タイプ、第 25 図 15 が B タイプである。第 25 図 17 は L 字型に垂の付いていた痕跡が見られることから角瓦と思われるもので、A タイプである。

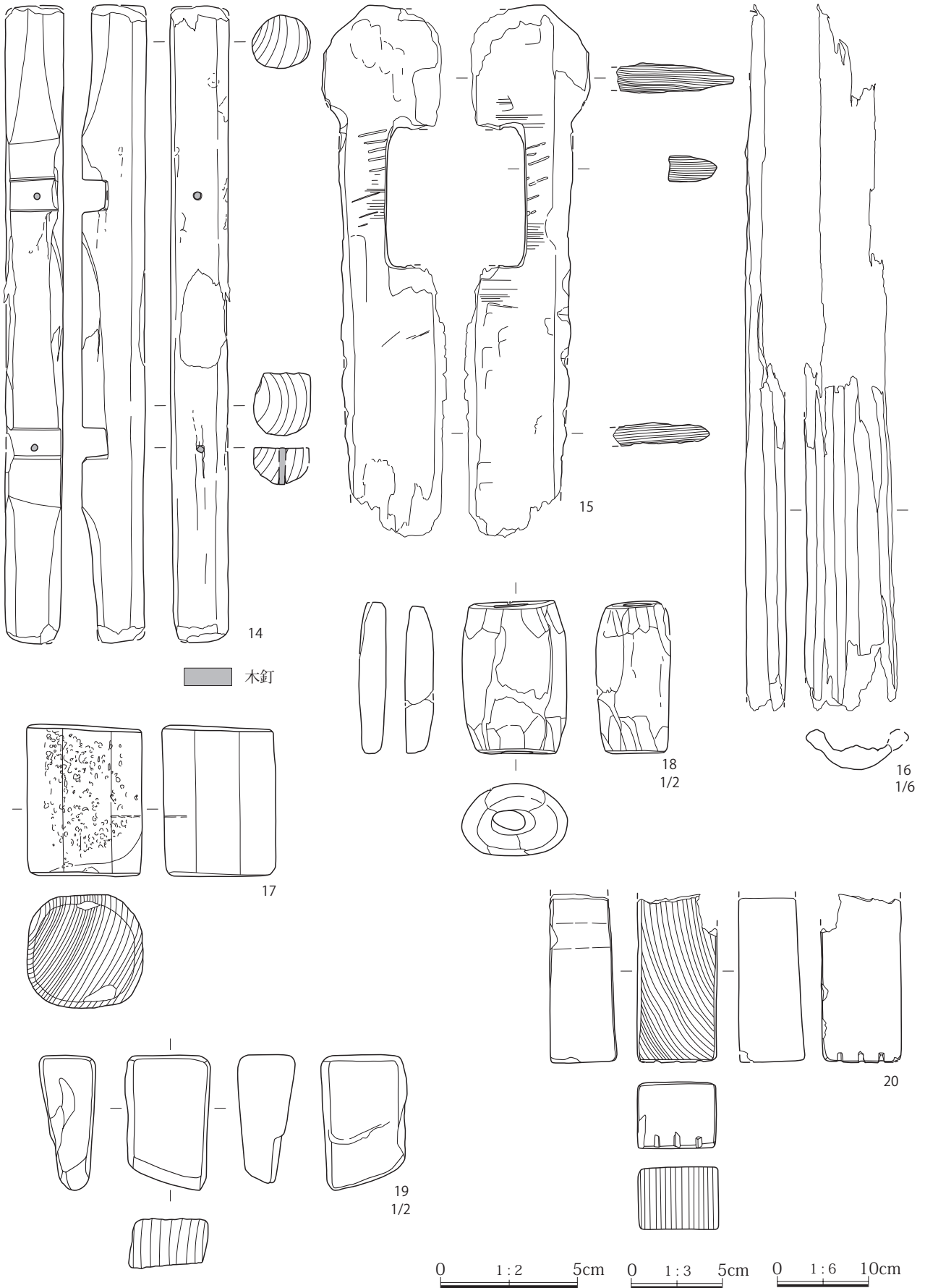
第 26 図 18～25 は軒丸瓦である。大きさによって 3 種類に分けられる。一つは直径約 16cm、一つは直径 13.2cm、一つは直径 12.3cm で大きい方から大・中 1・中 2 とした。文様は全て巴文で珠文は大が 24、中 1 が 16 個と思われ、中 2 は 16 個である。第 26 図 18～21 が A タイプ、第 26 図 22～25 が B タイプ、第 26 図 18・22 が大、第 26 図 24 が中 1、その他が中 2 である。第 26 図 26 は万十型の巴瓦で、軒椽瓦に載せるのが妥当であった。



第 18 図 堀出土近世遺物⑩ (木製品 1)



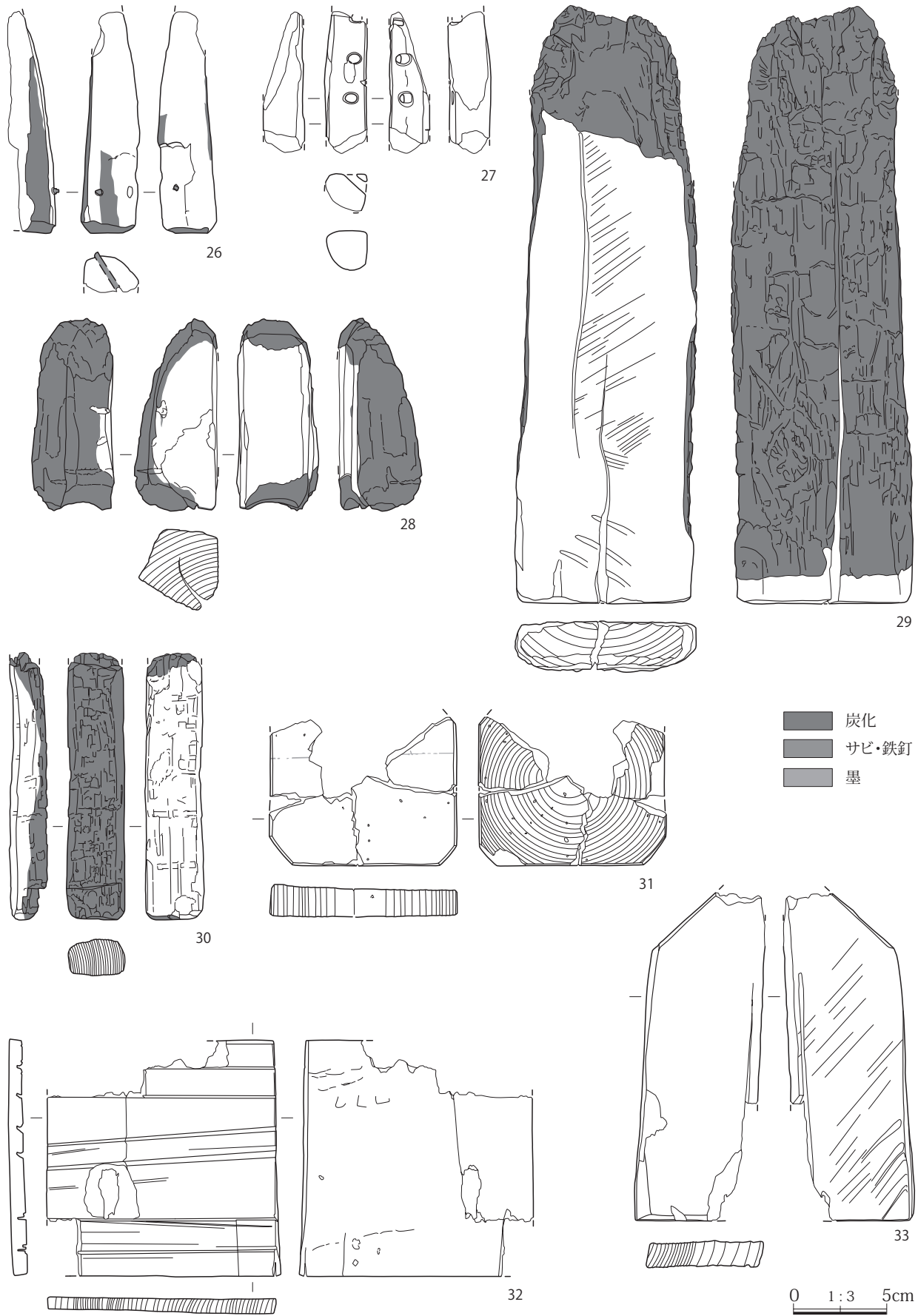
第19図 堀出土近世遺物⑫ (木製品2)



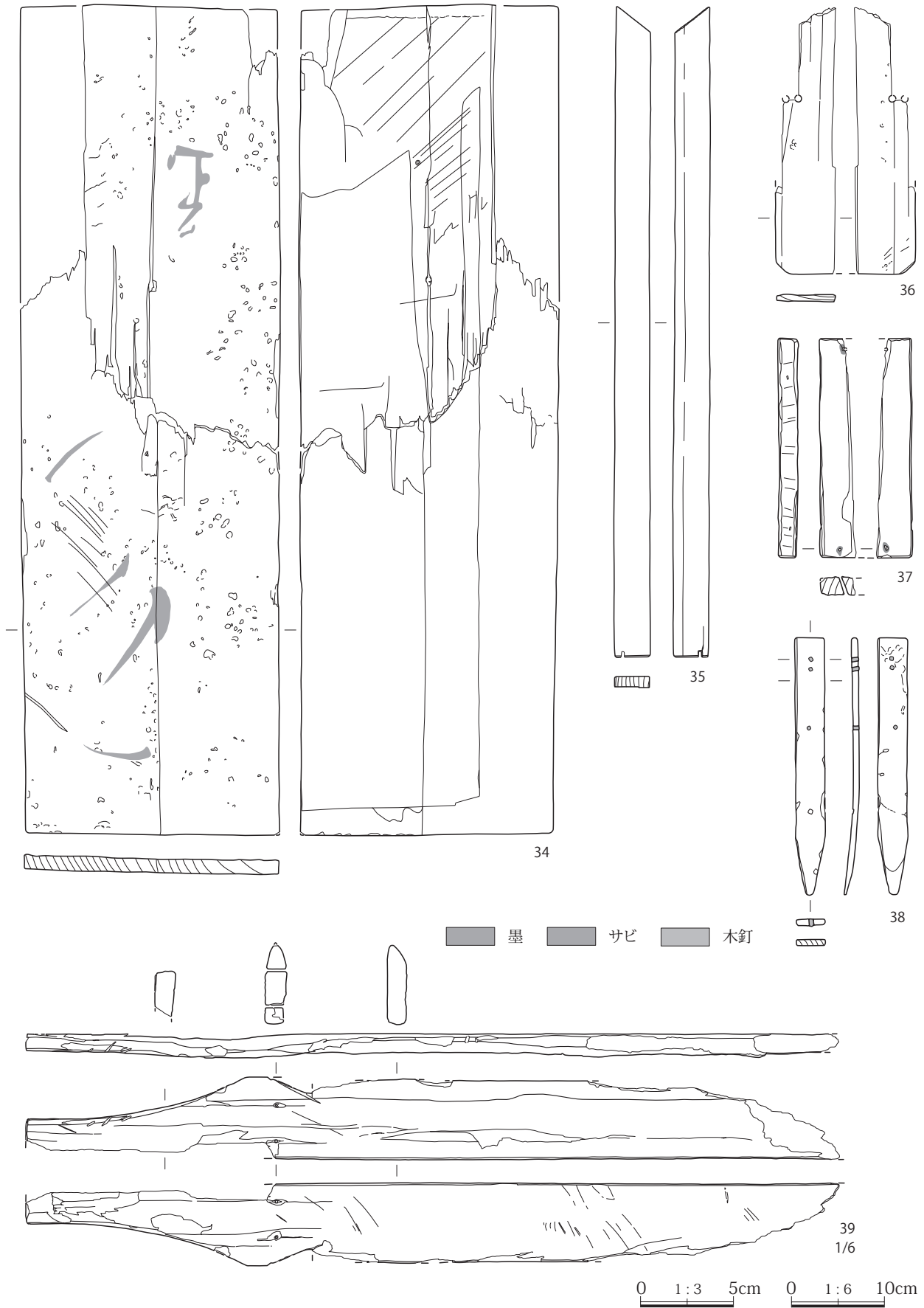
第 20 図 堀出土近世遺物⑬ (木製品 3)



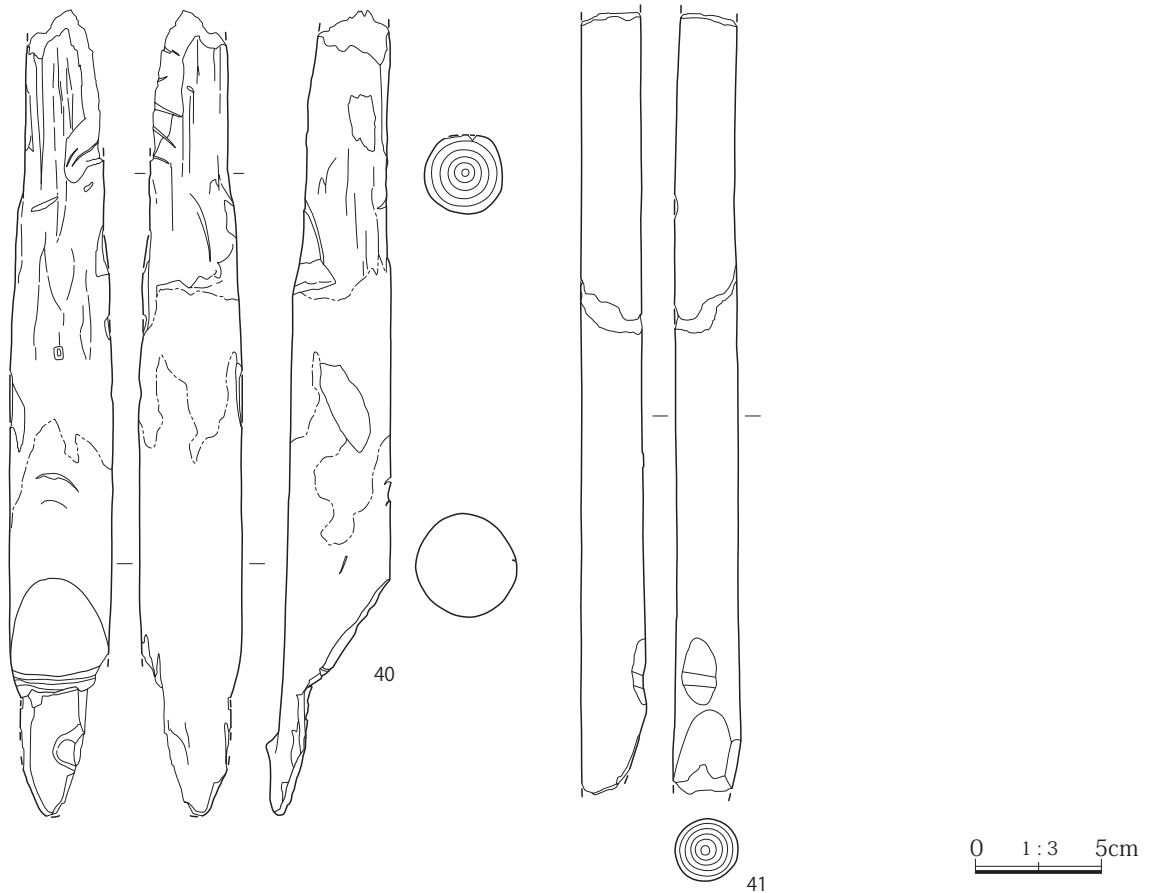
第 21 図 堀出土近世遺物⑭ (木製品 4)



第22図 堀出土近世遺物⑮（木製品5）



第23図 堀出土近世遺物⑩(木製品6)



第24図 堀出土近世遺物⑰（木製品7）

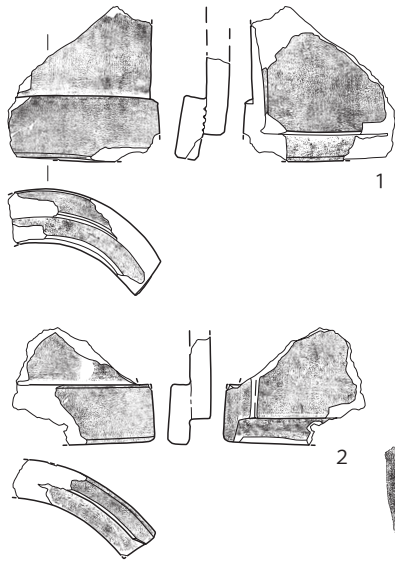
第26図27～第27図53は丸瓦である。第26図27～30は丸瓦と接続するための切り込みがあるもので隅棟で使用する丸瓦と思われる。全てBタイプである。第26図31～38は非常に浅い丸瓦である。第26図33・36がAタイプ、その他はBタイプである。第26図31～33は釘穴が見られるが、第26図31は端部からやや奥、第26図32・33は端部際と位置が異なる。第27図39～45はAタイプの丸瓦で、第27図39～41は玉縁部が遺存する。第27図39・41は内面にヘラ状工具痕が残る。第27図46～53はBタイプの丸瓦である。第27図46～48は玉縁部が遺存し、第27図47は内面にヘラ状工具痕が残る。

第27図54～67は軒平瓦で、第27図54～61・67がAタイプ、第27図62～66がBタイプである。第27図54～57・67は反りがなく平らな形状を呈する。丸瓦と併用して目板瓦と同様に門・塀で使用されたものと考えられる。瓦当の文様は、第27図54～57および第25図14目板瓦、第27図58～60、第27図61・65、第27図62・63、第27図64がそれぞれ同一の系統である。第27図66は無文の瓦当で、第27図67は側面に窪みがある。

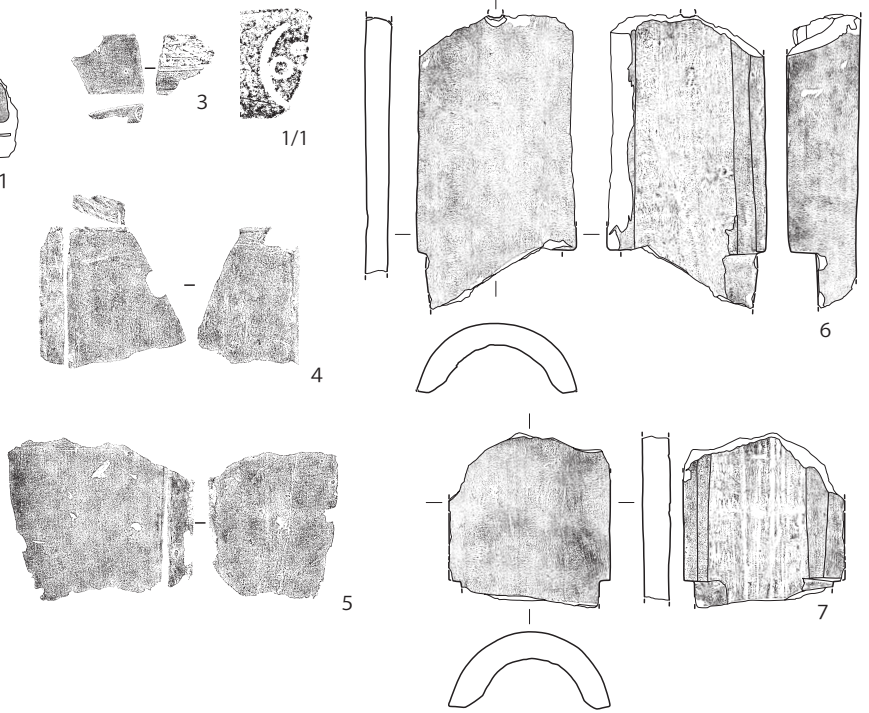
第28図は平瓦Aタイプ、第29図は平瓦Bタイプである。第29図85は縁に「○中にー」の刻印が押されている。第28図68・第29図88・89は釘穴があり、第28図69・70・第29図86・87は側面近くに縦方向の沈線がある。第28図80～84、第29図97～102は反りが弱いものである。

第30図は軒棧瓦・棧瓦である。第30図103が軒棧瓦Aタイプで、第30図104が軒棧瓦Bタイプである。第30図105～117が棧瓦で、第30図105～113がAタイプ、第30図114～117がBタイプである。第30図105は表面に変体仮名で「耳（又は曾）乃乃 ●耳（又は曾）に（又はそ）の ●に（又はそ）」と刻書されている。●は天（て）と読めるのではないと思われる。裏面には「威徳寺」と刻書されている。威徳寺は三ノ丸内の二ノ丸南中門・南堀に隣接する場所に建てられていた寺院である。威徳寺で使われていた瓦が南堀に落ちた・破棄されたものと思われる。第30図110は裏面にハケ状工具痕が残り、第30図111は端部が丸

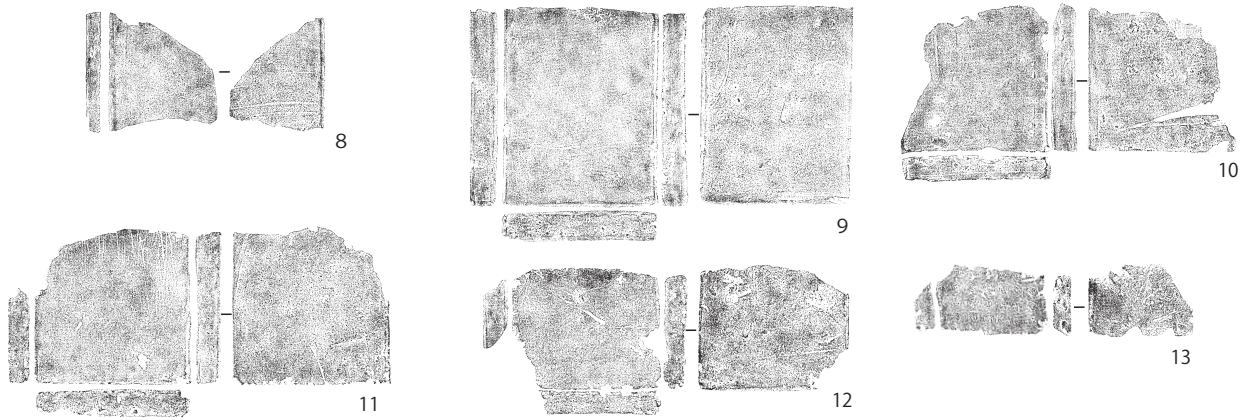
伏間瓦



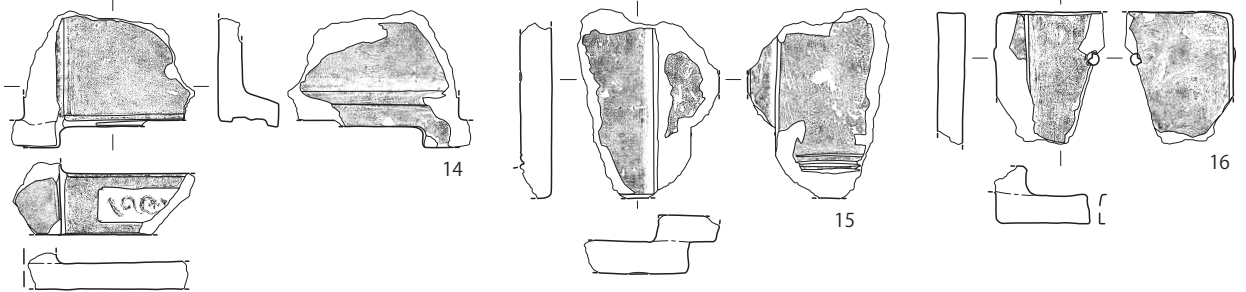
鳥衾瓦



熨斗瓦



目板瓦



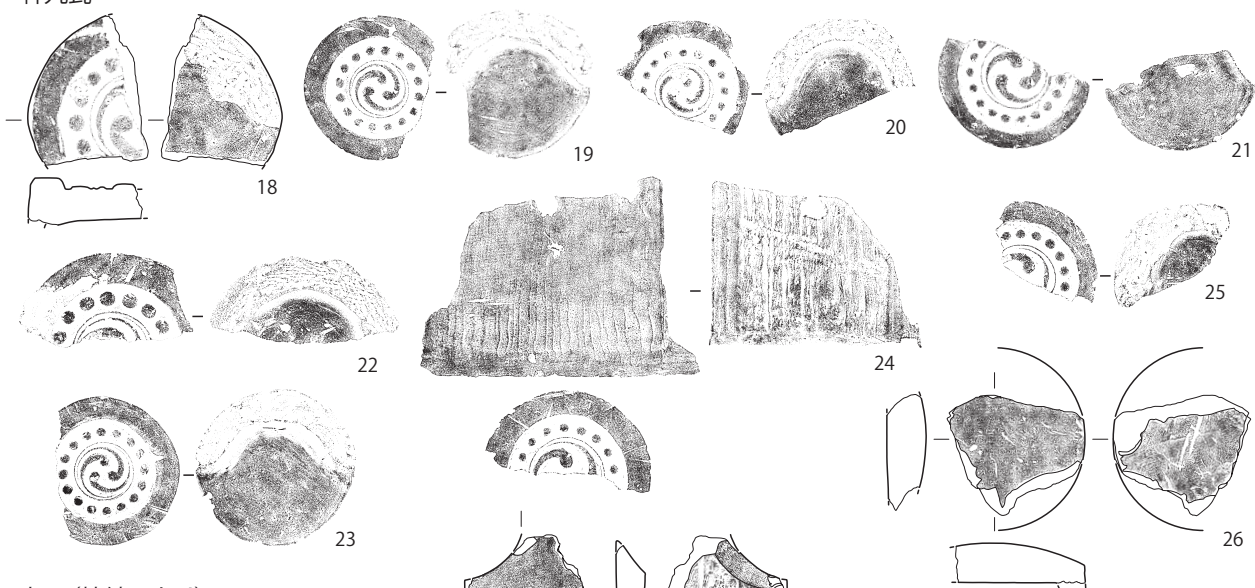
角瓦



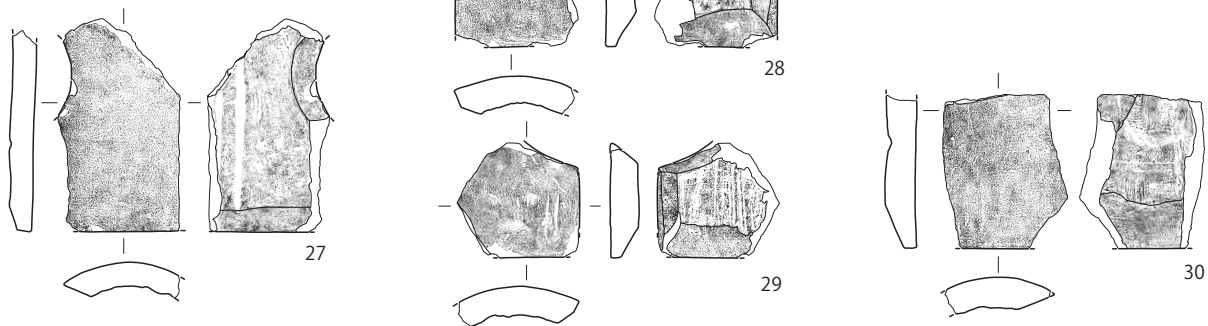
0 1:1 3cm 0 1:6 10cm

第 25 図 堀・調査区出土近世瓦①

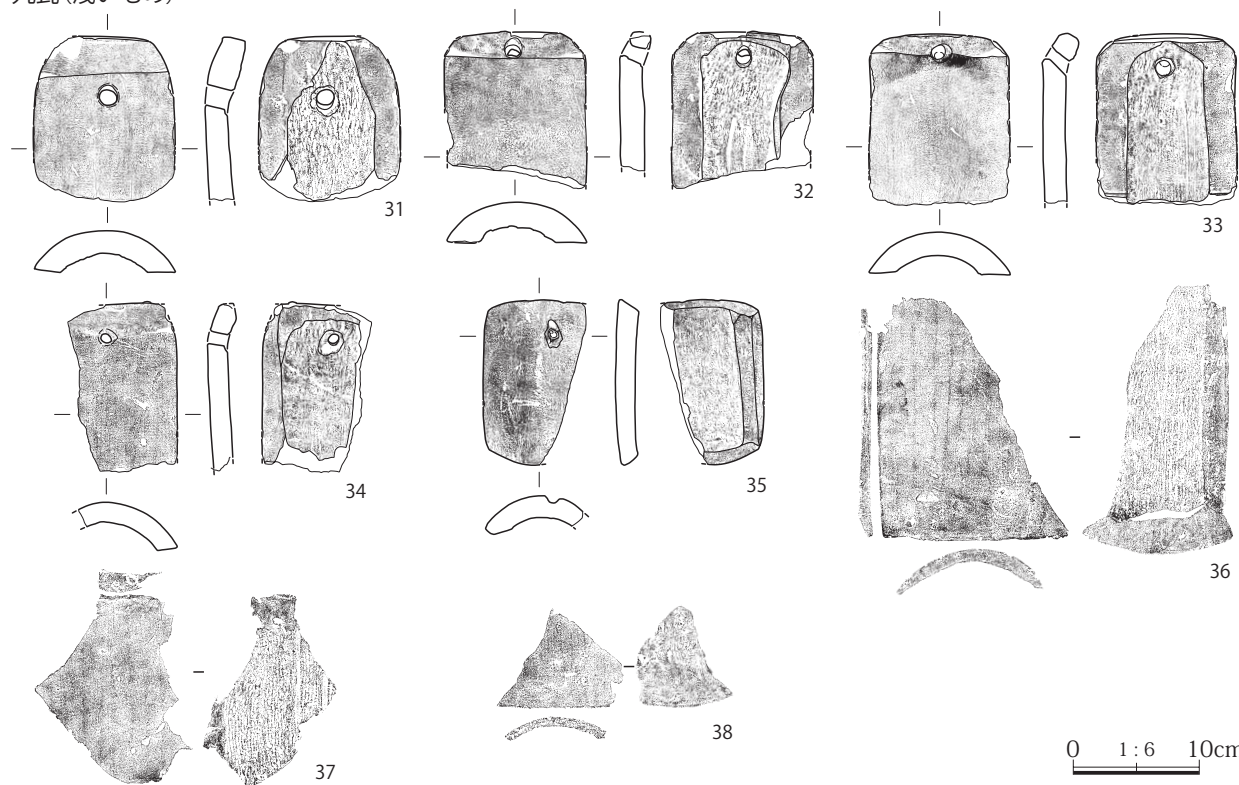
軒丸瓦



丸瓦 (接続面あり)



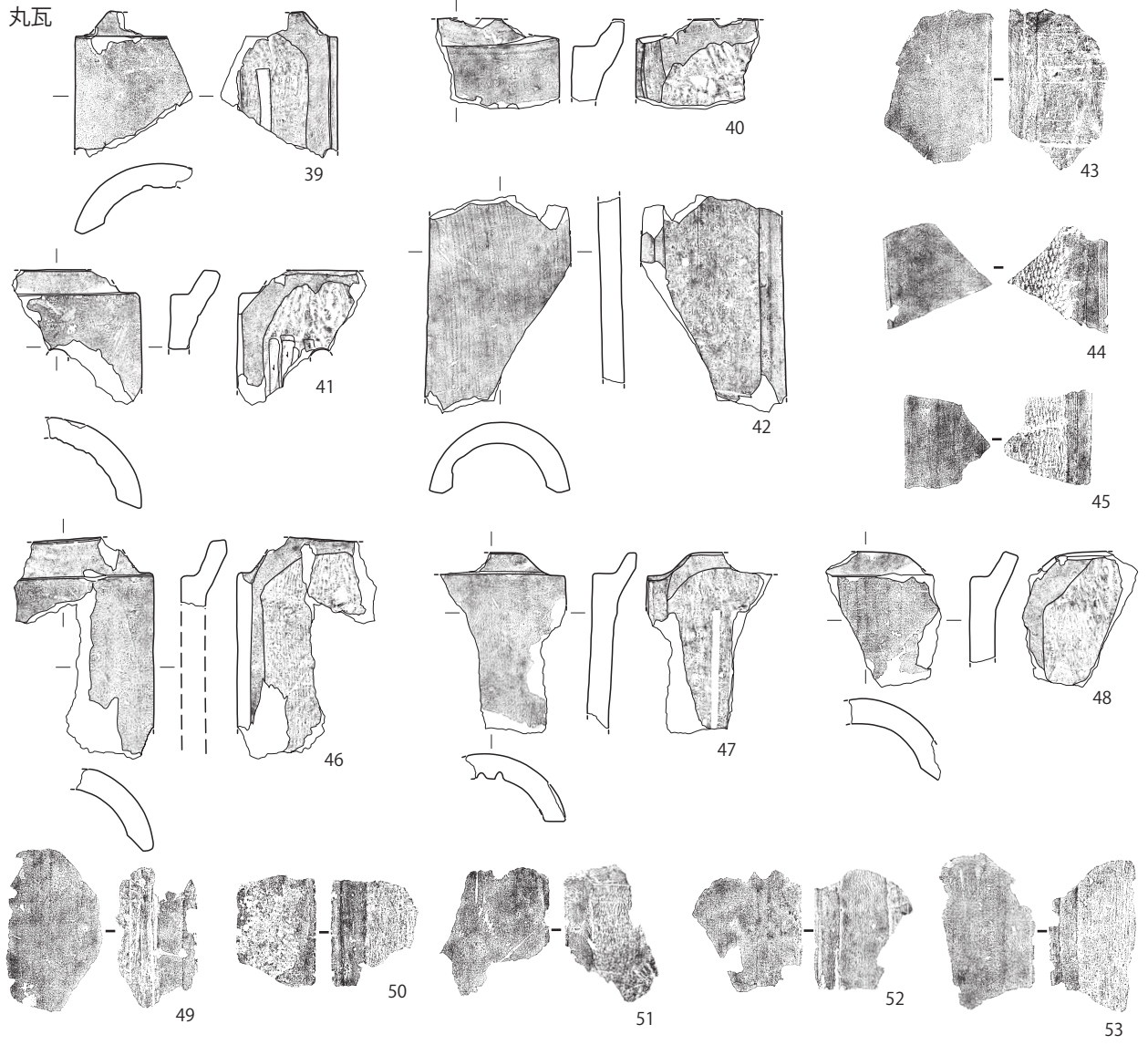
丸瓦 (浅いもの)



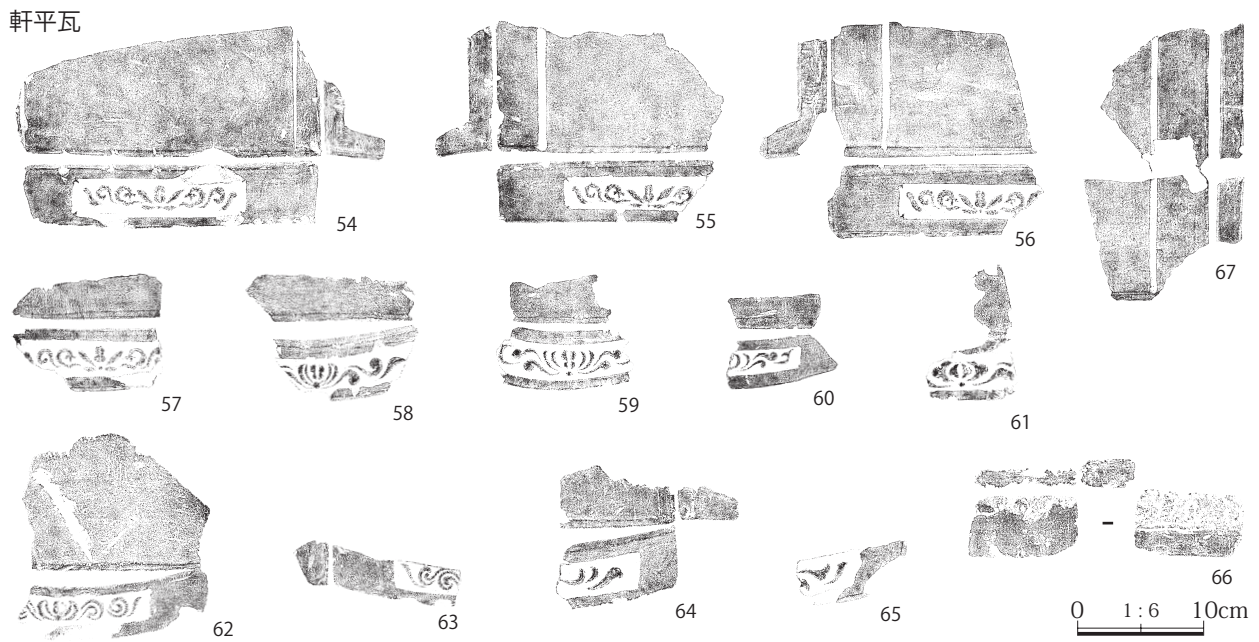
0 1:6 10cm

第 26 図 堀・調査区出土近世瓦②

丸瓦

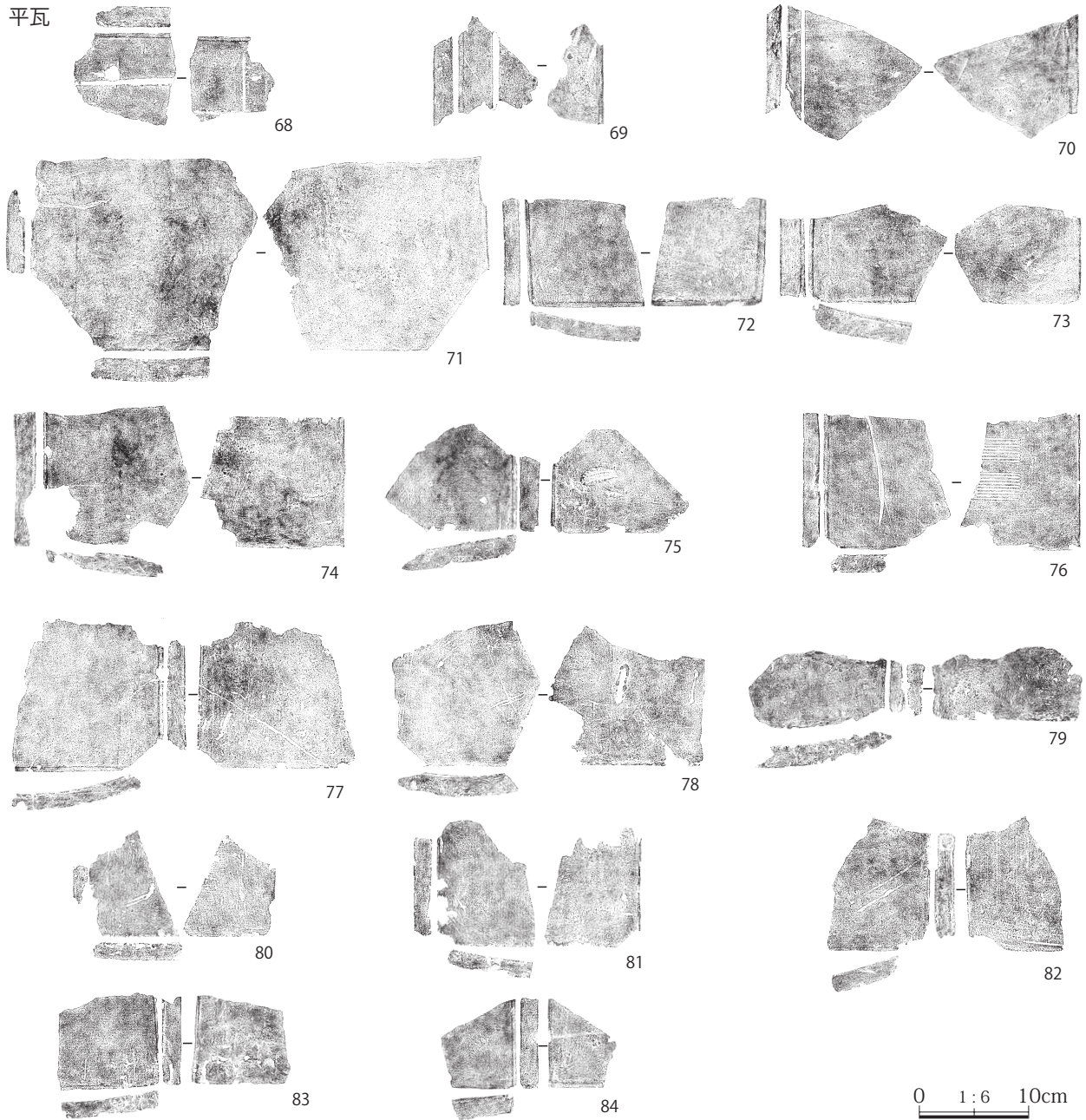


軒平瓦



第 27 図 堀・調査区出土近世瓦③

平瓦

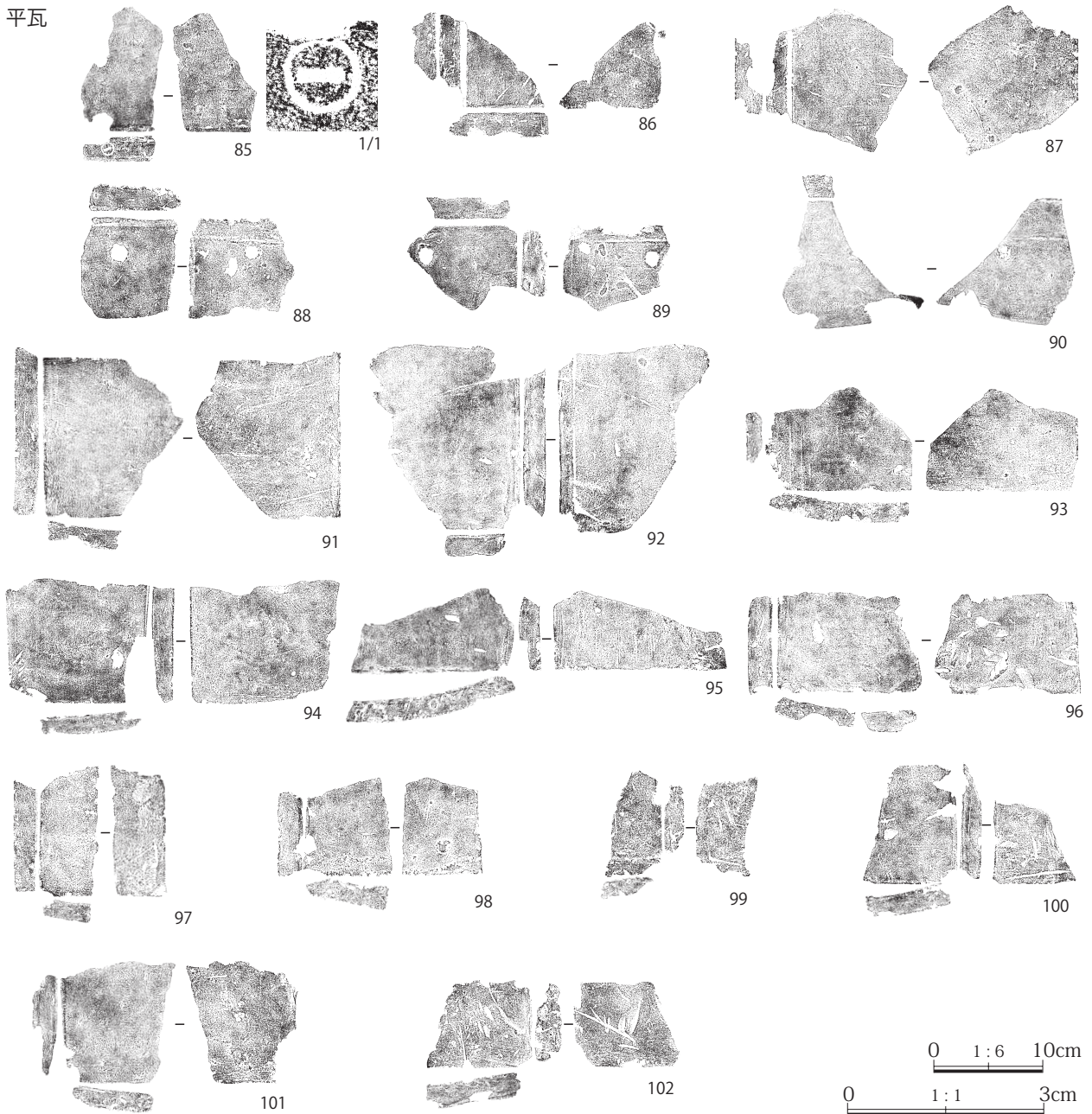


第28図 堀・調査区出土近世瓦④

く収められるものである。第30図116は屈曲部に切り込みが見られるものである。

第31図は不明瓦及び近代瓦である。第31図118・119は詳細不明の瓦で、いずれもBタイプである。第31図118は平らな面があり、大きく湾曲していることから丸瓦の一種と考えられるがどのような形状になるのか判断できなかった。第31図119は端部が尖り、尖る部分は弧を描くように湾曲する。飾り瓦の一部と考えられる。第31図120～126は明確に近代瓦と判断できたもので、全てAタイプである。第31図120～122は明治初期に考案された引掛棧瓦である。第31図123～126は平瓦で刻印が押されたものである。第31図123・124は裏面に「四角囲いの隅に上段左から群馬、下段左から藤岡、中央に丸で囲った和」の刻印が押されている。第31図125は縁に「永の右に |」、第31図126は縁に「扇型の囲いの内側に左から利藤」の刻印が押されている。

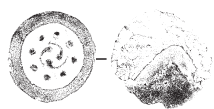
平瓦



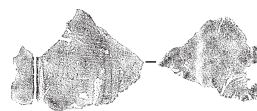
第29図 堀・調査区出土近世瓦⑤

第32図・第33図は近世以外の時代の遺物を図示した。第32図1は縄文時代の凹石、第32図2は縄文土器、第32図3は弥生土器壺である。第32図4～8は古墳時代の遺物で第32図4・5は土師器坏、第32図6は土師器甕・甗の把手、第32図7は土師器高坏脚部、第32図8は円筒埴輪である。第32図9～18は平安時代の遺物で第32図9が土師器甕、第32図10～17が須恵器で、第32図10が坏蓋、第32図11・12が坏、第32図13～15が高台付坏、第32図16が円形硯、第32図17が甕である。第32図18は羽釜である。第33図19～22は古代瓦で、第33図19が軒丸瓦、第33図20・21が平瓦、第33図22が丸瓦である。 **備考** 今回の発掘調査で高崎城二ノ丸南中門の西側に位置する二ノ丸南堀の東端部が明らかとなった。このことにより、これまで明確でなかった南中門の位置がより正確に推測できることと思われる。これまでの調査事例と同様、高崎城の土塁を壊してその土を利用して堀を埋めたと考えられる堆積状況が確認され、南中門側では土塁盛土の前に黒褐色土で埋められた状況が確認された。

軒棧瓦

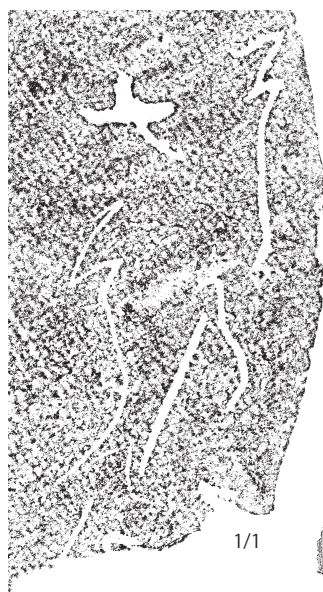


103

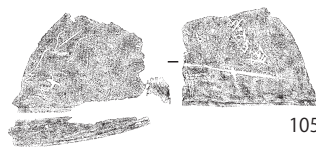


104

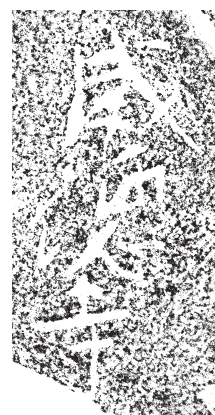
棧瓦



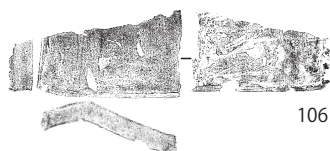
1/1



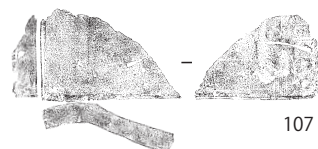
105



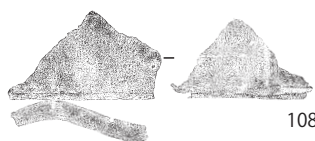
1/1



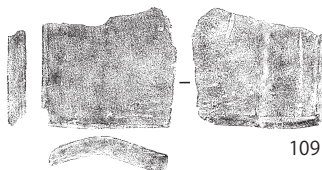
106



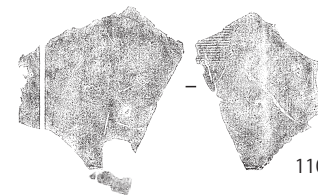
107



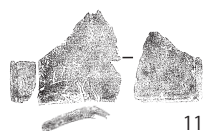
108



109



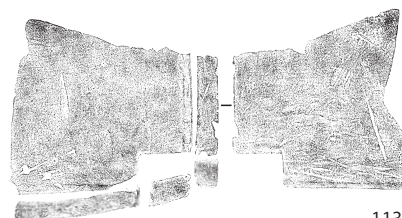
110



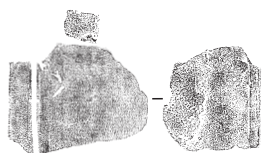
111



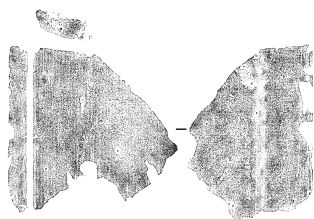
112



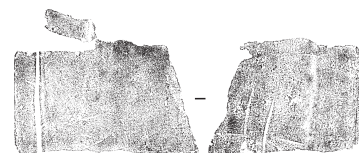
113



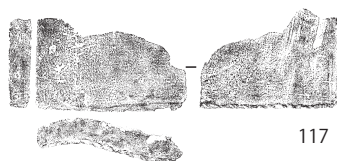
114



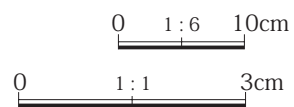
115



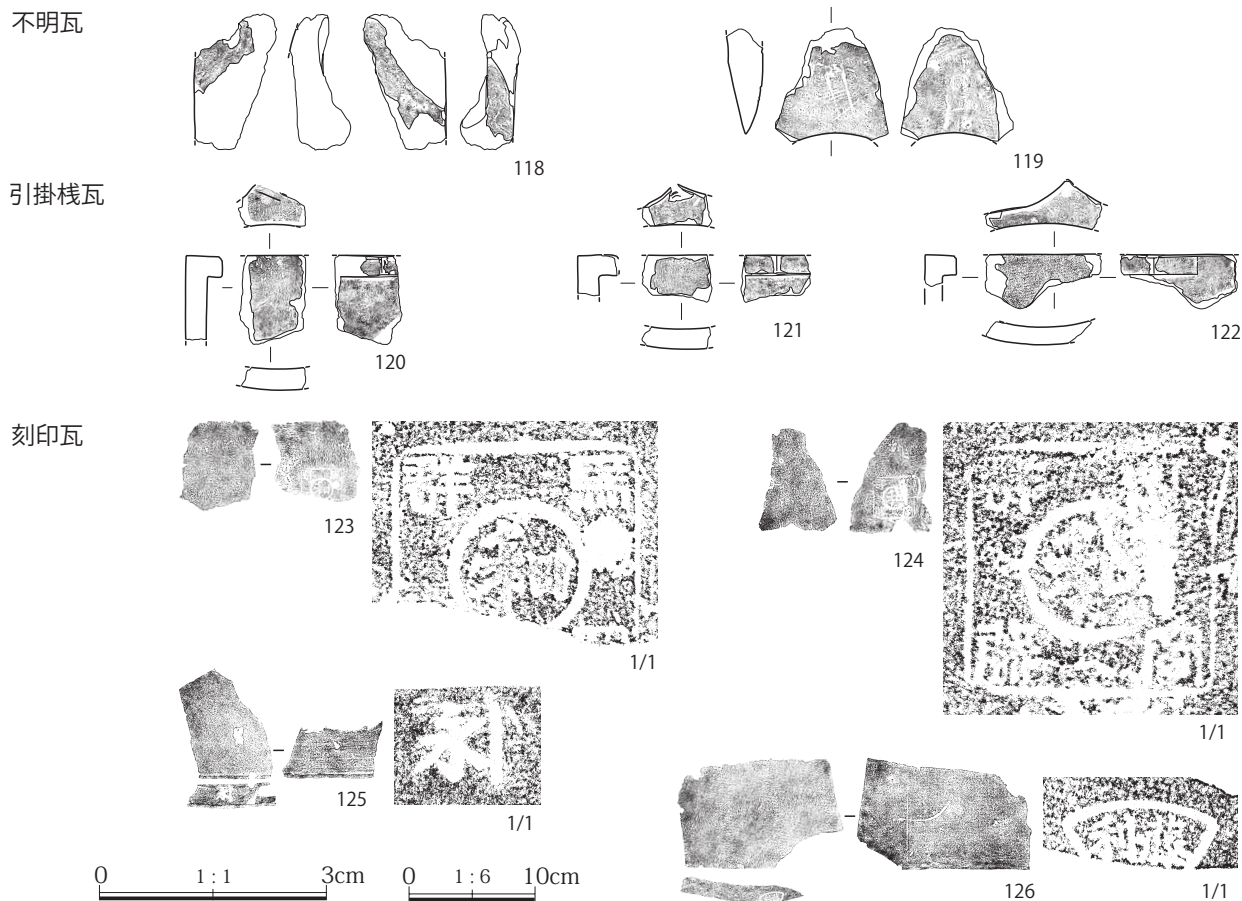
116



117



第 30 図 堀・調査区出土近世瓦⑥



第31図 堀・調査区出土近世瓦⑦・近代瓦

第3節 土坑

今回の発掘調査では6基の土坑が確認された。調査区南壁際に4基（SK01～04）、二ノ丸南堀と重複する位置に2基（SK05・06）が分布する。

1号土坑（第34図・第35図、写真図版5）

位置 調査区東部。 **重複関係** なし。 **遺存状態** 南側が調査区外にあり、北端部・西側がカクランによって壊されている。 **覆土** 黒褐色土である。 **平面形と規模** 楕円形を呈すると思われる。規模は長軸0.58m、短軸0.32m残存し、深さは16cmを測る。 **長軸方向** N-74°-W。 **壁面** 大きく外傾して立ち上がる。

底面 概ね平坦である。 **遺物** 近世磁器、土師器、須恵器が出土し、そのうち磁器・土師器坏を図示した。

備考 大半がカクランで壊されているため性格は不明である。近世磁器が出土していることから、本遺構の帰属時期は近世以降と考えられる。

2号土坑（第34図、写真図版5）

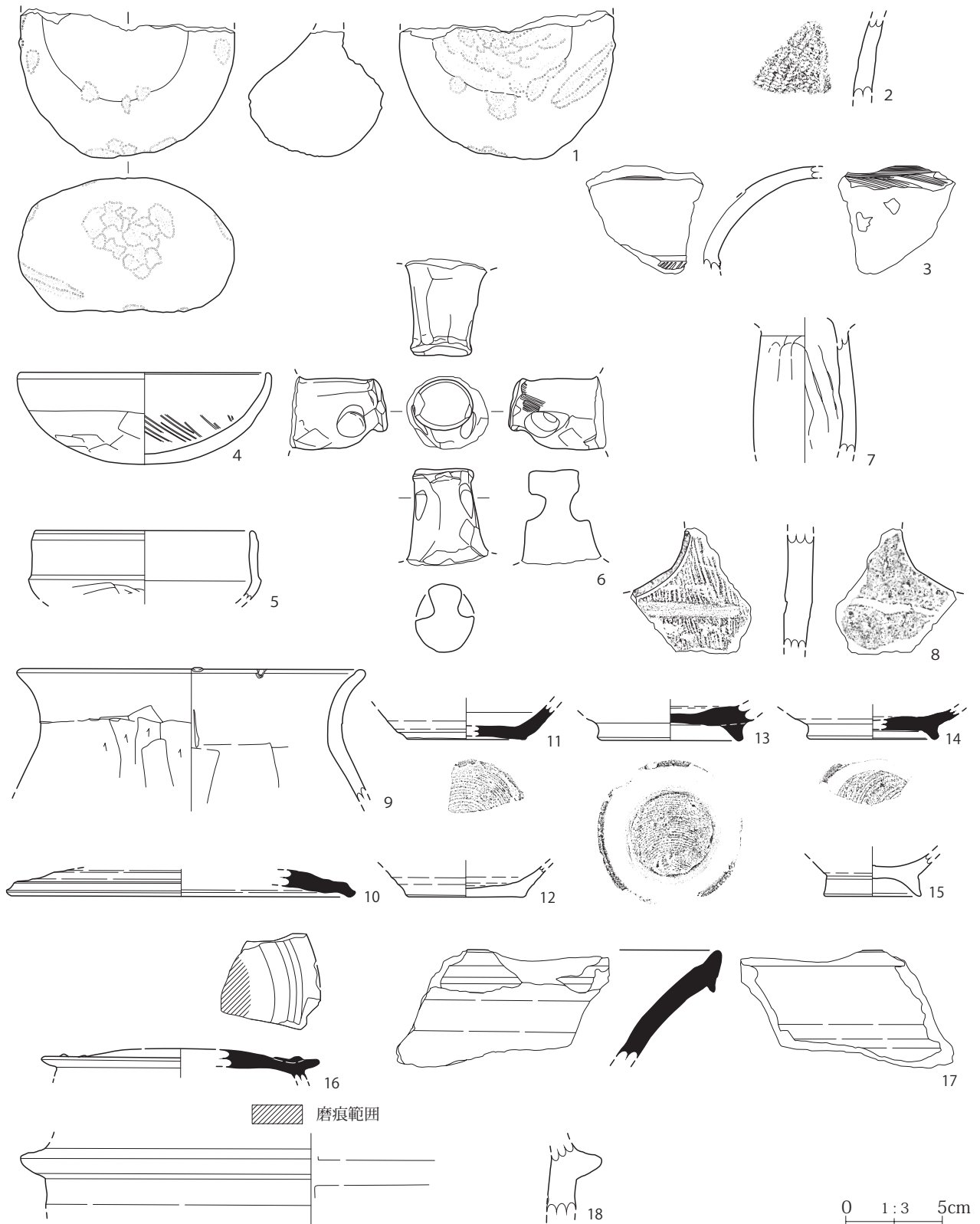
位置 調査区東部。 **重複関係** SD04と重複し、本遺構の方が新しい。 **遺存状態** 南端部のみが調査区外にあり、良好。 **覆土** 上層が暗褐色土、下層が黒褐色土である。 **平面形と規模** 円形を呈すると思われる。規模は長軸が0.78mで、短軸は0.68m残存する。深さは25cmを測る。 **長軸方向** なし。 **壁面** 外傾して立ち上がる。

底面 概ね平坦である。 **遺物** 近世瓦、土師器、須恵器が出土したが、図示し得るものはなかった。

備考 形態に特徴がないことから遺構の性格は不明である。近世瓦が出土していることから、本遺構の帰属時期は近世以降と考えられる。

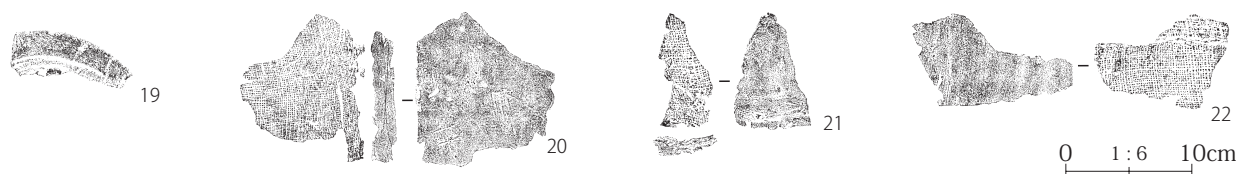
3号土坑（第34図、写真図版5）

位置 調査区東部。 **重複関係** なし。 **遺存状態** 良好。 **覆土** 黒褐色土である。 **平面形と規模** 不整



第32図 堀出土縄文時代～平安時代遺物

円形を呈する。規模は長軸0.55m、短軸0.49m、深さは25cmを測る。長軸方向 N-75°-E。壁面ほぼ垂直に立ち上がる。底面 概ね平坦である。遺物 なし。備考 形態に特徴がないことから遺構の性格は不明である。出土遺物がないことから、本遺構の帰属時期は不明である。



第33図 堀出土古代瓦

4号土坑 (第34図・第35図、写真図版5・13)

位置 調査区東部。 **重複関係** S D 0 4と重複し、本遺構の方が新しい。 **遺存状態** 北側カクランによって壊されている。 **覆土** 暗褐色土である。 **平面形と規模** 楕円形を呈すると思われる。規模は長軸0.66 m、短軸0.53 mが残存し、深さは19cmを測る。 **長軸方向** N-15°-W。 **壁面** 南壁は外傾して立ち上がり、東壁は垂直に立ち上がり上部が外反する。 **底面** 概ね平坦である。 **遺物** 近世瓦、近世陶器、灰釉陶器、土師器、縄文土器が出土し、そのうち灰釉陶器、縄文土器を図示し得た。 **備考** 形態に特徴がないことから遺構の性格は不明である。近世瓦が出土していることから、本遺構の帰属時期は近世以降と考えられる。

5号土坑 (第34図・第35図、写真図版5・13)

位置 調査区東部。 **重複関係** ニノ丸南堀・S D 0 3と重複し、本遺構が一番新しい。 **遺存状態** 北側を二ノ丸南堀と一緒に掘ってしまったため壊してしまったが、大半は残存する。 **覆土** 黒褐色土・暗褐色土と灰黄褐色土が交互に堆積する。 **平面形と規模** 南北方向に細長い長方形で南端部が東側へ屈曲する。規模は長軸が3.71 m残存し、短軸は0.69 m、深さは72cmを測る。 **長軸方向** N-9°-W。 **壁面** 西壁はほぼ垂直に立ち上がり、東壁は外傾して立ち上がる。 **底面** 概ね平坦であるが、北側へ傾斜している。 **遺物** 近代鉄製品、近世瓦、近世陶磁器、古代瓦、土師器、弥生土器が出土し、そのうち近代鉄製品、近世瓦・染付、古代瓦、弥生土器を図示し得た。第35図5は弥生土器で、赤彩が施されていることから高坏坏部と思われる。第35図6は古代の丸瓦である。第35図7～9は近世染付で、第35図9は植木鉢破片である。第35図10は近代鉄製品で、ダルマストープの金網と思われる。第35図11～14は近世瓦ですべてAタイプである。第35図11が熨斗瓦、第35図12が軒平瓦、第35図13が軒棧瓦、第35図14が棧瓦である。 **備考** 形態に特徴がないことから遺構の性格は不明である。二ノ丸南堀を切っていること、近代遺物が出土していることから、本遺構の帰属時期は近代以降と考えられる。

6号土坑 (第34図)

位置 調査区東部。 **重複関係** ニノ丸南堀・S E 0 1と重複し、本遺構が一番新しい。 **遺存状態** 上部を二ノ丸南堀と一緒に掘ってしまったため壊してしまったが、下部1/3は残存する。 **覆土** 底部際に灰黄褐色砂質シルト、下層ににぶい黄橙色砂質シルト、上層ににぶい黄褐色砂質シルト・土が南から北へ傾斜して堆積する。 **平面形と規模** 東西方向に長い不整長方形を呈する。規模は長軸が3.32 m、短軸は1.13 m、深さは98cmを測る。 **長軸方向** N-78°-E。 **壁面** 外傾して立ち上がる。 **底面** 概ね平坦であるが、西側へ緩やかに傾斜している。 **遺物** なし。 **備考** 形態に特徴がないことから遺構の性格は不明である。遺構覆土が二ノ丸南堀南壁際に堆積する自然堆積土と類似していることから、堀が埋められた後に掘られたが直ぐに埋められた土坑と判断した。帰属時期は近代以降と考える。

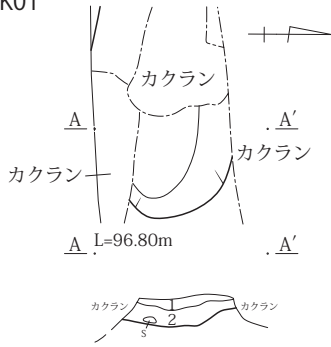
第4節 井戸跡

今回の発掘調査では1基の井戸跡が確認された。調査区北側の二ノ丸南堀と重複する位置に分布する。

1号井戸跡 (第36図、写真図版6・13)

位置 調査区東部の二ノ丸南堀内。 **重複関係** ニノ丸南堀・S K 0 6と重複し、本遺構が一番古い。 **遺存状態** 上部が二ノ丸南堀に壊されていると思われるが、下部は概ね良好。 **覆土** 上部に地山と同じにぶい黄褐色粘質土・にぶい黄褐色砂質シルト、その下に黒褐色土が自然堆積している。上部に地山と同じ土が堆積している状況から、二ノ丸南堀を造る際に埋まりきっていない穴があったため人為的に埋めたものと思われる。 **平面**

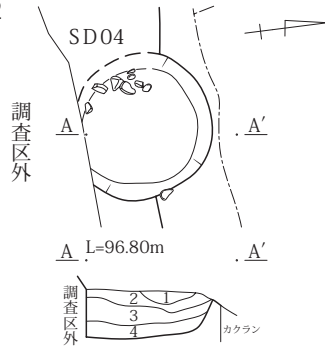
SK01



SK01

- 10YR3/2 黒褐色土 しまり強 粘性中 ローム粒・焼土粒・礫(φ 5mm)微量含む
- 10YR2/2 黒褐色土 しまり強 粘性強 ローム粒少量、焼土粒やや少量、ロームブロック(φ 5mm)・白色粒(軽石)・礫(拳大)微量含む。

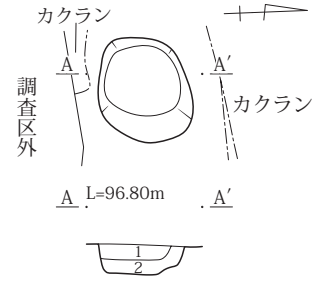
SK02



SK02

- 10YR3/3 暗褐色土 しまり強 粘性なし ロームブロック(φ 3mm)・ローム粒・炭化物粒・焼土粒(φ 3mm)微量含む。
- 10YR3/2 黒褐色土 しまり強 粘性弱 ローム粒少量、炭化物粒・焼土粒・白色粒微量含む。炭化物厚さ2mmの帯状で20cmあり、木皮か。
- 10YR3/2 黒褐色土 しまり中 粘性中 ロームブロック(φ 5mm)・ローム粒・炭化物(φ 5mm)・焼土粒・酸化鉄粒微量含む。ロームブロック(φ 3mm)あり。
- 10YR3/2 黒褐色土 しまり中 粘性強 ロームブロック(φ 5mm)少量、ローム粒・炭化物(φ 5mm)・焼土粒微量含む。近世瓦微量含む。

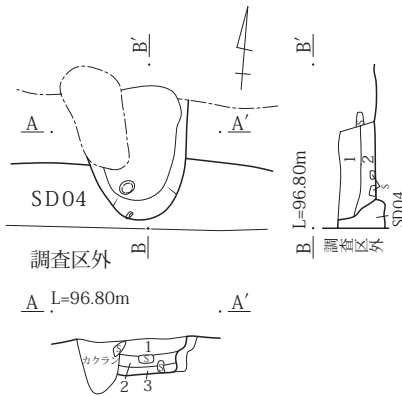
SK03



SK03

- 10YR2/3 黒褐色土 しまり強 粘性弱 炭化物粒・酸化鉄粒少量、ロームブロック(φ 1cm)・ローム粒微量含む。
- 10YR3/2 黒褐色土 しまり強 粘性強 ローム粒少量、ロームブロック(φ 1cm)・焼土粒・白色粒微量含む。

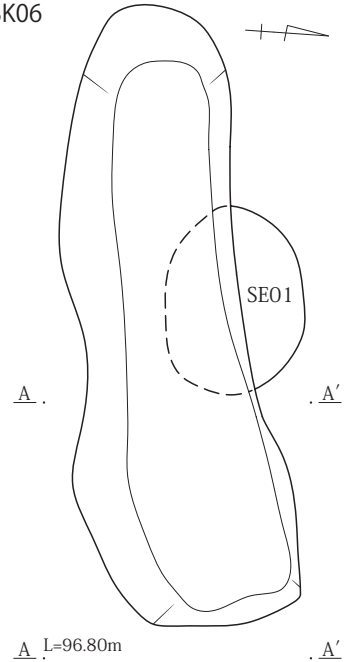
SK04



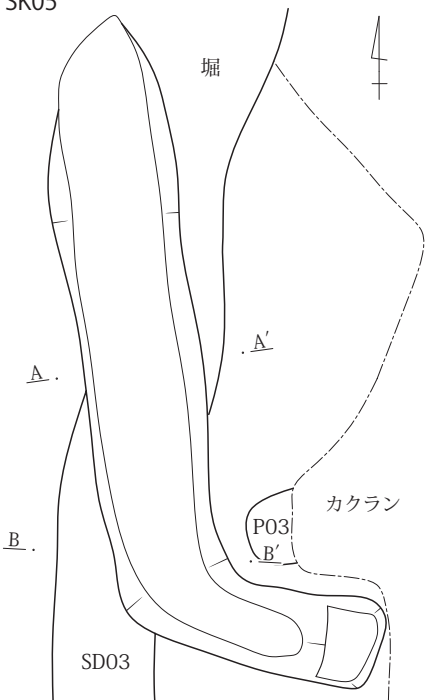
SK04

- 10YR3/3 暗褐色土 しまり強 粘性弱 ローム粒・炭化物粒・焼土粒・白色粒・礫(φ 3cm・φ 1cm)微量含む。
- 10YR3/4 暗褐色土 しまり強 粘性弱 ローム粒少量、炭化物粒・焼土粒(φ 5mm)・礫(拳大・φ 3~5cm)微量含む。
- 10YR3/4 暗褐色土 しまり強 粘性弱 ローム粒・炭化物粒・礫(φ 3cm)微量含む。

SK06



SK05

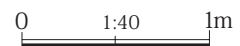


SK05

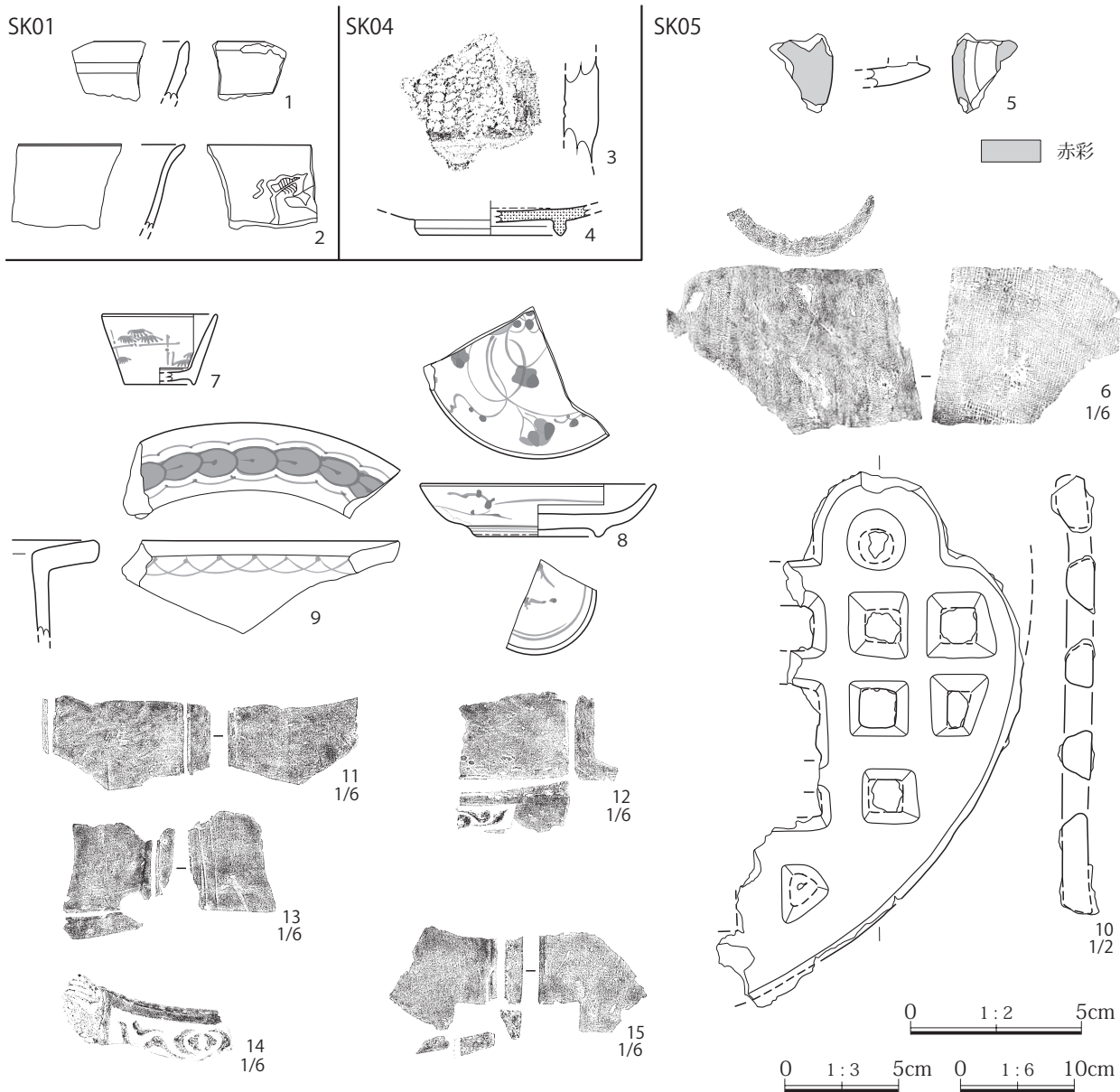
- 10YR3/2 黒褐色土 しまり強 粘性なし 酸化鉄粒少量、ロームブロック(φ 3cm)・ローム粒・炭化物粒・焼土粒・礫(φ 3cm)微量含む。
- 10YR4/2 灰黄褐色シルト質砂 しまり弱 粘性弱 ロームブロック(φ 3cm)・ローム粒・酸化鉄粒少量、焼土粒・礫(φ 1cm)微量含む。
- 10YR4/2 灰黄褐色土 しまり強 粘性弱 ローム粒多量、酸化鉄粒微量含む。
- 10YR3/2 黒褐色シルト質砂 しまり弱 粘性弱 ローム粒・白色粒・礫(φ 3cm)微量含む。
- 10YR4/2 灰黄褐色シルト質砂 しまり弱 粘性中 ローム粒多量、炭化物粒・酸化鉄粒微量含む。
- 10YR3/3 暗褐色土 しまり強 粘性なし ローム粒少量、ロームブロック(φ 3cm)・白色粒(軽石)微量含む。
- 10YR4/2 灰黄褐色砂質土 しまり中 粘性強 ロームブロック(φ 5mm)・ローム粒・酸化鉄(φ 1cm)・礫(拳大)微量含む。
- 10YR3/2 黒褐色土 しまり強 粘性弱 ロームブロック(φ 1cm)・酸化鉄(φ 5mm)・礫(φ 5cm)微量含む。

SK06

- 10YR4/3 にふい黄褐色土 しまり強 粘性中 酸化鉄(φ 1cm)・礫(φ 1cm)少量、ローム粒・炭化物(φ 1cm)微量含む。
- 10YR5/3 にふい黄褐色砂質シルト しまり強 粘性強 酸化鉄(φ 1cm)多量、ローム粒・白色軽石(φ 1cm)少量、(φ 3cm)微量含む。
- 10YR6/3 にふい黄褐色砂質シルト しまり強 粘性強 白色軽石(φ 1cm)・酸化鉄粒・礫(φ 1cm)微量含む。
- 10YR4/2 灰黄褐色砂質シルト しまり強 粘性中 酸化鉄(φ 1cm)少量、白色軽石(φ 5mm)微量含む。炭化物(φ 3cm)あり。



第34図 1号~6号土坑平面・断面図



第35図 土坑出土遺物

形と規模 若干潰れた円形を呈する。規模は長軸 1.00 m、短軸 0.73 mを測る。堀壁面の中ほどにあるため遺構確認面からは 2.7 mに達したことから、これ以上の掘削は危険と判断し、確認できた面から深さ 79cmの所で掘り下げをとりやめた。**長軸方向** N-90°-E。**壁面** 垂直に立ち上がる。**底面** 危険と判断し掘削をやめたため不明。**遺物** 陶磁器、古代瓦、土師器、古式土師器、木製品が出土し、そのうち青磁、古代瓦、土師器、古式土師器、木製品を図示した。**備考** 遺構の形態の特徴から井戸跡と判断した。自然堆積土の上に人為堆積土が堆積している状況から、帰属時期は二ノ丸南堀が造られる前の中世と考えられる。

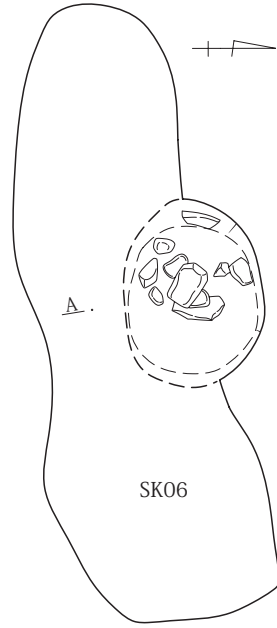
第5節 溝跡

今回の発掘調査では4条の溝跡が確認された。調査区南壁際に2条(SD02・04)、二ノ丸南堀付近に2条(SD01・03)が分布する。SD01は3つに分断されているが同一直線上にあることから1つの溝跡と判断した。SD01・02・04は二ノ丸南堀とほぼ平行に、SD03は二ノ丸南堀と直交する方向に走る。

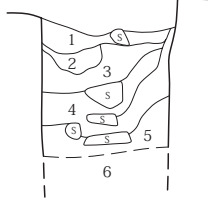
1号溝跡 (第37図・第38図、写真図版6・13)

位置 調査区東部、二ノ丸南堀に隣接する。**重複関係** SD03と重複し、本遺構の方が古い。**遺存状態**

SE01



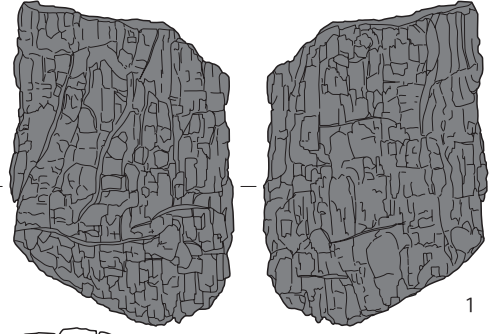
A L=94.70m A'



A'

- SE01
1. 10YR6/3 にふい黄褐色粘質土 しまり強 粘性中 酸化鉄(φ 1cm)多量、白色軽石(φ 1cm)少量、礫(拳大)微量含む。
 2. 10YR5/3 にふい黄褐色砂質シルト しまり中 粘性弱 酸化鉄(φ 5mm)少量、酸化鉄(φ 1cm)・礫(φ 3mm)微量含む。
 3. 10YR3/1 黒褐色シルト質砂 しまり中 粘性弱 炭化物粒上層に少量、にふい黄褐色土粒微量含む。礫(人頭大)あり。
 4. 10YR3/2 黒褐色シルト質砂 しまり中 粘性弱 にふい黄褐色土粒少量、酸化鉄(φ 5mm)微量含む。礫(人頭大)あり。
 5. 10YR2/2 黒褐色シルト質砂 しまり中 粘性中 にふい黄褐色土粒微量、礫(人頭大)微量含む。
 6. 10YR2/2 黒褐色シルト質砂 しまり中 粘性弱 炭化物粒(φ 1cm)・にふい黄褐色土粒微量含む。

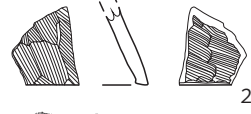
0 1:40 1m



1



炭化



2



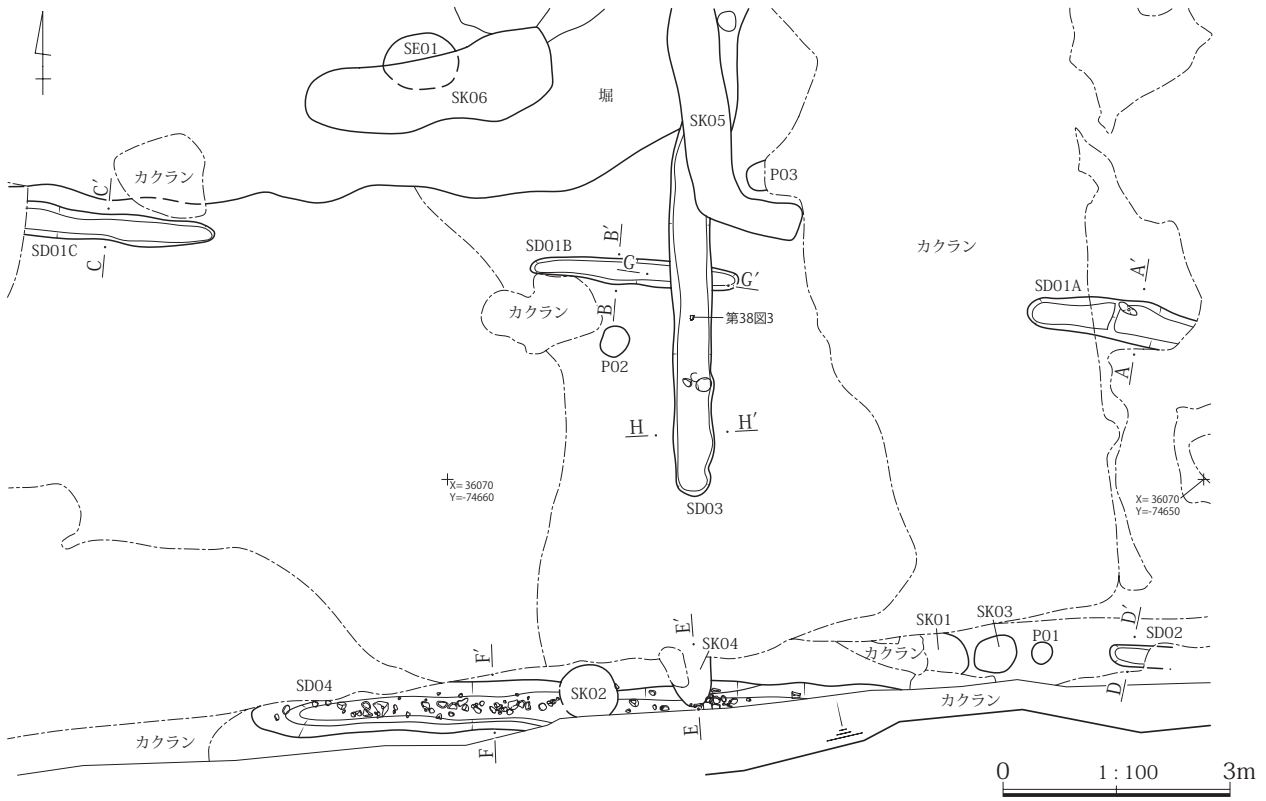
3



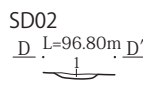
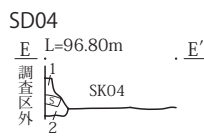
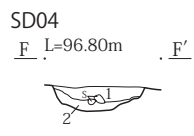
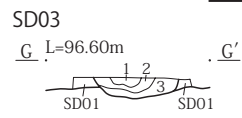
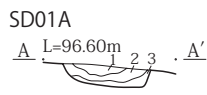
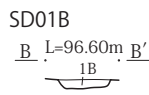
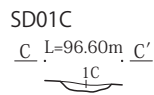
5

0 1:3 5cm 0 1:6 10cm

第 36 図 1 号井戸跡平面・断面図、出土遺物



0 1:100 3m



0 1:50 1m

第 37 図 1 号～4 号溝跡平面・断面図

SD01

- 10YR2/3 黒褐色土 しまり強 粘性なし 酸化鉄(φ5mm)少量、ロームブロック(φ1cm・φ5mm)・ローム粒・明黄褐色粘土(φ5mm)・炭化物粒・焼土粒微量含む。
- 10YR3/3 暗褐色土 しまり強 粘性弱 ローム粒多量、ロームブロック(φ5mm)・焼土粒・酸化鉄粒微量含む。
- 10YR3/3 暗褐色土 しまり強 粘性中 ローム粒少量、ロームブロック(φ5mm)・焼土粒・酸化鉄(φ5mm)・礫(φ1cm)微量含む。
- 10YR2/3 黒褐色土 しまり強 粘性なし ロームブロック(φ5mm)少量、ローム粒・炭化物(φ3mm)・焼土粒・白色粒(軽石か)・酸化鉄粒微量含む。
- 10YR3/4 暗褐色土 しまり強 粘性弱 ロームブロック(φ5mm)・ローム粒・炭化物粒・白色粒(軽石か)微量、焼土粒ごく微量含む。

SD02

- 10YR2/3 黒褐色土 しまり強 粘性なし ローム粒少量、ロームブロック(φ5mm)・炭化物(φ5mm)・焼土粒・礫(φ1cm)微量含む。

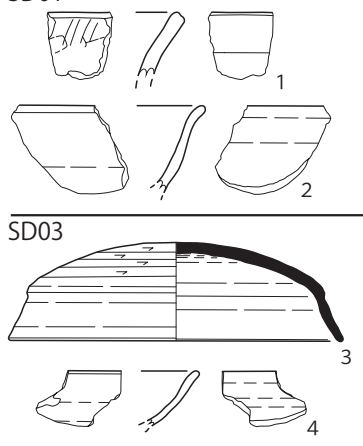
SD03

- 10YR3/3 暗褐色土 しまり強 粘性なし 炭化物粒・焼土粒・白色軽石(φ5mm)微量含む。
- 10YR3/3 暗褐色土 しまり強 粘性弱 ローム粒・礫(φ5cm)少量、ロームブロック(φ5mm)・炭化物粒・焼土粒(φ5mm)・白色粒(軽石)・礫(拳大)微量含む。
- 10YR3/3 暗褐色土 しまり強 粘性なし ローム粒少量、ロームブロック(φ3mm)・炭化物粒・白色粒・礫(φ1cm)微量含む。
- 10YR3/2 黒褐色土 しまり強 粘性なし ロームブロック(φ5mm)・ローム粒・焼土粒微量含む。

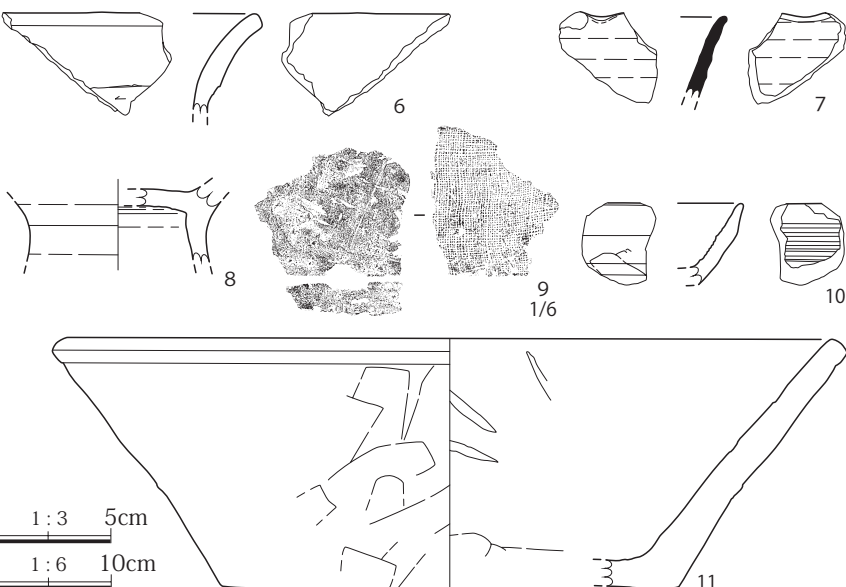
SD04

- 10YR3/2 黒褐色土 しまり強 粘性なし ロームブロック(φ5mm)・炭化物粒(φ3mm)・焼土粒・礫(拳大)微量含む。ロームブロック(φ3cm)あり。
- 10YR2/2 黒褐色土 しまり強 粘性なし ローム粒・礫(φ3cm~拳大が列状)少量、ロームブロック(φ1cm)・焼土粒微量含む。

SD01



SD04



第38図 溝跡出土遺物

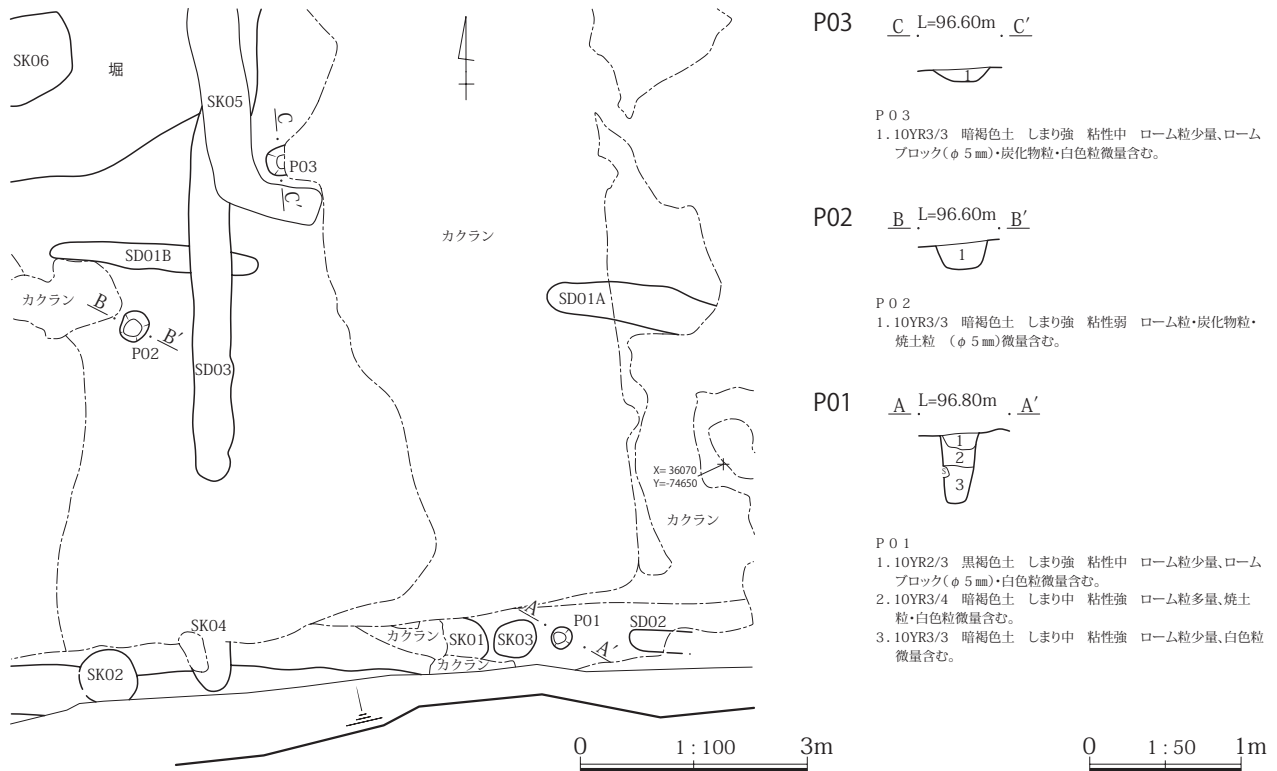
西側がカクランによって壊されている。上部もカクランによって壊されていると思われ、途切れるように確認された。**覆土** 黒褐色土・暗褐色土が堆積する。**規模** 長さは15.6m残存する。幅は0.3~0.6m、深さは6~17cmを測る。**長軸方向** N-84°-W。**壁面** 外傾して立ち上がる。**底面** 概ね平坦である。**遺物** 土師器、須恵器が出土し、そのうち土師器甕、須恵器杯を図示した。**備考** 本遺構は、二ノ丸南堀の南側に隣接し、東西方向に走る幅の狭い溝跡である。堀の南側には土塁があったと考えられること、出土遺物が平安時代のものに限られていたことから、本遺構の帰属時期は平安時代と考えられる。

2号溝跡 (第37図、写真図版6)

位置 調査区南壁際。**重複関係** なし。**遺存状態** 東側がカクランによって壊されている。西側もカクランによって壊されている可能性がある。**覆土** 黒褐色土である。**規模** 長さは0.9m残存する。幅は0.3m、深さは3cmを測る。**長軸方向** N-83°-W。**壁面** 外傾して立ち上がる。**底面** 概ね平坦である。**遺物** なし。**備考** 本遺構は、調査区南壁際に位置する東西方向に走る溝跡と考えられる。出土遺物がないため本遺構の帰属時期は不明であるが、SD01と平行していること、規模も近いことからSD01と同時期の平安時代の可能性が考えられる。

3号溝跡 (第37図・第38図、写真図版6・7・13)

位置 調査区東部、二ノ丸南堀に接する。**重複関係** 二ノ丸南堀・SK05・SD01と重複し、本遺構は二ノ丸南堀・SD05より古く、SD01より新しい。**遺存状態** 北側がSK05によって壊されている。**覆土** 暗褐色土・黒褐色土が堆積する。**規模** 長さは5.0m残存する。幅は0.4~0.5m、深さは8cmを測る。**長軸方向** N-1°-W。**壁面** 外傾して立ち上がる。**底面** 概ね平坦であるが、北側に向かって非常に緩やかに傾斜する。**遺物** 中世土師質土器、須恵器、土師器が出土し、そのうち土師質土器かわらけ、須恵器



第39図 1号～3号ピット平面・断面図

坏蓋を図示した。備考 本遺構は、二ノ丸南堀と南側で隣接し、堀と直交する方向に走る溝跡である。堀の南側に土塁があったと考えられること及び出土遺物から、本遺構の帰属時期は中世と考えられる。

4号溝跡 (第37図・第38図、写真図版7・13)

位置 調査区南壁際。 **重複関係** SK02・SK04と重複し、本遺構の方が古い。 **遺存状態** 東側が調査区外にあるが、概ね良好。 **覆土** 黒褐色土・暗褐色土が堆積する。 **規模** 長さは8.6mが確認された。幅は0.7m、深さは26cmを測る。 **長軸方向** N-90°-E。 **壁面** 外傾して立ち上がる。 **底面** 中央部に向かって緩やかに傾斜する。 **遺物** 近世瓦、近世陶器・焼締め陶器・土師質土器、古代瓦、土師器、須恵器が出土し、そのうち焼締め陶器鉢、土師質土器かわらけ、古代瓦、土師器甕、須恵器坏・高台付坏を図示した。

備考 本遺構は、調査区南壁際に位置する東西方向に走る溝跡である。二ノ丸南堀と平行していることから堀・土塁と関わりのあるものと考えられ、帰属時期は近世と考えられる。

第6節 ピット

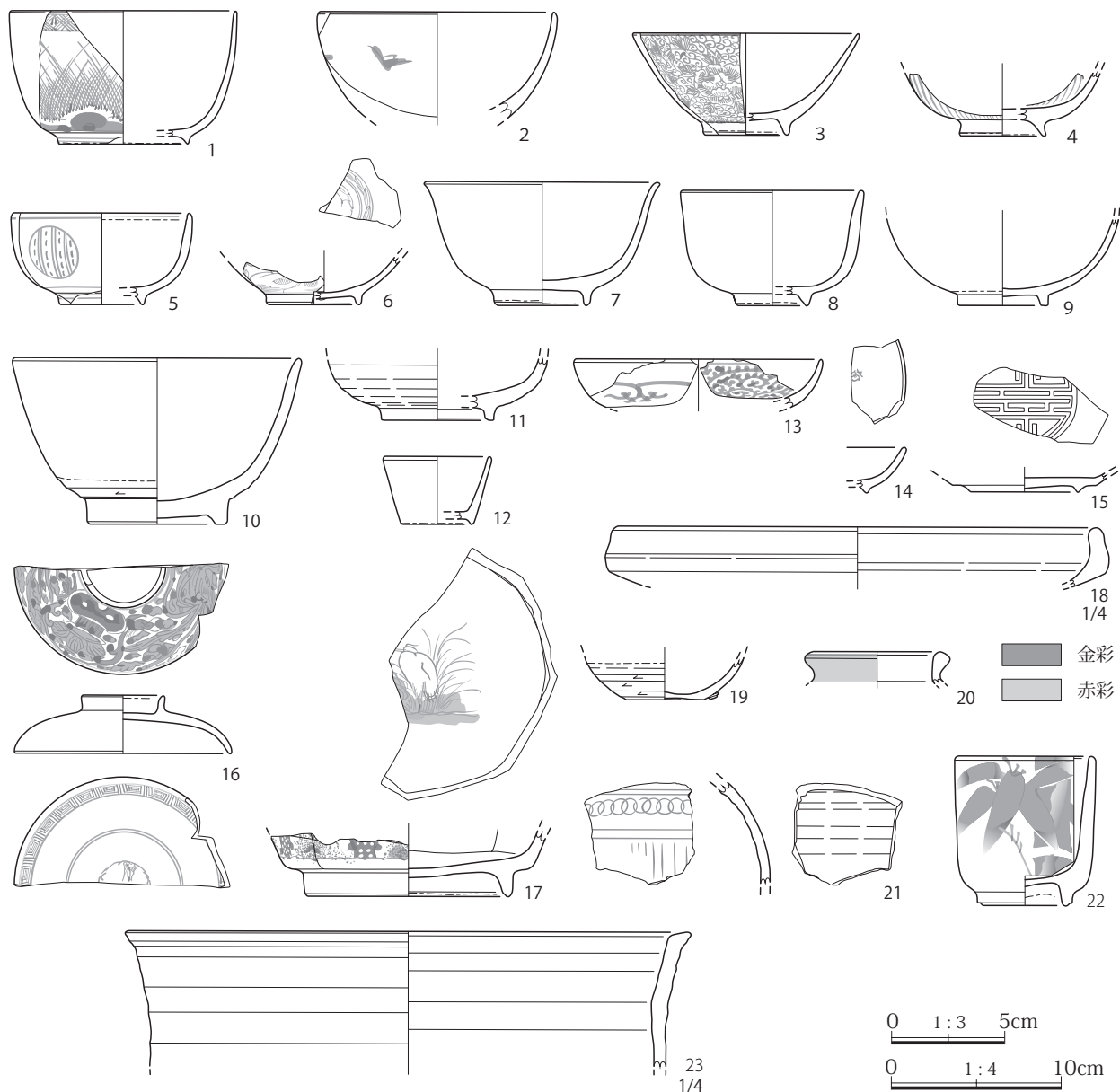
今回の発掘調査では3基のピットが確認された。カクランによって削平を受けていることから、本来はもっと多数のピットがあった可能性が考えられる。

1号ピット (第39図、写真図版7)

位置 調査区東部。 **重複関係** なし。 **遺存状態** 良好。 **覆土** 黒褐色土・暗褐色土が堆積する。 **平面形と規模** 円形を呈する。規模は長軸29cm、短軸27cm、深さは46cmを測る。 **長軸方向** なし。 **壁面** ほぼ垂直に立ち上がる。 **底面** 概ね平坦である。 **遺物** なし。 **備考** 本遺構は、形態から柱穴と考えられる。出土遺物がないことから、本遺構の帰属時期は不明である。

2号ピット (第39図、写真図版7)

位置 調査区東部。 **重複関係** なし。 **遺存状態** 良好。 **覆土** 暗褐色土である。 **平面形と規模** 不整形円形を呈する。規模は長軸41cm、短軸35cm、深さは17cmを測る。 **長軸方向** なし。 **壁面** 外傾して立ち上がる。 **底面** 概ね平坦である。 **遺物** 土師器が出土したが図示し得なかった。 **備考** 本遺構は、形態に



第40図 遺構外出土遺物

特徴がないことから性格は不明である。遺物が出土しているが遺構に伴うものではないと考えられることから、本遺構の帰属時期は不明である。

3号ピット (第39図)

位置 調査区東部。 **重複関係** なし。 **遺存状態** 東半分をカクランによって壊されている。 **覆土** 暗褐色土である。 **平面形と規模** 不整円形を呈する。規模は長軸41cm、短軸35cm、深さは17cmを測る。 **長軸方向** なし。 **壁面** 外傾して立ち上がる。 **底面** 概ね平坦である。 **遺物** 土師器が出土したが図示し得なかった。 **備考** 本遺構は、形態に特徴がないことから性格は不明である。遺物が出土しているが遺構に伴うものではないと考えられることから、本遺構の帰属時期は不明である。

第7節 遺構外出土遺物

今回の発掘調査では、遺構外からも多数の近世陶磁器・近世瓦のほか、近代磁器及び中世土器が出土した。近世瓦はまとまっていたほうが見易いと考え掘出土遺物と一緒に掲載したが、土器類は分けて第40図に掲載することとした。廃土の9割近くが堀覆土であったことから、廃土出土遺物は堀内から出土したものの可能性が高い

と思われる。

第40図1～6は染付碗、第40図7～9は白磁碗、第40図10・11は陶器碗である。第40図12は白磁小坏である。第40図13・15は染付皿、第40図16は染付蓋、第40図17は染付鉢である。第40図18は土師質土器内耳土器、いわゆる焙烙、第40図19は陶器急須である。第40図20が色絵小型壺、第40図21が陶器壺である。第40図14・22は近代の染付皿・碗、第40図23は中世の土師質土器内耳土器、いわゆる内耳鍋である。

第8節 まとめ

高崎城遺跡25(第25次)の発掘調査では、近世高崎城二ノ丸南堀及び近代土坑2基、近世土坑3基・溝跡1条、中世井戸跡1基・溝跡1条、平安時代と思われる溝跡1条、時期不明の土坑1基・溝跡1条・ピット3基が確認された。

平安時代と思われる遺構は二ノ丸南堀の南に隣接する溝跡(SD01)である。二ノ丸南堀と方向が同一であるが、堀の南側に土塁があったとされることから高崎城築城以前で、出土遺物から平安時代のものと考えられる。時期不明としたSD02がSD01と長軸方向・規模がほぼ同じであることから道路の側溝など一連の遺構となる可能性が考えられる。

中世の遺構は二ノ丸南堀と重複する井戸跡(SE01)と溝跡(SD03)である。井戸跡が確認されたことから周辺に同時期の居住域があると考えられるが、カクランによって削平されてしまったためか今回の調査範囲では確認できなかった。

近世の遺構は高崎城二ノ丸南堀、土坑3基(SK01・02・04)、溝跡1条(SD04)である。高崎城二ノ丸南堀は、今回の発掘調査範囲において南中門より西側の堀の東端部が確認された。堀と南中門の間には土塁があったと想定されることから南中門の遺構は確認されなかったが、南中門の位置はほぼ判明したということが出来る。また、東端部が確定できたことによって、過去の14次・16次・24次発掘調査成果と合わせて南中門西側の高崎城二ノ丸南堀の全体像を想定することが可能となった(第6図・第7図)。

二ノ丸南堀からは「威徳寺」と刻書された棧瓦が出土した。焼成前に寺名が刻まれていることから威徳寺で使用するために作られたものである。今回力不足で至らなかったが、瓦を精査することで瓦を調達した窯ないし産地などが判明されるものと思われる。また、底面に「●●●● 鳥居氏」と人名が墨書された陶器小型碗が出土している。複数の高崎藩関連の文献資料に鳥居姓の人物が記載されていることから、松平(大河内)家の家臣の鳥居何某氏にまつわるものと考えられる。判読できていない文字があるため目的が不明な状況であるが、残りの文字が判読されて何のために墨書をしたためのかが明らかになることを期待したい。堀の中からは陶磁器などの多量の土器類、木製品のほか、金属製品、石製品、瓦といった遺物が出土した。堀の中から出土しているということで、落とした・廃棄したものがほとんどであると思われるが、様々な種類・形態のものが確認できたことで当時使用していたものを知り、理解するための一助となったものとする。

引用・参考文献

『高崎城遺跡』の第1次～第24次発掘調査報告書は表2に掲載しているのでそちらを参照

公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団 2017 『東宮遺跡(3) ハッ場ダム建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書第51集』
財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団 2012 『東宮遺跡(2) 一遺物編― ハッ場ダム建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書第38集』

高崎市市史編さん委員会 2002 『新編 高崎市史 資料編5 近世I』

九州近世陶磁学会 2009 『江戸後期における庶民向け陶磁器の生産と流通 関東・東北・北海道編』

九州近世陶磁学会 2004 『受容層の違いによる九州陶磁の様相』

九州近世陶磁学会 2001 『第11回 九州近世陶磁学会 資料 国内出土の肥前磁器 ―東日本の流通をさぐる―』

関西近世考古学研究会 2000 『第12回関西近世考古学研究会大会 近世の実年代資料』

千代田区教育委員会・四番町歴史民俗資料館 1987 『千代田区立四番町歴史民俗資料館 特別展』

第3表 遺物観察表

土器・陶磁器

() : 推定 | | : 遺存

挿図	番号	出土位置	種別・器種	法量 (cm)			胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	遺存状況
				口径	底径	器高					
8	1	I区堀下層	青磁染付碗	(12.4)	5.8	7.2	密	良好	明緑灰色	外面:全面青磁釉施軸。1~2mmの厚みがある。内面:口縁部圏線の間に唐草文。体部草木文を3単位。見込み二重圏線、中央に草木文。	口縁部 1/3 体部 3/4 底部完存
8	2	I区堀下層	染付碗	(9.2)	(3.4)	5.7	密	良好	—	外面:口縁部圏線。体部二重縦線で区画し、一方に杉林・塔・柳、もう一方に竜・雨・太陽・雲など。体下部圏線、圏線から左下へ延びる線、高台付近輪花状に色付けし中に線を書く。高台部二重圏線。内面:口縁部四方禪文。見込み二重圏線、中央に五弁花文か。	1/2
8	3	I区堀上層	染付碗	8.3	4.2	4.3	密	良	—	外面:口縁部圏線。体部中央が塗りつぶされた横縞模様の横長変型の左側に中央が塗りつぶされた縦縞模様の横長変型を重ねた文様を、茶釜のような文様の両側に描く。体下部圏線。高台部二重圏線。内面:無文。口唇部釉剥ぎ。割れ面に漆付着、漆継ぎの痕跡か。	1/2
8	4	I区堀下層	染付碗	(8.6)	(3.0)	5.8	密	良好	—	外面:口縁部圏線。体部草花文・連弁文。高台部圏線。内面:口縁部四方禪文。見込み二重圏線、中央に環状松竹梅文。	1/2
8	5	I区堀下層	染付碗	(9.2)	(4.4)	5.0	密	良好	—	外面:口縁部~体下部11本の輪線文。高台部圏線。内面:無文。口唇部釉剥ぎ。	1/4
8	6	I区堀下層	染付碗	9.8	4.2	6.6	密	良好	—	外面:口縁部~体部鋸歯状に植物文(桐か)を配置しその他を石垣文で埋める。体下部圏線。高台部二重圏線。内面:植物文(桐か)を見込みに1つ、体部に時計回りに推定5つ配置し、その他を石垣文で埋める。	口縁部~ 体部 1/3 底部完存
8	7	II区堀下層	染付碗	(10.3)	(4.5)	5.1	密	良好	—	外面:口縁部~体上部雨降文、体中部波形文。共に型紙摺り。体下部圏線。高台部二重圏線。内面:無文。	1/3
8	8	I区堀下層	染付碗	—	(4.5)	[3.6]	密	良好	—	外面:体部草木文。体下部圏線。高台部二重圏線。底部外縁圏線、中央に「明・「製」。「大明年製」と思われる。内面:無文。	体中部~ 底部 1/3
8	9	I区堀下層	染付碗	(9.7)	—	[4.8]	密	良好	—	外面:口唇部錆軸。口縁部~体上部型紙摺りの雨降文。体中部2つの雷と雨雲又は風か。体下部圏線。内面:無文。	口縁部~ 体部 1/3
8	10	II区堀下層	染付碗	(9.6)	—	4.2	密	良好	—	外内面:体部5羽以上一群の鳥の群れを描く。外面は右から左へ、内面は上から下へ飛んでいる。	口縁部~ 体部破片
8	11	I区堀上層	染付碗	—	(6.9)	[3.5]	密	良好	—	くらわんか碗か。外面:体下部文様不明、圏線。内面:無文。漆継ぎが行われている。	体下部~ 底部 1/2
8	12	I区堀下層	染付碗	(10.1)	3.8	5.1	密	良好	—	外面:口縁部~体下部二重網目文。体下部圏線。高台部圏線。底部中央に三重円。内面:口縁部~底部外縁網目文。見込み二重圏線、中央に菊花文か。	口縁部~ 体部 1/4 底部 1/2
8	13	I区堀下層	染付碗	(9.4)	(3.8)	5.1	密	良	—	外面:口縁部~体下部二重網目文。高台部二重圏線。内面:口縁部~底部外縁網目文。見込み二重圏線、中央に菊花文か。	1/3
8	14	I区堀上層	染付碗	(10.2)	(3.6)	5.4	密	良好	—	外面:口縁部圏線。口縁部~体中部左側が花文・右側が三枚葉に半円の植物文の上に4つ下に2つの渦状文様を1つの単位として全面に描く。体下部上に一重、下に二重の圏線、間に形態不明の線描を交互に描く。高台部圏線。内面:口縁部崩れた四方禪文。見込み圏線、中央に「文」・「年」。「文化年製」と思われる。	1/3
8	15	I区堀上層	染付碗	(10.6)	(3.6)	5.6	密	良好	—	外面:第8図14と同じ意匠であるが口縁部~体中部の文様がわずかに異なる。右側の植物文様の上下の渦文の上側は両端が曲線に変わり、下側は描く方向が上下逆さになっている。描き方も雑である。内面:口縁部崩れた四方禪文。見込み圏線、中央に「文化」。「文化年製」と思われる。	1/3
8	16	II区堀下層	染付碗	(10.6)	4.3	6.1	密	良好	—	外面:口縁部~体下部草木文。体下部圏線。高台部二重圏線。底部外縁圏線、中央に文様。文字か記号か不明。内面:無文。	口縁部~ 体部 1/3 底部完存
8	17	I区堀下層	染付碗	(10.0)	(3.4)	5.9	密	良好	—	外面:口縁部圏線。体部松・亀を描いたものか。体下部二重圏線。高台部圏線。内面:口縁部圏線の間に3本1単位の簾状文。	1/4
8	18	I区堀下層	染付碗	(10.2)	(3.9)	5.0	密	良好	—	外面:口縁部~体部叢草・松・草花・地面を描く。内面:無文。	1/4
8	19	I区堀上層	染付碗	(10.3)	3.3	5.1	密	良好	—	外面:口縁部圏線。口縁部~体下部上下に縦線文、中間に雲文を描く。体下部上に一重、下に二重圏線、間に井桁文と形態不明の線描を交互に描く。高台部圏線。内面:口縁部崩れた四方禪文。見込み圏線、中央に線描があり、「寿」の文字である可能性が高い。	1/3
8	20	I区堀上層	染付碗	(10.5)	(3.8)	5.5	密	良好	—	外面:口縁部圏線。口縁部~体下部上下に縦線文、中間に簡略化された雲文を描く。体下部上に一重、下に二重圏線、間に三点文様と形態不明の線描を交互に描くと思われる。高台部圏線。内面:口縁部崩れた四方禪文。体下部二重圏線。	1/4
8	21	I区堀下層	染付碗	10.0	3.6	5.1	密	良好	—	外面:体下部植物文3単位。内面:無文。	2/3
8	22	I区堀上層	染付碗	9.5	3.5	4.2	密	良好	—	小型碗。外面:体部草花文3単位。体下部圏線。高台部圏線。内面:口縁部圏線。見込み圏線、中央に点と横棒を線描。	ほぼ完形
9	23	I区堀下層	染付碗	(10.0)	—	[3.6]	密	良好	—	外面:口縁部二重圏線。体部籠・草木文と思われる。内面:口縁部圏線。	口縁部破片
9	24	II区堀下層	染付碗	(9.9)	—	[4.4]	密	良好	—	外面:口縁部圏線。口縁部~体部簡略化した嬰珞文に草花文を合わせたと思われる。体下部圏線。内面:口縁部二重圏線。	口縁部~ 体部破片
9	25	II区堀下層	染付碗	(9.8)	—	[4.2]	密	良好	—	外内面:口縁部から底部に向けて縦線を多数書き縦縞模様を形成する。底部に向かうにつれて線が細くなる。	口縁部~ 体部破片
9	26	II区堀下層	染付碗	(10.0)	—	[4.0]	密	良好	—	外面:口縁部圏線。口縁部~体部細い線で竹林と筍と思われるものを描く。雪中筍掘図か。内面:口縁部二重圏線の間に雷文。	口縁部~ 体部破片
9	27	I区堀下層	染付碗	8.6	2.9	4.7	密	良好	—	小型碗。外面:体部雲を表現したと思われる大小2種類の文様を交互に描く。内面:見込み外面の小さい文様と同じもの。	口縁部~ 体部 1/2 底部完存
9	28	I区堀下層	染付碗	6.8	2.7	4.8	密	良好	—	小型碗。外面:口縁部圏線。口縁部~体下部の文様は2系統見られる。1つは上部に笹(竹か)・下部に植物文、もう1つが体中部に風または鳥といった動きのある事象を描いたものと思われる。高台部圏線。内面:無文。	ほぼ完形
9	29	I区堀下層	染付碗	(6.7)	2.8	5.2	密	良好	—	小型碗。外面:口縁部~高台部に瑠璃軸を施軸。底部透明軸施軸。内面:無文、透明軸施軸。高台部透明軸、端部に瑠璃軸を施軸し一部を残し軸剥ぎ。	口縁部~ 体部 1/2 底部完存
9	30	I区堀下層	染付碗	(7.1)	(3.1)	4.7	密	良好	—	小型碗。外面:体部鳥と思われる文様を描く。体下部圏線。高台部二重圏線。高台部圏線。内面:無文。	1/4
9	31	I区堀下層	染付碗	8.5	2.8	4.6	密	良好	—	小型碗。外面:口唇部錆軸。体部篆書体と思われる文字を90°ずらして交互に書く。1つは「林」と読めるがもう1つは判読不能。内面:見込みに形態不明の文様。	口縁部~ 体部 2/3 底部完存

挿 図	番号	出土位置	種別・器種	法量 (cm)			胎土	焼成	色調	器形・成・整形、文様等の特徴	遺存状況
				口径	底径	器高					
9	32	I区 堀下層	染付 碗	(6.3)	—	[2.6]	密	良好	—	小型の端反碗。外面：口縁端部圏線。体部草木文。 内面：無文。	口縁部破片
9	33	I区 堀下層	染付 碗	(8.8)	(4.8)	4.1	密	良好	—	小型碗。外面：体部植物文。葉の形状から蕪または大根と思われる。 内面：無文。	口縁部～ 底部 1/4
9	34	II区 堀下層	染付 碗	8.7	—	[3.1]	密	良好	—	小型碗。第9図33と同規格品と思われる。外面：体部植物文。葉の形状から蕪または大根と思われる。 内面：無文。	口縁部～ 体部 1/4
9	35	I区 堀下層	染付 碗	—	6.1	[4.9]	密	良好	—	筒形碗。外面：体部重ねた菊花文と交差する直線を描く。体下部圏線。底部際二重圏線。高台部二重圏線。底部中央二重角溝福。 内面：無文。	体下部～ 底部 1/2
9	36	I区 堀下層	染付 碗	(7.6)	—	[5.0]	密	良好	—	筒形碗。外面：口縁部圏線。体部菊花文を推定4単位描き間を交差線で埋める。底部際圏線。 内面：口縁部四方標文。	口縁部～ 体部 1/4
9	37	I区 堀下層	色絵 碗	(8.4)	—	[3.7]	密	良好	—	端反碗。文様の色は剥がれば黒一色。外面：口縁部～体部草木文と思われる。 内面：無文。	口縁部～ 体部破片
9	38	II区 堀下層	白磁 碗	10.2	3.4	4.8	密	良好	—	肥前か。	口縁部～ 体部 1/2 底部完存
9	39	I区 堀下層	白磁 碗	7.0	2.8	4.2	密	良好	—	小型碗。口唇部錆釉施釉。	1/2
9	40	I区 堀下層	白磁 碗	—	4.0	[3.5]	密	良好	—	青白磁か。肥前か。	体下部 1/3 底部完存
9	41	II区 堀下層	白磁 碗	—	(6.4)	[3.0]	密	良好	—	肥前か。	体下部～ 底部 1/4
9	42	I区 堀下層	陶器 碗	(16.4)	(7.6)	7.7	密	良好	黒色	口縁端部は若干窪んだ平らで内側が出っ張るようにつまみ調整される。その上に盛り上がる様に黒色釉を施し口縁部の丸みを形成する。外面：ロクロ整形。底部は回転ヘラケズリ。高台端部～底部を除いて褐色釉を施し、口縁端部を除いて黒色釉を二度掛けする。体部に波線のような模様となる様に白色釉を掛ける。 内面：ロクロ整形。全面褐色釉の後黒色釉を二度掛けする。目跡あり。瀬戸焼か。	口縁部 1/8 体部～底部 1/3
9	43	II区 堀下層	陶器 碗	—	4.6	[4.1]	密	良好	オリーブ 褐色	天目茶碗か。釉葉が白く変質していることから二次被熱か。外面：体下部回転ヘラケズリ。高台部回転ヘラケズリ。底部ロクロナデ。体下部オリーブ褐色釉施釉。 内面：ロクロ整形。全面オリーブ褐色釉施釉。瀬戸焼か。	体下部 1/3 底部完存
9	44	I区 堀下層	陶器 碗	—	(5.0)	[3.6]	密	良好	暗緑灰色	釉葉は窯変したか。外面：ロクロ整形。高台端部～底部以外の前面に釉葉施釉。 内面：ロクロ整形。全面に釉葉施釉。瀬戸焼か。	体下部～ 底部 1/4
9	45	I区 堀下層	陶器 碗	(10.1)	3.4	6.6	密	良好	灰白色	天目茶碗。外面は釉葉の剥落が激しい。外面：ロクロ整形。高台端部回転ヘラケズリ。底部ロクロナデ後外縁部に「京」の刻印を押す。口縁部～体部に白色釉・褐色釉施釉。 内面：ロクロ整形後白色釉施釉。瀬戸焼か。	口縁部～ 体中部 1/3 体下部～ 底部完存
9	46	II区 堀 A 軽石層	陶器 碗	—	(5.8)	[1.4]	密	良好	灰白色	外面：体下部～底部回転ヘラケズリ。底部に「福●」の刻印を押す。体下部に黄白色施釉。 内面：ロクロ整形。全面に黄白色施釉。瀬戸焼か。	体下部～ 底部 1/6
9	47	II区 堀下層	陶器 碗	—	5.3	[1.4]	密	良好	灰褐色	天目茶碗の高台部か。外内面：ロクロナデ。灰褐色釉施釉。瀬戸焼か。	底部完存
9	48	I区 堀下層	陶器 碗	—	—	[3.0]	密	良	にぶい 黄橙色	外面：体部に刺突による文様・粘土貼付による文様施文。全面に黄色釉施釉。貼り付けた粘土の一部に褐色釉施釉。 内面：ナデか。全面に黄色釉施釉。瀬戸焼か。	口縁部破片
9	49	I区 堀下層	磁器 碗	(9.0)	(3.5)	5.1	密	良	灰白色	端反碗。口縁部がわずかに外反する。外面：ロクロ整形。体下部～高台部回転ヘラケズリ。口縁部～体下部灰色釉施釉。 内面：ロクロ整形。全面灰色釉施釉。瀬戸焼か。	1/5
9	50	I区 堀南壁	磁器 碗	(9.2)	3.0	5.2	密	良好	灰白色	端反碗。口縁部がわずかに外反する。外面：ロクロ整形。体下部～高台部回転ヘラケズリ。口縁部～体下部灰色釉施釉。 内面：ロクロ整形。全面灰色釉施釉。瀬戸焼か。	1/4
9	51	I区 堀下層	陶器 碗	(9.0)	—	[4.8]	密	良好	灰白色	端反碗。口縁部が外反する。外面：ロクロ整形。口縁部～体下部灰色釉施釉。 内面：ロクロ整形。全面灰色釉施釉。瀬戸焼か。	口縁部～ 体下部 1/6
9	52	II区 堀下層	陶器 筒碗	—	—	[8.6]	密	良好	灰白色	直角に曲がる2つの角を有する。四方筒向付と思われる。外面：茶色・黒色釉葉で口縁下部右上がりの横線、体部X字状に組んだ垣、そこから吊られた物、梅花文かか絵付けされる。 内面：無文。 外内面体部に透明釉、口縁部に緑色味を帯びた透明釉（灰釉か）施釉。織部焼か。	口縁部～ 体部破片
9	53	II区 堀下層	陶器 碗	(10.7)	(4.6)	6.6	密	良好	灰白色	高台部は削り出しか。外面：口縁部～体部ロクロナデ。高台部～底部回転ヘラケズリ。口縁部～体部透明釉施釉。 内面：ロクロナデ。全面透明釉施釉。瀬戸焼か。	1/6
9	54	I区 堀下層	陶器 碗	(8.6)	(3.4)	5.2	密	良好	灰白色	丸みを帯びる体部から口縁部が垂直に立ち上がる。腰折れ碗。外面：ロクロ整形。口縁部に交差する細い斜格子文と太い斜格子文を鉄釉で描く。口縁部～体下部に緑色味を帯びた透明釉を施釉。 内面：ロクロ整形。全面緑色味を帯びた透明釉を施釉。目跡あり。瀬戸焼か。	1/3
9	55	I区 堀下層	陶器 碗	—	(7.0)	[3.8]	密	良好	にぶい黄色	外面：体下部形底部回転ヘラケズリ。体部透明釉施釉。 内面：ロクロ整形。全面透明釉施釉。瀬戸焼か。	体下部～ 底部 1/5
9	56	I区 堀下層	陶器 碗	—	5.4	[2.9]	密	良好	浅黄色	底部に粘土板を貼付、内側を削って高台を形成。外面：体下部～底部ロクロナデ。高台内側回転ヘラケズリ。体下部絵付け後透明釉施釉。 内面：ロクロ整形。全面透明釉施釉。瀬戸焼か。	体下部～ 底部 3/4
9	57	II区 堀下層	陶器 碗	(6.6)	—	[3.6]	密	良好	灰白色	丸碗。外面：ロクロ整形。体下部回転ヘラケズリ。口縁部～体中部透明釉施釉。 内面：ロクロ整形。全面透明釉施釉。瀬戸焼か。	口縁部～ 体下部 1/3
10	58	II区 堀下層	陶器 碗	—	(5.2)	[2.7]	密	良好	灰色	半筒碗。外面体下部～底部に煤付着。外面：ロクロ整形。体下部～底部回転ヘラケズリ。体中部～体下部透明釉、下に鉄釉施釉。 内面：ロクロ整形。全面褐色釉（鉄釉）施釉。瀬戸焼か。	体中部～ 底部 1/6
10	59	I区 堀下層	陶器 碗	—	(6.7)	[1.9]	密	良好	灰白色	半筒碗。外面：体下部～底部回転ヘラケズリ後高台部貼付、高台部～底部外縁ロクロナデ。体部に透明釉施釉。 内面：ロクロナデ。全面透明釉を薄く施釉。一部白色釉が見られ、上部で白色釉が施釉されているか。瀬戸焼か。	体下部～ 底部 2/3
10	60	I区 堀下層	陶器 碗	—	(4.5)	[1.5]	密	良好	明緑灰色	小型半筒碗。外面：体下部～底部外縁ロクロナデ。底部回転糸切り。体下部透明釉施釉。一部底部外縁まで釉垂れ。底部外縁に墨痕か。 内面：ロクロナデ。全面透明釉施釉。瀬戸焼か。	体下部～ 底部 4/5
10	61	I区 堀下層	陶器 碗	5.2	4.1	3.2	密	良好	灰白色	小型半筒碗。外面：口縁部～体中部ロクロナデ。体下部回転ヘラケズリ。底部回転糸切り後「●●●●鳥居氏」と墨書。「卯一四日●●鳥居氏」と読めるか。口縁部～体中部透明釉施釉。 内面：ロクロナデ。全面透明釉施釉するが掛かっていない部分あり。美濃焼か。	ほぼ完形
10	62	I区 堀下層	焼締め陶器 碗	—	4.2	[2.0]	密	良好	暗赤褐色	外面：体下部回転ヘラケズリ。高台部～底部ロクロナデ。全面暗赤褐色釉施釉。 内面：ロクロナデ。全面暗赤褐色釉施釉。	体下部 1/8 底部 1/2

挿 図	番 号	出 土 位 置	種 別・器 種	法 量 (<small>cm</small>)			胎 土	焼 成	色 調	遺 存 状 況	遺 存 状 況
				口 径	底 径	器 高					
10	63	I区 堀 下層	焼締め陶器 碗	—	(4.3)	[2.1]	密	良好	暗赤褐色	外面：体下部回転ヘラケズリ。高台部～底部ロクロナデ。全面暗赤褐色釉施釉。 内面：ロクロ整形。全面暗赤褐色釉施釉。	体下部～ 底部 1/3
10	64	I区 堀 下層	焼締め陶器 碗	—	6.0	[7.4]	密	良好	暗赤褐色	筒形碗。碁笥底で高台状を呈する。外面：ロクロ整形。底部回転ヘラケズリ、 外縁部面取り。体部極暗赤褐色釉施釉、底部際は釉垂れ。内面：ロクロナデ。 全面極暗赤褐色釉施釉。	体部～底部 1/3
10	65	II区 堀 下層	染付 小坏	(5.5)	—	[2.1]	密	良好	—	外面：口縁部二重圏線。体部草木文。内面：無文。	口縁部破片
10	66	I区 堀 南壁	陶器 小坏	(4.5)	1.6	1.8	密	良好	灰白色	外面：口縁部～体下部全面に放射状沈線。口縁部～体中部白色釉を波状に施釉、 漬け掛け。内面：口唇部面取り。口縁部～底部ナデか。全面白色釉施釉。 瀬戸焼か。	1/3
10	67	II区 堀 下層	染付 蕎麦猪口	9.0	6.0	6.2	密	良好	—	蛇の目高台で中段部が無釉。外面：口縁部圏線。口縁部～体中部蛸唐草文。 体下部上に一重、下に二重圏線、間に連弁文。内面：口縁部四方禪文。見込 み圏線、中央に環状松竹梅文。	口縁部～ 体部 4/5 底部完存
10	68	II区 堀 下層	染付 蕎麦猪口	(7.8)	(5.6)	6.0	密	良好	—	蛇の目高台で中段部が無釉。漆継ぎの接合痕が多数みられる。外面：口縁部 圏線。口縁部～体中部蛸唐草文。体下部上に一重、下に二重圏線、間に連弁文。 底部際は無文。内面：口縁部四方禪文。見込み圏線、中央に五弁花文。	2/5
10	69	II区 堀 下層	染付 蕎麦猪口	(7.5)	4.7	5.8	密	良好	—	底部は碁笥底で高台状を呈する。外面：口縁部～体部左側に双花菖蒲文、右側 がつぼみの花菖蒲文を1つの単位として2単位描く。底部際二重圏線。底部圏線、 中央に二重角渦福。内面：無文。	口縁部～ 体部 2/3 底部完存
10	70	I区 堀 下層	染付 蕎麦猪口	(7.1)	—	[3.4]	密	良好	—	口縁部が輪花状を呈する。外面：体部花文。菊花文か。内面：口縁部四方禪文。	口縁部～ 体部破片
10	71	I区 堀 上層	染付 蕎麦猪口か	(6.5)	—	[2.0]	密	良好	—	外面：口縁部圏線。口縁部草木文に鳥が描かれる。鳥は鳳凰か。内面：口 縁部中に二重の十字を描いた変形の四方禪文。	口縁部 1/3
10	72	I区 堀 下層	染付 蕎麦猪口	—	4.4	[2.3]	密	良好	—	底部は碁笥底で高台状を呈する。外面：体部濃淡2種類の菊花文を散らして描く。 体下部圏線。底部際二重圏線。底部圏線、中央に「大明」・「製」。「大明年製」 と思われる。内面：無文。	体下部～ 底部 1/2
10	73	II区 堀 下層	染付 皿	10.7	5.1	2.4	密	良好	—	高台部は貼付と思われる、放射状の小さな凹凸がある。外面：口唇部錯軸。口縁 部圏線。体部雷文と雲文を交互に3つずつ描く。高台部際二重圏線。高台部底 面及び底部無釉。内面：口縁部圏線。見込み中央に鶴、頭上に松、足下に草 地を描く。	ほぼ完形
10	74	I区 堀 下層	染付 皿	(13.9)	(7.6)	4.2	密	良好	—	外面：口縁部～体部何の文様が描かれているか不明。体下部二重圏線。高台部 二重圏線。底部圏線、中央に四角で囲った銘があるが判読不能。内面：口縁 部圏線。口縁部～体部何の文様が描かれているか不明。底部際二重圏線。見 込み中央コンチャク印判五弁花文。	口縁部 1/10 体部～底部 1/4
10	75	I区 堀 下層	染付 皿	(9.6)	—	[1.3]	密	良好	—	蓋の可能性もある。外面：口縁部笠を被り棒を持った人物と竹を描く。雪中荷 掘図と思われる。内面：口縁部四方禪文。	口縁部 1/4
10	76	I区 堀 下層	染付 皿	—	—	[1.3]	密	良好	—	外面：体下部・底部・高台部圏線。底部無釉。内面：見込み人物・竹を描く。 雪中荷掘図か。	底部破片
10	77	II区 堀 上層	青磁 皿	—	—	[1.6]	密	良好	—	輪花皿。	口縁部破片
10	78	II区 堀 下層	青磁 皿	—	(6.0)	[2.3]	密	良好	—	外面：体下部回転ヘラケズリによる5本の陽刻状の横溝模様。内面：体下部 上側に2本、下側に1本の回転ヘラケズリによる陽刻状の横溝模様。外面底 部のみ白磁釉。	体下部～ 底部 1/4
10	79	I区 堀 上層	白磁 皿	(10.3)	(3.5)	2.3	密	良好	—	肥前か。	1/4
10	80	I区 堀 上層	白磁 皿	—	—	2.3	密	良好	—	角皿。外面：口縁部が玉縁状を呈する。角の口縁部に丸棒状工具を当てて窪 ませる。内面：角部で縦方向に二重・底部外縁に二重圏線、口縁部～体部に葉・ 蔓文様、底部に判別できない文様を陽刻で施す。	口縁部～ 底部破片
10	81	I区 堀 下層	白磁 皿	—	—	2.3	密	良好	—	角皿。外面：口縁部が玉縁状を呈し、無文。内面：口縁部圏線の間に唐草 文を描く文様を陽刻で施す。	口縁部～ 底部破片
10	82	I区 堀 南壁	陶器 皿	(11.8)	—	[2.6]	密	良好	灰白色	釉薬が白く変質していることから二次被熱か。外面：回転ヘラケズリ。口縁部 黄色釉施釉。内面：回転ヘラケズリか。全面黄色釉施釉。瀬戸焼か。	口縁部～ 体部 1/8
10	83	I区 堀 下層	陶器 皿	—	(7.2)	[2.5]	密	良好	灰白色	外内面：ロクロ整形。高台部を除いて長石釉を厚く施釉。志野焼。	底部 1/5
10	84	II区 堀 下層	磁器 皿	—	(3.5)	2.5	密	良好	明オリープ 灰色	木葉型。外面：網目模様を陰刻。内面：葉脈模様を陰刻。灰釉または青磁 釉施釉。	1/2 か
10	85	I区 堀 下層	焼締め陶器 皿	(10.0)	(4.5)	1.9	密	良好	赤褐色	外面：口縁部～体部ロクロナデ。底部回転ヘラケズリ。口縁部赤褐色釉施釉、体 部は釉垂れ。内面：ロクロナデ、重ね焼き痕。全面赤褐色釉施釉。	1/4
11	86	I区 堀 下層	土師質土器 かわらけ	(9.9)	5.7	2.5	密	良好	にぶい橙色	外内面：ロクロナデ。底部回転系切り。	口縁部～ 体部 1/2 体部完存
11	87	I区 堀 下層	土師質土器 かわらけ	9.3	5.8	2.7	密	良好	橙色	外内面：ロクロナデ。底部回転系切り。	2/3
11	88	II区 堀 下層	土師質土器 かわらけ	(9.8)	(5.3)	2.3	密	良	にぶい橙色	歪み大きい。外面：口縁部～体部ロクロナデ。底部回転系切り。内面：口縁部 ～体部ロクロナデ。底部ヘラナデ。	1/3
11	89	II区 堀 下層	土師質土器 かわらけ	8.7	5.5	2.1	密	良	にぶい 黄褐色	外内面：ロクロナデ。底部回転系切り。	2/5
11	90	II区 堀 南壁	土師質土器 かわらけ	(6.7)	4.3	1.9	密	良	にぶい褐色	小型のかわらけ。外内面：ロクロナデ。底部回転系切り。	2/5
11	91	I区 堀 下層	土師質土器 かわらけ	(7.6)	(4.8)	1.6	密	良	にぶい褐色	小型のかわらけ。外内面：ロクロナデ。底部ヘラナデ、外縁部回転ヘラナデ。	1/4
11	92	I区 堀 下層	青磁染付 蓋	つまみ —	(9.5)	[2.6]	密	良好	明緑灰色	外面は絵付け後青磁釉施釉。外面：体上部何の文様が描かれているか不明。 体下部無文。裾部返しあり、無釉。内面：無文、白色釉施釉。	体部～裾部 1/8
11	93	II区 堀 下層	染付 蓋	つまみ 4.1	(10.0)	3.0	密	良好	—	外面：つまみ部見込み圏線、中央に「萬曆年製」。つまみ下部・体部際圏線。 体部つまみ部際連弁文。体部風景文様を描く。地面・木・花が確認できる。内面： 裾部四方禪文。見込み二重圏線、中央に環状松竹梅文。	つまみ部～ 体部完存 裾部 1/8
11	94	I区 堀 下層	染付 蓋	つまみ 3.5	(9.2)	2.6	密	良好	—	外面：つまみ部見込み中央に角青の銘か。つまみ部圏線。体部つまみ部際二重 圏線。体部魚(尾側)・水生植物を描く。裾部圏線。内面：裾部圏線の間に 雷文。見込み二重圏線、中央に「万延年製」。	つまみ部完存 体部～裾部 1/5
11	95	I区 堀 下層	染付 蓋	つまみ (3.7)	(9.9)	2.3	密	良好	—	外面：体部推定3つの熊を描いたと思われる。内面：見込み中央に熊を描く。	1/4
11	96	I区 堀 下層	染付 蓋	つまみ —	(7.6)	[1.6]	密	良好	—	つまみの痕跡がある。外面：頂部際に二重圏線、内側は無文。つまみは圏線内 で収まる。体部：桐文を波状に散らして描く。裾部圏線。返しがついており 無文。内面：無文。	1/6

挿 図	番 号	出 土 位 置	種 別・器 種	法 量 (cm)			胎 土	焼 成	色 調	器 形・成・整 形・文 様等の特 徴	遺 存 状 況
				口 径	底 径	器 高					
11	97	I区堀下層	染付 蓋	つまみ (3.8)	(9.1)	[2.3]	密	良好	—	8mm幅の帯状のつまみが付く。外面：頂部外縁圏線、内側は無文。つまみは圏線内部に収まる。体部地面・岩・木が描かれており、風景文様か。裾部は返しがついており無文。 内面：無文。	1/5
11	98	II区堀 A軽石層	染付 蓋	つまみ —	(9.7)	[1.7]	密	良好	—	外面：X字状に線を書き4つに区画する。小さい区画は左右両辺に2つずつ計4つの窓を残し塗りつぶす。大きい区画は中心側に弧を描き放射線埋める。その他の部分は草木文を描いたと思われる。 内面：無文。	頂部完存 体部～裾部 1/8
11	99	I区堀下層	陶器 蓋	つまみ —	(7.7)	0.9	密	良好	明オリープ 灰色	平らな体部に5mmほどの返しが付く平たい形状を呈する。外面：ロクロナデ。緑色味を帯びた透明釉(灰釉か)施釉。内面：ロクロナデ。裾端面取り。瀬戸焼か。	1/4
11	100	I区堀下層	染付 角形鉢	—	—	[4.6]	密	良好	—	外面：体部線描による文様あり。 内面：口縁部二重圏線、上側を塗りつぶす。体部縦長の格子文様などを描く。	口縁部～ 体部破片
11	101	I区堀下層	染付 鉢	(23.0)	—	[6.4]	密	良好	—	大皿か。割れ面に漆が付着。外面：体部何の文様も描かれていないか不明、草木文か。内面：口縁部圏線。口縁部～体部草木文と思われる。	口縁部～ 体部 1/4
11	102	I区堀下層	染付 鉢	—	—	[5.2]	密	良好	—	木葉を模したような小さな段のついた波状口縁。外内面：口縁部～体上部波の波に向けて葉脈を表したと思われる線描を描き、下に二重圏線。	口縁部破片
11	103	I区堀南壁	青磁 鉢	—	—	3.6	密	やや 不良	—	外面：無文。 内面：陰刻による文様が見られるが何の文様か判断できず。	体部破片
11	104	I区堀上層	陶器 鉢	(10.2)	9.0	10.0	密	良好	赤色	体部は内湾し、口縁部が内傾する。底部に回転ヘラケズリを施し高台状となる。外面：全面丁寧な横位ミガキを施し赤彩する。 内面：ロクロナデ。口縁部赤彩。	口縁部 1/5 体部～底部 ほぼ完存
11	105	II区堀下層	陶器 鉢	—	(12.0)	[7.7]	密	良好	灰白色	外面：高台貼付後体部回転ヘラケズリ。体下部施釉。 内面：ロクロナデ。全面施釉。瀬戸焼か。	体下部～ 底部 1/3
11	106	I区堀下層	陶器 鉢	—	(11.2)	[2.0]	密	良好	灰白色	底部をわずかに削り高台状を呈する。外面：体下部～底部回転ヘラケズリ。高台部に釉薬が付着する。 内面：ロクロナデ。全面灰釉施釉。目跡あり。瀬戸焼か。	体下部～ 底部 1/5
11	107	I区堀下層	陶器 鉢	—	—	[5.6]	密	良	灰白色	外面：ロクロ整形。口縁部・体中部に浅い沈線。全面に黄白色釉施釉。 内面：ロクロ整形。口縁下部に1条の沈線。口縁部緑色釉葉で浅い波線、体部黒色釉葉で葉(イネ科か)を描く。瀬戸焼か。	口縁部～ 体上部破片
12	108	II区堀下層	陶器 鉢	(26.0)	—	[10.2]	密	良好	浅黄色	口縁部に粘土紐を巻き付け厚くし、外面に段を有する。外面：口縁部～体上部ロクロナデ。体中部～体下部回転ヘラケズリ。 内面：ロクロナデ。全面灰釉施釉。瀬戸焼か。	口縁部～ 体部 1/4
12	109	I区堀上層	陶器 鉢	—	—	[6.8]	密	良好	オリープ 黒色	口縁部が外反し、口縁部は上方にわずかにつまみ上げられる。外面：ロクロ整形後体下部に褐色釉施釉。その後口縁部～体上部に緑色味を帯びた透明釉を施釉。内面：口縁部一重・頸部一重・体上部二重圏線、口縁部三重蓮弁文、頸部～体上部花唐草文、体中部唐草文を白色粘土の象嵌で施文する。その後緑色味を帯びた透明釉を施釉する。	口縁部～ 体中部破片
12	110	I区堀上層	土師質土器 鉢	(22.0)	—	[5.3]	密	良好	灰色	外面：口縁部～体部ヨコナデ後2条1単位の沈線。 内面：口縁部～体部ヨコナデ。	口縁部～ 体部 1/6
12	111	II区堀下層	染付 瓶	—	—	[4.0]	密	良好	—	徳利。外面：体部草木文。 内面：ロクロナデ、無釉。	体部破片
13	112	I区堀下層	陶器 土鍋	(17.6)	—	[7.5]	密	良好	明赤褐色	小型の土鍋。耳の一部が遺存するが大きさは不明。外内面：全面鉄釉施釉、ロクロ整形か。	口縁部～ 体部破片
13	113	II区堀下層	陶器 土鍋	(17.8)	—	[5.9]	密	良好	明赤褐色	小型の土鍋。幅4.6cm、高さ1.2cmの耳が遺存する。外内面：全面鉄釉施釉、ロクロ整形か。	口縁部～ 体部破片
13	114	I区堀下層	土師質土器 内耳土器	—	—	5.9	密	良	黒色	内耳鍋。口縁部と体部の境に稜をもつ。平底。外内面：ヨコナデ。外面に煤付着。	口縁部～ 底部破片
13	115	I区堀上層	土師質土器 内耳土器	—	(22.0)	[2.3]	密	良	黒褐色	内耳鍋。外面：体下部チヂレ目か。幅5mmのヨコナデあり。底部ナデ。 内面：口縁部～底部ヨコナデ。	体下部～ 底部 1/8
13	116	II区堀下層	土師質土器 内耳土器か	—	—	[3.5]	密	良好	灰黄褐色	内耳鍋か。底部はわずかに基筒底状を呈する。外面：体下部ロクロナデ。底部ナデ。内面：体下部～底部ヨコナデ後体部に1条の沈線。沈線より下は黒色に変色、煤付着または黒色処理か。	体下部～ 底部破片
13	117	I区堀下層	土師質土器 内耳土器	(35.4)	(33.0)	5.7	密	良好	黒色	内耳鍋。丸みを帯びた体部で口縁部が外反気味に立ち上がる。平底。外面：口縁部端面取り。口縁部ヨコナデ。体部指頭圧痕。 内面：口縁部ヨコナデ。体部～底部ヨコナデ。	1/8
13	118	I区堀下層	土師質土器 内耳土器	(39.7)	(36.0)	4.7	密	良	黄灰色	浅い形状の内耳鍋。底部から口縁部が外傾して立ち上がる。外面：口縁部ヨコナデ。底部際横位ヘラケズリ。 内面：口縁部ヨコナデ。	口縁部 1/10
13	119	I区堀下層	土師質土器 内耳土器	(28.0)	(25.2)	3.7	密	良好	にぶい褐色	非常に浅い形状。焙烙。平底。外面：口縁部ヨコナデ。底部際横位ヘラナデ。底部無調整。 内面：口縁部～底部ヨコナデ。	1/8
13	120	I区堀下層	土師質土器 内耳土器	(32.0)	(33.6)	[3.2]	密	良好	黒褐色	非常に浅い形状。焙烙。外縁部が緩やかに立ち上がる平底と思われる、短い口縁部が内傾して立ち上がる。内面口縁部に幅4.1cm、高さ0.5cmの断面三角形の粘土を貼付、内耳と同様の機能をもつものか。外面：口縁部ヨコナデ、底部際横位ヘラナデ。底部無調整。 内面：ヨコナデ。	1/8
13	121	I区堀下層	土師質土器 内耳土器	(32.0)	(32.0)	[4.1]	密	良	にぶい 黄褐色	非常に浅い形状。焙烙。やや丸みを帯びた平底。外面：口縁部ヨコナデ。底部無調整。 内面：口縁部～底部ヨコナデ。	1/8
13	122	I区堀下層	土師質土器 内耳土器	(30.0)	(30.8)	[3.4]	密	良好	明赤褐色	非常に浅い形状。焙烙。縁部が緩やかに立ち上がる平底と思われる、短い口縁部が内傾して立ち上がる。外面：口縁部ヨコナデ、下部2本歯の櫛状工具ヨコナデ。底部無調整。 内面：口縁部～底部ヨコナデ。	1/8
13	123	I区堀下層	陶器 土瓶	(10.6)	(8.6)	11.0	密	良好	灰白色	底部は基筒底。茶漉し部はφ6.5mmの穴を中心に1つ周囲に6つの計7つ穿孔作成する。外面：体下部回転ヘラナデ。底部回転ヘラケズリ。口縁部～体下部に黄白色釉を下塗りし、耳と直交する口縁部に鉄軸で丸とそこから派生する曲線の文様を描く。その後青緑色味を帯びた透明釉を施釉する。 内面：にぶい褐色釉を頸部・すこし間をあけて体上部～底部に施釉する。	1/3
13	124	I区堀下層	陶器 土瓶	(8.7)	—	[10.3]	密	良好	暗褐色	体中部のやや下に最大径を持つ算盤玉状を呈する。外面：ロクロ整形後肩部に13本1単位のカキ目、体上部に5本1単位のカキ目を施し肩部に耳を貼付。鉄軸施釉。 内面：ロクロ整形。	口縁部～ 体中部 1/6
13	125	I区堀下層	陶器 土瓶	—	(7.8)	[2.9]	密	良好	明赤褐色	底部は基筒底を呈する。外面：回転ヘラケズリ、底部際に粘土を貼付け足としている。体上部に鉄軸施釉。煤が付着する。 内面：全面鉄軸施釉。ロクロ整形か。	体下部～ 底部 1/5
13	126	I区堀上層	陶胎染付 急須	(8.3)	—	[2.3]	密	良好	—	外面：口縁部圏線。体部口縁部際圏線。体部草木文。 内面：ロクロナデ。	口縁部破片
13	127	I区堀上層	染付 急須	(6.2)	—	[1.7]	密	良好	—	外面：口縁部圏線の間を縦線で描いた丸文を並べ、隙間を横線で埋める。 内面：口縁部1mmほどの幅で錯軸。口縁部～体上部ロクロナデ。体上部一部に釉薬掛かる。	口縁部～ 体上部 1/4

() : 推定 [] : 遺存

挿図番号	出土位置	種別・器種	法量 (cm)			胎土	焼成	色調	器形・成・整形、文様等の特徴	遺存状況
			口径	底径	器高					
13 128	I区堀下層	陶器 播鉢	(19.4)	—	[7.5]	密	良好	明赤褐色	外面：口縁部2条の沈線。体上部ロクロナデ。体下部回転ヘラケズリ。内面：口縁部ヨコナデ。体部目の細かい25本1単位の掃り目を隙間なく入れる。瀬戸焼か。	口縁部～体部1/6
13 129	I区堀下層	焼締め陶器 播鉢	(35.8)	—	[12.6]	密小礫	良好	赤褐色	口縁部外面に緑を貼付け断面三角形を呈する。外面：口縁部2条の沈線。口縁部下回転ヘラケズリ、以下回転ヘラナデ。内面：口縁部ロクロナデ・端部に1条の沈線。体部8本1単位の掃り目を隙間なく入れる。備前焼か。	口縁部～体部1/5
14 130	I区堀下層	焼締め陶器 播鉢	—	—	[8.7]	密小礫	良好	灰赤色	口縁部外面に緑を貼付け断面三角形を呈する。外面：口縁部2条の沈線。自然釉が多量付着。体上部回転ヘラケズリ。体中部ロクロナデ。内面：口縁部1条の沈線とヘラケズリによる幅広の凹線。体部11本1単位の掃り目を隙間なく入れる。備前焼か。	口縁部～体中部破片
14 131	I区堀下層	焼締め陶器 播鉢	—	(16.7)	[6.7]	密小礫	良好	赤灰色	外面：体下部ナデ、底部際ロクロナデ。底部無調整、外縁にコピナデ。内面：体部11本1単位の掃り目を隙間なく入れる。底部9本以上1単位の掃り目を入れる。摩耗が激しく残りは悪い。備前焼か。	体下部～底部1/6
14 132	I区堀下層	陶器 播鉢	—	(14.0)	[5.0]	密小礫	良好	暗赤褐色	外面：ロクロナデ。底部回転糸切り。内面：体部目の粗い10本1単位の掃り目。底部目の粗い11本1単位の掃り目。少し摩耗している。瀬戸焼か。	体下部～底部1/6
14 133	I区堀南壁	土師質土器 小型壺	—	(3.8)	[7.4]	密	良	橙色	焼壺壺。外面：体中部斜位ヘラナデ・ナデ。体下部横位ヘラナデ・ナデ。底部ナデ。内面：無調整、ナデか。	体中部～底部1/4
14 134	I区堀下層	陶器 壺	—	—	[4.1]	密	良好	暗褐色	四耳壺か。外面：頸部に2条の沈線を施し、肩部に耳を貼付。鉄軸施軸。内面：ロクロ整形。	頸部～肩部破片
14 135	II区堀下層	陶器 壺	—	—	[6.0]	密	良好	明青灰色	外面：全面鉄軸施軸後頸部以下に瑠璃釉？施軸。内面：口縁部～肩部鉄軸施軸後肩部に瑠璃釉？施軸。	口縁部～体部破片
14 136	I区堀下層	陶器 壺	—	—	[3.2]	密	良好	明緑灰色	小型壺。外面：頸部にφ9mmの円形浮文貼付。体下部に鉄軸施軸後全面に青みがかった透明釉（灰釉か）施軸。内面：頸部～肩部に青みがかった透明釉（灰釉か）施軸。	頸部～体下部1/4
14 137	II区堀下層	陶器 水甃か	—	—	[9.1]	密	良好	灰白色	外面：ロクロ整形後沈線で文様を描く。鉄軸・緑色味を帯びた透明釉（灰釉か）施軸。内面：ロクロ整形。緑色味を帯びた透明釉（灰釉か）施軸。瀬戸焼か。	体部破片
14 138	I区堀南壁	焼締め陶器 甃	—	(13.6)	[11.7]	密	良好	黒褐色	外面：体部ロクロ整形。底部ヘラケズリ。体部鉄軸（黒色）施軸、体下部に釉溜まり。内面：同心円当て具痕。底部ナデ。体中部～底部茶褐色釉染掛かる。備前焼か。	体下部～底部1/6
14 139	I区堀南壁	焼締め陶器 小型甃か	—	(12.6)	[7.0]	密	良好	にぶい赤褐色	外面：体部回転ヘラケズリ。底部回転糸切り後外縁部回転ヘラケズリ。内面：ロクロナデ。信楽焼か。	体下部～底部1/4
14 140	I区堀下層	陶器 半胴	(19.7)	—	[5.5]	密	良好	暗褐色	外面：口縁部わずかに窪み、焼台の痕跡あり。体上部2条の沈線。内面：口縁部が玉縁状を呈する。全面鉄軸の2度掛け（黒から茶）か。	口縁部～体上部1/5
14 141	I区堀上層	陶器 灯明具	(4.9)	3.8	4.9	密	良好	黒色	丸形油壺で脚を持つ鉄軸兼燭。たんころとも。下側3/4を削り内部の空洞が露出した筒を貼付け芯受けとする。底部中央に燭台などの芯立てに刺すための穴がある。外面：ロクロ整形。脚端部回転ヘラナデ。底部回転糸切り。口縁部～脚部鉄軸施軸、脚端部一部軸垂れ。内面：ロクロ整形・全面鉄軸施軸。瀬戸美濃焼。	油壺部1/3 脚部完存
14 142	I区堀上層	焼締め陶器 灯明具	(7.1)	3.6	2.7	密	不良	赤褐色	盃形兼燭。たんころとも。下側1か所に穴を穿った筒を貼付け芯受けとする。芯受けに数か所油膜が付着する。外面：口縁部～体部ロクロナデ。底部回転糸切り。全面赤褐色釉を施軸するが剥落が激しい。内面：ロクロナデ。全面赤褐色釉を施軸するが剥落が激しい。備前焼か。	1/2
14 143	II区堀上層	陶器 灯明台	—	4.2	[4.4]	密	良好	明オリーブ灰色	底部・裾端部に油膜が付着、灯明皿の芯押さえに使用されたか。外面：体部ロクロナデ。脚部～裾部回転ヘラケズリ。底部ロクロナデ。体部～脚部透明釉施軸するが一部の脚端部は無軸。内面：ロクロ整形。体部～脚部透明釉施軸。瀬戸焼か。	体部～底部完存
14 144	I区堀下層	焼締め陶器 灯明皿受皿	(7.5)	(5.0)	2.4	密	良好	黒褐色	外面：碗口縁部・油受口縁部ヨコナデ。体部～底部回転ヘラケズリ。体部の一部に黒褐色釉施軸。内面：ロクロナデ。全面黒褐色釉施軸。備前焼か。	1/5
14 145	II区堀南壁	焼締め陶器 灯明皿受皿	—	(5.0)	[1.7]	密	良好	にぶい褐色	外面：碗口縁部ロクロナデ。体部回転ヘラケズリ。底部回転ヘラケズリ。内面：ロクロナデ。暗赤褐色釉施軸。備前焼か。	体部～底部1/5
15 146	II区堀下層	焼締め陶器 皿	10.0	4.6	2.0	密	良好	暗赤褐色	口縁部部に油膜が付着、灯明皿として使用されたと思われる。外面：口縁部ロクロナデ。体部回転ヘラケズリ、重ね焼痕。底部回転ヘラケズリ後ヘラナデ。口縁部～体部暗赤褐色釉施軸。内面：ロクロ整形。口縁部油膜付着。底部重ね焼痕。全面暗赤褐色釉施軸。備前焼か。	ほぼ完形
15 147	I区堀下層	土師質土器 かわらけ	(9.2)	(5.2)	2.6	密	良好	にぶい黄褐色	口縁部2か所に油膜付着。灯明皿として使用されたと思われる。切り離した後粘土に戻し再度切り離したと思われる。そのため高台があるような形状をしている。外面：ロクロナデ。底部回転糸切り。	1/8
15 148	II区堀南壁	土師質土器 かわらけ	8.6	4.7	3.1	密	良好	橙色	口縁部3か所に油膜付着。灯明皿として使用されたと思われる。外内面：ロクロナデ。底部回転糸切り。	ほぼ完形
15 149	I区堀南壁	土師質土器 かわらけ	9.7	6.0	2.1	密	良好	橙色	口縁部2か所に油膜付着、1か所は灯芯の痕が見られる。灯明皿として使用されたと思われる。外内面：ロクロナデ。底部回転糸切り。	ほぼ完形
15 150	I区堀下層	梁付 仏飯器	—	3.7	[5.0]	密	良好	—	外面：体部何の文様が描かれているか不明。体下部圏線。脚上部圏線。裾端部は無軸であったが1/3ほど軸垂れる。内面：無文。裾部は無軸。	体下部～裾部完存
15 151	I区堀下層	陶器 仏飯器	—	4.4	[2.4]	密	良好	灰白色	脚部は短く、裾部は水平に広がる。外面：体下部～脚部ロクロナデ。裾部回転ヘラナデ。体部～脚上部緑色味を帯びた透明釉（灰釉か）施軸。内面：体部ロクロナデ。脚部無調整。裾部回転ヘラナデ。体部緑色味を帯びた透明釉（灰釉か）施軸。瀬戸焼か。	体下部～脚部完存
15 152	II区堀下層	土師質土器 火鉢	—	—	[3.2]	密	良	にぶい赤褐色	外面：ヨコナデ後巴文の刻印を押圧。内面：ヨコナデ。	口縁部破片
15 153	I区堀上層	土師質土器 火鉢	—	—	[5.4]	密	良好	黒褐色	外面：ヨコナデ後風車文の刻印を押圧。内面：ヨコナデ後指頭圧痕。	体部破片
15 154	I区堀下層	陶器 香炉	(10.7)	(7.0)	5.8	密	良好	オリーブ黄色	高台を持つ筒形香炉。外面：口縁部指ナデ、わずかに窪み。口縁部～体部ロクロナデ後棒状工具で草木文施文。体下部～底部回転ヘラケズリ。口縁部～体部灰釉施軸。内面：ロクロ整形。口縁部～体上部灰釉施軸、一部体下部まで軸垂れ。底部に自然釉付着。美濃焼。	1/3
15 155	I区堀下層	焼締め陶器 水滴か	—	—	[4.9]	密	良好	赤褐色	寸の詰まった瓢箪型。外面：頸部～体上部ロクロナデ。体中部～体下部幅の狭い回転ヘラナデ、ミガキに近い。全面赤褐色釉施軸。内面：ロクロナデ。備前焼か。	頸部～体下部1/2
15 156	I区堀下層	土師質土器 蓋	つまみ4.2	—	[2.5]	密	良	にぶい褐色	火消壺の蓋と思われる。外面：つまみ部ロクロナデ後体部際に回転ヘラナデ。体部ロクロナデ。内面：体頂部ナデ。	つまみ部完存

挿 図	番 号	出 土 位 置	種 別 ・ 器 種	法 量 (cm)			胎 土	焼 成	色 調	器 形 ・ 成 ・ 整 形 ・ 文 様 等 の 特 徴	遺 存 状 況
				口 径	底 径	器 高					
15	157	I区堀下層	土師質土器 不明	—	—	[5.5]	密	良好	黒色	方形を呈すると思われる縦 [30.5]cm、横 [11.1]cmを測る。上側は平行する2辺のみ立ち上がり壁を形成する。下側は欠損しているが上側と直交する2辺が直交する2辺の端部も含めてコ字状に下がり壁を形成すると思われる。底の上下で直交する方向に突き抜けた状態となっている。火鉢か。外面：上側の壁端部ヘラケズリ。壁側面横位ヘラミガキ・黒色処理か。底部ヘラナデ。 内面：上側壁面・底面ヘラナデ。	口縁部～ 底部破片
32	2	II区堀下層	縄文土器 深鉢	—	—	[4.3]	やや粗	不良	にぶい褐色	外面：LR単節縄文。 内面：ナデ。	体部破片
32	3	I区堀上層	弥生土器 壺	—	—	[5.6]	密	良好	にぶい黄褐色	口縁部が大きく外反する。外面：口縁端部ハケ状工具ヨコナデ。口縁部ナデ。頸部幅7mm・厚1mmのヘラ状工具刺突文。 内面：口縁上部横位・斜位ヘラミガキ。中部以下表面剥離し不明。	口縁部～ 頸部破片
32	4	I区堀下層	土師器 環	(12.8)	—	4.7	密	良好	にぶい赤褐色	丸底で口縁部はわずかに内湾する。外面：口縁部ヨコナデ。体部～底部斜位・横位ヘラケズリ。 内面：口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラミガキ・放射状か。	1/5
32	5	I区堀下層	土師器 環	(11.2)	—	[3.5]	密	良	にぶい橙色	模倣環。外面：口縁部ヨコナデ。体部横位・斜位ヘラケズリ。 内面：口縁部～体部ヨコナデ。	口縁部～ 体部1/8
32	6	I区堀下層	土師器 甕把手	—	—	[4.2]	密	良	にぶい黄褐色	縦 [3.8]cm・横 [5.0]cmを測る。円柱状の粘土をヘラで形を整え、先端部を尖らすため下側にケズリを施す。先端部は平らに整えられ、側面の中央や下に下側から丸棒状工具による刺突を施す。	ほぼ完形
32	7	I区堀下層	土師器 高環	—	—	[6.7]	密	良	橙色	外面：脚上部縦位ヘラナデ。脚下部ナデ。 内面：絞り痕。	脚部 1/3
32	8	I区堀上層	円筒埴輪	—	—	[6.4]	密	良好	にぶい黄褐色	透かし部。外面：縦位ハケメ後ヨコナデ。 内面：ナデ。	体部破片
32	9	I区堀下層	土師器 甕	(16.4)	—	[6.8]	密	良	にぶい褐色	外面：口縁部ヨコナデ。頸部～体上部縦位ヘラケズリ。 内面：口縁部ヨコナデ。頸部～体上部横位ヘラナデ。	口縁部～ 体上部 1/8
32	10	I区堀下層	須恵器 蓋	—	(17.5)	[1.5]	密	還元焰 焼成	灰色	外内面：ロクロナデ。	体下部～ 裾部 1/8
32	11	I区堀下層	須恵器 環	—	(6.0)	[1.8]	密	還元焰 焼成	灰色	外内面：ロクロナデ。底部回転系切り。	体下部～ 底部 1/4
32	12	I区堀下層	須恵器 環	—	(6.0)	[1.6]	密	酸化焰 焼成	にぶい黄褐色	外内面：磨滅激しく調整不明。	体下部～ 底部破片
32	13	I区堀下層	須恵器 高台付環	—	7.0	[1.8]	密	還元焰 焼成	灰色	底部回転系切り後高台部貼付。外内面：ロクロナデ。外面底部高台を撫で付けるようにユビナデ。	底部 ほぼ完存
32	14	II区堀下層	須恵器 高台付環	—	(6.4)	[1.5]	密	還元焰 焼成	灰色	底部回転系切り後高台部貼付。外内面：ロクロナデ。外面底部高台を撫で付ける様にユビナデ。	体下部～ 底部 1/4
32	15	I区堀下層	須恵器 高台付環	—	4.8	[2.2]	密	酸化焰 焼成	にぶい橙色	外面：体部～底部ロクロナデ。 内面：体部～底部ロクロナデ。高台部ロクロナデ、底部ほぼ完存	底部 ほぼ完存
32	16	I区堀南壁	須恵器 円形碗か	(14.4)	—	[1.6]	密	還元焰 焼成	灰白色	形状から碗と思われる。周提部は粘土を貼付けて作成。外面：頂部回転ヘラナデ。わずかに摩耗する。口縁部ロクロナデ。 内面ロクロナデ。	碗部 1/10
32	17	I区堀上層	須恵器 甕	—	—	[6.1]	密	還元焰 焼成	灰色	外内面：ロクロナデ。	口縁部破片
32	18	II区堀南壁	土師質土器 羽釜	—	—	[4.4]	密	不良	灰白色	外面：ロクロナデ。 内面：横位ヘラナデ。	罌部 1/8
35	1	I区SK01	土師器 環	—	—	[2.6]	密	良好	明赤褐色	外内面：ヨコナデ。	口縁部破片
35	2	I区SK01	青白磁 碗	—	—	[3.7]	密	良好	—	外面：無文。 内面：陽刻による文様が見られるが不明瞭、植物文か。	口縁部破片
35	3	I区SK04	縄文土器 深鉢	—	—	[6.6]	密	良	にぶい黄褐色	外面：沈線・LR単節縄文。 内面：ナデ。	体部破片
35	4	I区SK04	灰釉陶器 高台付皿	—	(6.2)	1.3]	密	良好	灰白色	外側が弧状となり内側が外傾する三日月高台で、内側接合部を棒状工具ナデ。外面：ロクロナデ。 内面：底部ロクロナデ。重ね焼き痕と見られる円形の変色範囲あり、外側は自然釉付着。高台上部棒状工具ナデ、下部ロクロナデ。	底部 1/3
35	5	I区SK05	弥生土器 高環か	—	—	[1.1]	密	良好	赤色	円盤状の体部(底部)から上方に延びると思われる形状から高環と考えられる。外内面：ヘラミガキ後赤彩。	体部破片
35	7	I区SK05	染付 小環	(5.0)	(3.0)	3.1	密	良好	—	底部は碁笥底で高台状を呈する。外面：体部竹を描く。内面：無文。	1/3
35	8	I区SK05	染付 皿	(10.2)	(5.4)	2.3	密	良好	—	外面：口縁部～体部何の文様が描かれているか不明。体下部圏線。高台部二重圏線。底部一部の二重圏線、中央に線描を描くが判読不能。 内面：口縁部～底部草花文。	1/4
35	9	I区SK05	染付 植木鉢	—	—	[4.1]	密	良好	—	有田焼の植木鉢。外面：無文。 内面：口縁部鳳凰の尾羽のような文様。頸部後線から下へ約1cmの幅で波状文を2本描く。	口縁部～ 頸部破片
36	2	I区SE01	古式土師器 甕	—	—	[3.1]	密	良好	にぶい褐色	S字状口縁台付甕の台端部。外面：縦位ハケメ。 内面：横位ハケメ。	台部破片
36	3	I区SE01	土師器 環	—	—	[3.0]	密	良	明赤褐色	外面：口縁部ヨコナデ。体部斜位ヘラケズリ。 内面：口縁部～体部ヘラナデ。	口縁部～ 体部破片
36	5	I区SE01	青磁 碗	—	—	[2.0]	密	良好	—	外面：ロクロ整形後釉薬施軸。 内面：ロクロ整形後口縁部棒状工具横位ケズリ、釉薬施軸。	口縁部破片
38	1	I区SD01	土師器 甕	—	—	[2.7]	密	良好	黄褐色	外面：口縁端部沈線状に窪む。口縁部斜位ハケメ後ヨコナデ。 内面：ヨコナデ。	口縁部破片
38	2	I区SD01	須恵器 環	—	—	[3.5]	密	酸化焰 焼成	にぶい黄褐色	外内面：ロクロナデ。	口縁部～ 体部破片
38	3	I区SD03	須恵器 蓋	—	(13.2)	3.9	密	還元焰 焼成	灰白色	外面：頂部～体中部回転ヘラケズリ。体下部～裾部ロクロナデ。裾部の体部境に棒状工具ナデ。 内面：ロクロナデ。	1/4
38	4	I区SD03	土師質土器 かわらけ	—	—	[9.8]	密	良好	にぶい橙色	外内面：ロクロナデ。	口縁部～ 体部破片
38	5	I区SD04	土師器 甕	—	—	[2.7]	密	良好	灰褐色	外面：口縁部縦位ヘラナデ。頸部縦位ハケメ。 内面：口縁部ヨコナデ。頸部横位ヘラケズリ。	口縁部破片
38	6	I区SD04	土師器 甕	—	—	[4.1]	密	良	にぶい黄褐色	外面：口縁部ヨコナデ。頸部横位ヘラケズリ。 内面：口縁部～頸部ヨコナデ。	口縁部破片
38	7	I区SD04	須恵器 環	—	—	[3.6]	密	還元焰 焼成	灰色	口縁部の1か所をつまみ、片口状としている。外内面：ロクロナデ。	口縁部～ 体部破片
38	8	I区SD04	須恵器 高台付環	—	—	[3.1]	密	酸化焰 焼成	にぶい褐色	外内面：ロクロナデ。	接合部 1/4
38	10	I区SD04	土師質土器 かわらけ	—	—	[3.2]	密	良好	橙色	外面：口縁部ヨコナデ。体部斜位ヘラナデ。 内面：口縁部ヨコナデ。体部横位ハケメ。	口縁部～ 体部破片

(): 推定 [] : 遺存

挿図	番号	出土位置	種別・器種	法量 (cm)			胎土	焼成	色調	器形・成・整形、文様等の特徴	遺存状況
				口径	底径	器高					
38	11	I区 SDO4	焼締め陶器鉢	(30.2)	(18.0)	9.9	密	良好	灰褐色	外面：口縁部ヨコナデ。体部斜位・横位ヘラナデ。底部ヘラナデ。 内面：口縁部～体部ヨコナデ、体上部に沈線状の窪み3条あり。底部ユビナデ。	1/4
40	1	I区 廃土	染付 碗	(9.9)	(5.7)	5.9	密	良好	—	外面：口縁部四方禪文。体部水辺芦文。体下部圏線。高台部二重圏線。 内面：無文。	1/5
40	2	I区 廃土	染付 碗	(10.3)	—	[4.7]	密	良好	—	外面：体部何の文様が描かれているか不明、飛ぶ鳥を描いたか。 内面：無文。	口縁部破片
40	3	I区 表土	染付 碗	(9.9)	(3.6)	4.5	密	良好	—	外面：口縁部四方禪文。体部水辺芦文。体下部圏線。高台部二重圏線。 内面：無文。 19世紀前葉か。	1/6
40	4	II区 表土	染付 碗	—	(3.8)	[2.8]	密	良好	—	外内面：口縁部から底部に向けて縦線を多数書き縦縞模様を形成する。底部に向かうにつれて線が細くなる。	体下部～底部 1/6
40	5	I区 廃土	染付 碗	(7.9)	(3.7)	4.1	密	良好	—	小型碗。外面：口縁部圏線。体中部二重縦線で4区画し外側に3つ、内側に5つ縦線を書いた丸文を描く。体下部圏線。高台部二重圏線。 内面：無文、口縁部軸剥ぎ。	口縁部～底部 1/4
40	6	II区 廃土	染付 碗	—	(4.0)	[3.1]	密	良好	—	蓋の可能性もあるか。外内面ともに細い線で文様が描かれる。外面：体部何の文様が描かれているか不明。高台部際圏線。 内面：体下部上に一重、下に二重圏線、間に不明の文様を描く。見込み何の文様が描かれているか不明。	体下部～底部 1/8
40	7	II区 廃土	白磁 碗	(10.2)	3.9	5.5	密	良好	—	端反碗。肥前か。	口縁部～体部 1/4 底部完存
40	8	I区 廃土	白磁 碗	(7.9)	(3.0)	5.1	密	良好	—	肥前か。	1/5
40	9	II区 表土	陶器 碗	—	3.8	[3.9]	密	良好	灰白色	外面：ロクロ整形。高台部～底部回転ヘラナデ。口縁部～体下部黄白色釉施釉。 内面：ロクロ整形。全面黄白色釉施釉。瀬戸焼か。	体中部～底部 2/3
40	10	II区 表土	陶器 碗	(12.5)	6.0	7.4	密	良好	暗赤褐色	外面：ロクロ整形。体下部～底部回転ヘラナデ。口縁部～体下部鉄釉(暗赤褐色)施釉。 内面：ロクロ整形。全面鉄釉(暗赤褐色)施釉。瀬戸焼か。	口縁部 1/10 体部 2/3 底部完存
40	11	II区 廃土	陶器 碗	—	(5.0)	[2.7]	密	良好	極暗褐色	外面と内面で釉薬を変えている。外面：体下部回転ヘラナデ。高台部ロクロナデ。高台部端を除いて鉄釉施釉、釉薬の多少で横縞模様が見える。 内面：ロクロ整形。全面緑色味を帯びた透明釉(灰釉)施釉。瀬戸焼か。	体下部～底部 1/6
40	12	II区 表土	白磁 小坏	(4.6)	(3.0)	3.0	密	良好	—	底部は基筒底で高台状を呈する。肥前か。	1/4
40	13	II区 廃土	染付 皿	(10.9)	—	[2.1]	密	良好	—	外面：体部唐草文か。体下部圏線。 内面：口縁部圏線。体部蜻蛉草文。	口縁部破片
40	14	I区 廃土	染付 皿	—	—	2.0	密	良好	—	外面：無文。 内面：見込みに「南」。まだ文字が続くと思われる。近代。	1/10
40	15	II区 廃土	白磁 皿	—	(4.7)	0.9	密	良好	—	外面：無文。 内面：見込みに陰刻で直線と曲線を組み合わせた文様。	底部 1/3
40	16	I区 廃土	染付 蓋	つまみ (3.5)	(9.5)	2.6	密	良好	—	外面：つまみ内側無文。つまみ部際圏線。体部全面に鳳凰と不明の文様を描く。裾端部圏線。 内面：口縁部圏線の間を縦線で描いた丸文を並べ、隙間を横線で埋める。見込み二重圏線、中央に菊を描いたと思われる。	1/2
40	17	II区 廃土	染付 八角鉢	—	(8.8)	[2.9]	密	良好	—	高台部は円形。体部は八角形を呈する。外面：体部角部吹墨文様、辺部波線で縦区画された内側を水玉模様塗り分けした文様を描く。高台部際逆さ波状の圏線。 内面：見込み中央鷲・芦。漆継ぎの痕跡が見られる。	体下部～底部 1/2
40	18	I区 廃土	土師質土器 内耳土器	(28.0)	(29.2)	[3.5]	密	良好	明赤褐色	非常に浅い形状。烙烙。外縁部が緩やかに立ち上がる平底と思われる、短い口縁部が内傾して立ち上がる。外面：口縁部ヨコナデ。底部無調整。 内面：口縁部～底部ヨコナデ。	1/8
40	19	I区 確認面	陶器 急須	—	(3.4)	[2.1]	密	良好	暗赤褐色	外面体部の底部際回転防止用と思われる粘土塊を貼付か。外面：体中部ロクロナデ。体下部～底部回転ヘラナデ。体中部鉄釉(茶色)施釉。 内面：ロクロ整形。全面鉄釉(茶色)施釉。	体中部～底部 1/6
40	20	I区 確認面	色絵 不明	(5.6)	—	[1.4]	密	良好	—	小型壺か。外面：口縁部端が玉縁状を呈する。口縁部中ほどに金彩で圏線、その下を朱色で塗彩。 内面：無文。	口縁部破片
40	21	II区 廃土	陶器 壺	—	—	[4.5]	密	良好	暗灰黄色	外面：体上部・体中部二重圏線、体上部門を繋げた連環文様、体中部直線文を白色粘土の象嵌で施す。その後緑色味を帯びた透明釉を施釉。 内面：ロクロナデ。緑色味を帯びた透明釉を施釉。瀬戸焼か。	体部破片
40	22	II区 表土	染付 碗	5.8	3.6	6.6	密	良好	—	外面：口縁部～体部吹墨で竹を大きく描く。 内面：無文。近代。	完形
40	23	II区 廃土	土師質土器 内耳土器	(32.8)	—	[8.0]	密	良好	黒色	内耳鍋。外内面：口唇部面取り。口縁部～体上部ヨコナデ。	口縁部～体上部 1/10

金属製品

挿図	番号	出土位置	種別	法量 (): 推定 [] : 遺存				材質	器形・成・整形等の特徴	遺存状況
				長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)			
16	1	II区 堀下層	真鍮製品 矢立	15.2	1.1	1.2	24.7	真鍮	一体型の矢立であるが、分離型矢立の筆筒の形状を呈する。底板・天板+側板・仕切板蓋留具・奥板+墨壺天板・墨壺緑金具・墨壺蓋の部品で構成される。底板には一寸ごとに線が刻まれ、一方の角に線間を10区分する刻みが施される。	完形
17	2	I区 堀下層	真鍮製品 煙管雁首	8.5	1.6	3.7	[12.2]	真鍮	火皿の下にφ8mmほどの受口部を設けそこに雁首を差し込む。火皿下部に1条、受口部に2条の凹線の装飾を施す。雁首は頭部～体中部が四角形、体下部が円形を呈し、側面中央部に接合痕が見られる。	ほぼ完形
17	3	I区 堀下層	銅製品 煙管雁首	6.2	1.8	1.4	16.0	銅	頸部と体部との境に段を有する。体部は両端部と中央部に凹線による区画をし、その中を直交する細かい線で縦縞の装飾を施す。火皿の中に煙草と思われる繊維質、体部の中に羅字の一部が遺存し、ほぼ全域に緑青が付着する。	完形
17	4	II区 堀下層	真鍮製品 煙管吸口	10.0	1.2	1.2	13.3	真鍮	体部がφ12mm、吸口部がφ6mmの円形を呈し、接合痕が見られる。小口～体中部に横縞の装飾があり、小口側の幅2mmほどが細かい線で、その他は1mm幅の凹線で施される。	完形
17	5	II区 堀下層	鉄製品 不明	[4.3]	[1.5]	1.0	[16.0]	鉄	底面が平らで、直角に曲がる形状を呈する。全面に赤色塗料が塗布されている。	破片
17	6	I区 堀南壁	鉄製品 釘か	[6.9]	0.7	0.6	[9.3]	鉄	断面四角形を呈する。	ほぼ完形
17	7	I区 堀下層	鉄製品 不明	(4.8)	(5.5)	(0.7)	[53.4]	鉄	端部が丸い板状で長軸方向に湾曲している。	破片
35	10	I区 SK05	鉄製品 ロストルか	[15.8]	[9.0]	1.5	[219.0]	鉄	約1cm四方の目の鉄網。直径40cmほどの円形と思われる。	破片

石製品

挿図	番号	出土位置	種別	法量 (): 推定 [] : 遺存				石質	器形、成・整形等の特徴	遺存状況
				長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)			
17	1	I区 堀 上層	石製品 硯	13.6	5.8	2.0	[136.4]	粘板岩か	細長い短冊形を呈する。海部に墨痕が見られる。裏面も硯として使用されており、幅4.7cm、長さ7.0cmの隅丸方形で窪んでいる。墨痕が顕著に残る。	海部側 2/5
32	1	I区 堀 上層	石器 凹石	[7.7]	11.2	7.0	[462.6]	安山岩	表裏両面ともに窪む。表面は滑らかで裏面はでこぼこである。裏面には2条の擦痕、下端部には敲打痕があり、叩き石・砥石としても使用されたと思われる。	1/2

木製品

挿図	番号	出土位置	種別	法量 (): 推定 [] : 遺存				器形、成・整形等の特徴	遺存状況
				長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)		
18	1	II区 堀 下層	木製品 下駄	[10.8]	9.4	3.5		台と歯が別の差歯下駄。台裏は断面船底状と思われるが、稜は不明瞭である。心去材。	1/3
18	2	I区 堀 下層	木製品 下駄	[15.0]	8.3	[4.0]		台と歯が一体の一本下駄。隅丸長方形を呈し最大幅はほぼ中央と思われる。歯は台面から連続し、歯間の形状は平坦と思われる。前歯の左下に楕円上の窪みがあり、親指の付け根の痕跡と考えられる。大きさが小振りなので女性用または子供用と思われる。板目材。	2/3
18	3	II区 堀 下層	木製品 底板	11.7	[11.6]	0.9		小型の桶または柄杓の底板と思われる。柾目材。	ほぼ完形
18	4	I区 堀 下層	木製品 板	11.0	9.5	2.3		底板状の板材。裏面に工具痕が見られる。板目材。	完形
18	5	I区 堀 下層	木製品 底板	[22.7]	[6.8]	1.0		桶または樽の底板と思われる。柾目材。	1/6
18	6	I区 堀 下層	木製品 底板	[18.0]	[7.4]	1.3		桶または樽の底板と思われる。表側に工具痕が見られる。節が残っており加工途中と思われる。	1/4
18	7	I区 堀 下層	木製品 底板	[34.5]	[9.3]	2.5		大型の桶の底板。板目材。	1/8
19	8	I区 堀 下層	木製品 底板	[10.8]	[6.8]	1.0		小型の曲げ物の底板と思われる。裏面の一部分が炭化している。柾目材。	2/3
19	9	II区 堀 下層	木製品 側板	45.5	6.5	1.4		水汲み桶または手桶の側板。上部に持手を取り付ける幅1.1cm、長さ3.4cm以上の穴を穿つ。外面中部及び下端部にタガの痕跡が見られる。板目材。	ほぼ完形
19	10	II区 堀 下層	木製品 側板	[30.6]	7.4	1.5		水汲み桶または手桶の側板。上部に持手を取り付ける幅1.1cm、長さ3.9cmの穴を穿つ。外面に屋号「〇に°八キ(ヤマキホシ)」と思われる焼印が押される。柾目材。	1/2
19	11	I区 堀 下層	木製品 側板	27.6	[10.5]	1.4		桶の側板。たらいか。外面上段・下段にタガの締め付け痕、内面底部に底板痕が見られる。柾目材。	4/5
19	12	II区 堀 下層	木製品 側板	23.7	3.6	0.8		桶の側板。内面底部に底板の痕跡、外面に要因不明の痕跡が見られる。柾目材。	完形
19	13	II区 堀 下層	木製品 のし棒	34.9	3.7	3.7		上端部にφ1~3mmの小孔を穿つし棒。心去材。	完形
20	14	I区 堀 下層	木製品 糸巻	[35.0]	3.3	3.5		内側の端部を削り細長い台形状に加工し、中ほどに部品を繋げる切り込みを設ける。切り込みのほぼ中央にφ4mmの目釘(木製)が残る。心去材。	ほぼ完形
20	15	I区 堀 下層	木製品 鍬か	[29.2]	[6.9]	1.7		「風呂鍬」の「風呂」部分と思われる。板目材。	1/2
20	16	II区 堀 下層	木製品 樋	[77.6]	[10.1]	4.4		残存部の断面形状は半円形を呈する。	一部か
20	17	II区 堀 下層	木製品 部材	8.3	6.4	6.2		角を落とした隅丸の四角柱。側面の一つに多数の小さな窪みが見られる。叩き痕か。心去材。	完形
20	18	II区 堀 下層	木製品 浮き	5.7	3.9	2.7		両端部にケズリ加工を施し扁平な環玉状の形状を呈する。長軸方向にφ7~10mmの穴を穿つ。形状から浮きと考えられる。	完形
20	19	I区 堀 下層	木製品 楔か	5.0	3.2	2.1		先端に行くにつれ薄くなる断面三角形の板材。楔と思われる。柾目材。	完形
20	20	I区 堀 下層	木製品 角材	[9.2]	[4.5]	3.7		木口面の角に3つの切り込みを持つ角材。心去材か。	破片
21	21	I区 堀 下層	木製品 楔か	23.3	3.0	2.5		先端に行くにつれ薄くなる形状の角材。楔と思われる。板目材。	完形
21	22	II区 堀 下層	木製品 角材	[26.6]	3.7	3.8		木目に沿う形で1つの角部が剥落している。1面にφ3.5mmの小孔がある。板目材。	一部か
21	23	II区 堀 下層	木製品 角材	[24.4]	6.9	2.1		ほぞを持つ角材。柾目材。	1/3か
21	24	II区 堀 下層	木製品 角材	45.5	4.8	2.0		両端部にφ4~6mmの小穴を穿つ。中央部側面に鉄釘が打ち込まれ、釘が遺存する。表面の一部に炭化が見られる。板目材。	ほぼ完形
21	25	II区 堀 下層	木製品 角材	[39.3]	5.5	2.9		側面1面の一部が木目に沿う形で剥落している。端部に3mm四方の小穴が2つ横並びで開いており、釘によるものと思われる。梯子の踏み板か。板目材。	4/5
22	26	II区 堀 下層	木製品 角材	[11.9]	3.2	2.5		残存する3面のうち、側面1面のみ平坦面を造るよう加工されている。他の2面は加工面が剥離している可能性がある。裏面にある段差はほぞ穴の痕跡の可能性が考えられる。斜め方向に鉄釘が打たれている。	破片
22	27	II区 堀 下層	木製品 角材	[7.6]	2.3	2.2		直径約3cmの枝と思われる材の隣合う2面を加工し、残りはそのままの形状を活かして断面扇形の形状を呈する。角の下を貫通するようにφ7mmの穴を少なくとも3つ穿つ。	破片
22	28	I区 堀 下層	木製品 角材か	[10.5]	[4.5]	[4.5]		大半が炭化している。火災に遭った建物のものか。	破片
22	29	II区 堀 下層	木製品 板材	[32.1]	9.7	2.7		裏側は端部を除くほぼ全面が炭化しているが、表面は炭化していない。このような状況から端部がほぞ穴に入った状態で下から火を受けたものと思われる。火災に遭った建物のものと思われる。板目材。	4/5
22	30	I区 堀 下層	木製品 角材	[14.3]	3.2	2.0		ほぼ全体が炭化している。上下両端に切り込み面が見られる。火災に遭った建物のものか。	ほぼ完形
22	31	II区 堀 下層	木製品 部材	[7.9]	10.1	1.7		角を切り落とした状態のほぼ正方形を呈する。墨痕と思われる線が一本見られる。角材加工時の木端を利用したものか。四方板目角材か。	2/3
22	32	II区 堀 下層	木製品 板材	12.7	12.5	0.9		鋸でつけられたと思われる切り込みが六本見られる。細長く割るためか、折り曲げるためのものと思われる。柾目材。	4/5
22	33	I区 堀 下層	木製品 板	[17.5]	[7.0]	1.5		端部を斜めに切断し台形状を呈すると思われる板材。柾目材。	一部か
23	34	I区 堀 下層	木製品 板材	44.8	14.0	1.2		表裏両面ともきれいに加工されている。床板か。板目材。	ほぼ完形
23	35	I区 堀 下層	木製品 板材	35.0	2.0	0.7		一方の端部を斜めに切断し、もう一方の端部に1か所切り込みを入れた細長い板材。柾目材。	完形
23	36	I区 堀 下層	木製品 板	[14.3]	[3.3]	0.5		φ4mmの小穴を2つもつ細長く薄い板材。板目材。	破片
23	37	II区 堀 下層	木製品 板材	11.8	[2.0]	1.1		長軸側両端部のほぼ中央にφ1mmの小孔がある。周囲に錆が付着している状況から鉄釘が打たれていたと思われる。左側面に2つの小孔がある。板目材	ほぼ完形
23	38	II区 堀 下層	木製品 板材	13.8	1.6	0.8		縦長五角形の非常に薄い板材。上部に縦に並んで2か所と中央部1か所にφ2mmの目釘(木釘)が打たれる。板目材。	完形
23	39	II区 堀 下層	木製品 板材	[87.7]	8.9	2.6		細長い板材で、端から約30cmの所から端部に向かって側面が湾曲し始め端部では全体幅の約1/3まで狭まる。一方の側面は平らに加工されており、もう一方の側面は片面からケズリを入れて薄く加工している。側面の狭まりははじめ付近にφ3~5mmの小孔が2つ横並びで穿たれる。板目材。	1/2
24	40	II区 堀 No1	木製品 杭	[32.0]	4.1	4.9		枝の樹皮を剥いただけで細かい整形をしていない杭材。下部を一方から斜め方向に切断し、反対側は5cmの長さで真っ直ぐ残る。上側2/3に対し下側1/3の腐食が進んでいないことから、下側は水分の多い土に埋まっていたものと思われる。	1/2か
24	41	II区 堀 下層	木製品 杭	[31.0]	2.7	2.7		枝の樹皮を剥いただけで細かい整形をしていない杭材。下部を片側2方向から斜めに切断し尖らせている。	1/2か
36	1	I区 SE01	木製品 板材	[12.8]	[8.9]	3.3		ほぼ炭化している板材。火災に遭った建物のものと思われる。	破片

近世・近代瓦観察表

挿 番	号	出土位置	種別	法 量 (): 推定 : 遺存			器形・成・整形等の特徴	遺存状況
				長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)		
25	1	Ⅱ区 堀 下層	伏間瓦	[12.4]	[12.1]	1.8	高崎城 24 分類A。角棧伏間瓦。	破片
25	2	Ⅱ区 廃土	伏間瓦	[9.3]	[11.3]	1.7	高崎城 24 分類A。角棧伏間瓦。	破片
25	3	Ⅱ区 堀 下層	伏間瓦	[4.6]	[6.0]	1.7	高崎城 24 分類A。縁に刻印あり。「○の中に小さな○を配置したもの」と思われる。	破片
25	4	Ⅱ区 堀 下層	伏間瓦	[11.4]	[9.1]	1.7	高崎城 24 分類A。	破片
25	5	Ⅱ区 堀 下層	伏間瓦	[13.4]	[11.6]	1.9	高崎城 24 分類A。	破片
25	6	Ⅱ区 堀 下層	烏衾瓦か	[23.4]	12.8	2.0	高崎城 24 分類Aか。下端部に段差がある。	破片
25	7	Ⅱ区 堀 上層	烏衾瓦か	[13.9]	[12.8]	2.2	高崎城 24 分類B。下端部に段差がある。	破片
25	8	Ⅱ区 堀 下層	熨斗瓦	[9.7]	[8.3]	1.7	高崎城 24 分類A。	破片
25	9	Ⅱ区 表土	熨斗瓦	[16.3]	12.2	2.0	高崎城 24 分類A。	破片
25	10	Ⅰ区 廃土	熨斗瓦	[12.2]	12.0	1.8	高崎城 24 分類A。	破片
25	11	Ⅰ区 廃土	熨斗瓦	[12.8]	12.3	1.8	高崎城 24 分類A。	破片
25	12	Ⅰ区 廃土	熨斗瓦	[10.1]	12.0	1.7	高崎城 24 分類A。	破片
25	13	Ⅱ区 廃土	熨斗瓦	[6.6]	8.5	1.7	高崎城 24 分類B。	破片
25	14	Ⅰ区 堀 南壁	目板瓦	[10.9]	[14.6]	2.0	高崎城 24 分類A。角棧垂目板瓦。高さ [5.8]cm。	破片
25	15	Ⅰ区 廃土	目板瓦	[15.1]	[11.3]	2.5	高崎城 24 分類B。角棧垂目板両棧瓦と思われる。	破片
25	16	Ⅱ区 堀 下層	目板瓦	[10.5]	[8.8]	2.2	高崎城 24 分類Aか。釘穴あり。	破片
25	17	Ⅰ区 堀 上層	角瓦か	[7.7]	[7.8]	2.0	高崎城 24 分類A。下にL字に垂の付く角瓦と思われる。	破片
26	18	Ⅱ区 廃土	軒丸瓦	[11.9]	[9.6]	[3.7]	高崎城 24 分類A。大。径 (17.0) cm。	破片
26	19	Ⅱ区 堀 上層	軒丸瓦	[4.7]	[6.5]	—	高崎城 24 分類A。中2。径 12.0cm。	破片
26	20	Ⅱ区 堀 下層	軒丸瓦	[10.0]	11.8	—	高崎城 24 分類A。中2。径 11.8cm。	破片
26	21	Ⅱ区 堀 下層	軒丸瓦	[9.0]	12.5	—	高崎城 24 分類A。中2。径 12.5cm。	破片
26	22	Ⅰ区 堀 上層	軒丸瓦	[7.5]	[15.5]	—	高崎城 24 分類B。大。径 (16.4) cm。	破片
26	23	Ⅱ区 堀 上層	軒丸瓦	[3.9]	[12.0]	—	高崎城 24 分類B。中2。径 12.3cm。	破片
26	24	Ⅱ区 堀 下層	軒丸瓦	[16.0]	13.3	1.8	高崎城 24 分類B。中1。径 13.2cm。	破片
26	25	Ⅱ区 堀 下層	軒丸瓦	[10.5]	[7.5]	—	高崎城 24 分類B。中2。径 (12.5) cm。	破片
26	26	Ⅱ区 堀 下層	巴瓦	[9.6]	[11.0]	3.2	高崎城 24 分類Aか。万十型の巴部と思われる。	破片
26	27	Ⅱ区 廃土	丸瓦	[17.0]	[9.8]	1.9	高崎城 24 分類Bか。他の丸瓦と重なるための切り込みあり。	破片
26	28	Ⅱ区 廃土	丸瓦	[11.0]	[9.8]	2.2	高崎城 24 分類Bか。他の丸瓦と重なるための切り込みあり。	破片
26	29	Ⅱ区 堀 下層	丸瓦	[9.2]	[9.8]	2.3	高崎城 24 分類Bか。他の丸瓦と重なるための切り込みあり。	破片
26	30	Ⅱ区 廃土	丸瓦	[12.3]	[9.9]	2.5	高崎城 24 分類Bか。他の丸瓦と重なるための切り込みあり。	破片
26	31	Ⅱ区 堀 上層	丸瓦	[13.2]	[11.3]	1.9	高崎城 24 分類B。器高が低く平べったい。稜線より内側に釘穴あり。	破片
26	32	Ⅱ区 堀 上層	丸瓦	[12.5]	11.3	2.0	高崎城 24 分類B。器高が低く平べったい。端部に釘穴あり。	破片
26	33	Ⅱ区 廃土	丸瓦	[13.6]	11.2	1.8	高崎城 24 分類Aか。器高が低く平べったい。端部に釘穴あり。割れ口付近の内面に盛り上がりが見られ、段が付く形状か。内面縦方向にヘラ状工具ナデ。	破片
26	34	Ⅱ区 廃土	丸瓦	[13.6]	[8.8]	1.7	高崎城 24 分類B。器高が低く平べったい。稜線より内側に釘穴あり。	破片
26	35	Ⅱ区 廃土	丸瓦	14.2	[8.2]	1.7	高崎城 24 分類B。器高が低く平べったい。五角形を呈するか。	破片
26	36	Ⅱ区 堀 下層	丸瓦	[20.5]	11.1	1.8	高崎城 24 分類A。高さ 5.0cm。	破片
26	37	Ⅱ区 堀 下層	丸瓦	[15.7]	[11.5]	2.1	高崎城 24 分類B。	破片
26	38	Ⅱ区 堀 上層	丸瓦	[8.3]	[9.2]	1.6	高崎城 24 分類B。	破片
27	39	Ⅱ区 堀 下層	丸瓦	[12.7]	[10.2]	2.1	高崎城 24 分類Aか。内面縦方向に2条の浅い棒状工具ケズリ。	破片
27	40	Ⅱ区 堀 上層	丸瓦	[7.9]	[10.8]	2.1	高崎城 24 分類Aか。内面縦方向に多数のケズリ。	破片
27	41	Ⅱ区 堀 上層	丸瓦	[11.8]	[11.3]	2.2	高崎城 24 分類Aか。内面縦方向に多数のケズリ。	破片
27	42	Ⅱ区 廃土	丸瓦	[18.9]	[12.7]	1.9	高崎城 24 分類Aか。	破片
27	43	Ⅱ区 廃土	丸瓦	[15.2]	[8.5]	2.1	高崎城 24 分類Aか。	破片
27	44	Ⅱ区 堀 下層	丸瓦	[9.5]	[8.7]	1.8	高崎城 24 分類A。	破片
27	45	Ⅰ区 堀 下層	丸瓦	[8.6]	[7.0]	1.9	高崎城 24 分類Aか。	破片
27	46	Ⅰ区 堀 下層	丸瓦	[19.3]	[12.3]	2.1	高崎城 24 分類B。内面布目残る。	破片
27	47	Ⅰ区 堀 下層	丸瓦	[15.8]	[11.0]	1.9	高崎城 24 分類B。内面縦方向に2条の深い棒状工具ケズリ。	破片
27	48	Ⅰ区 堀 下層	丸瓦	[11.8]	[10.1]	2.2	高崎城 24 分類B。内面布目残る。	破片
27	49	Ⅱ区 堀 上層	丸瓦	[14.7]	[8.0]	2.3	高崎城 24 分類B。釘穴あり。	破片
27	50	Ⅱ区 堀 上層	丸瓦	[10.0]	[7.5]	2.0	高崎城 24 分類B。	破片
27	51	Ⅱ区 堀 下層	丸瓦	[12.4]	[8.9]	2.2	高崎城 24 分類B。	破片
27	52	Ⅱ区 堀 上層	丸瓦	[14.5]	[9.0]	1.6	高崎城 24 分類B。	破片
27	53	Ⅱ区 廃土	丸瓦	[13.9]	[7.7]	1.7	高崎城 24 分類B。	破片
27	54	Ⅱ区 表土	軒平瓦	[10.5]	[24.5]	1.7	高崎城 24 分類Aか。高さ 4.9cm。	破片
27	55	Ⅰ区 廃土	軒平瓦	[10.5]	[18.5]	1.9	高崎城 24 分類A。高さ 4.7cm。	破片
27	56	Ⅱ区 堀 上層	軒平瓦	[10.7]	[17.0]	2.1	高崎城 24 分類A。高さ 5.1cm。	破片
27	57	Ⅱ区 堀 下層	軒平瓦	[3.6]	[12.2]	—	高崎城 24 分類A。高さ 4.8cm。	破片
27	58	Ⅱ区 廃土	軒平瓦	[3.8]	[14.5]	—	高崎城 24 分類Aか。高さ [5.0]cm。	破片
27	59	Ⅱ区 堀 下層	軒平瓦	[4.0]	[11.7]	—	高崎城 24 分類A。高さ [5.0]cm。	破片
27	60	Ⅰ区 廃土	軒平瓦	[2.8]	[9.5]	—	高崎城 24 分類Aか。高さ [4.2]cm。	破片
27	61	Ⅱ区 廃土	軒平瓦	[6.4]	[8.0]	1.7	高崎城 24 分類Aか。高さ [5.0]cm。	破片
27	62	Ⅰ区 堀 A 軽石層	軒平瓦	[11.0]	[15.7]	2.0	高崎城 24 分類B。高さ 4.6cm。	破片
27	63	Ⅰ区 堀 下層	軒平瓦	[3.2]	[10.8]	—	高崎城 24 分類B。	破片
27	64	Ⅰ区 堀 下層	軒平瓦	[5.0]	[10.1]	—	高崎城 24 分類B。高さ [4.8]cm。	破片
27	65	Ⅰ区 堀 下層	軒平瓦	[2.6]	[9.7]	—	高崎城 24 分類B。	破片
27	66	Ⅰ区 廃土	軒平瓦	[2.5]	[9.2]	—	高崎城 24 分類B。無文の軒平瓦と思われる。高さ 5.1cm。	破片
27	67	Ⅱ区 廃土	軒平瓦	[22.0]	[10.8]	1.9	高崎城 26 分類A。沈線あり。	破片
28	68	Ⅱ区 堀 下層	平瓦	[8.5]	[9.6]	2.2	高崎城 24 分類A。釘穴・沈線あり。	破片
28	69	Ⅱ区 堀 下層	平瓦	[10.4]	[8.2]	2.2	高崎城 24 分類A。沈線あり。	破片
28	70	Ⅱ区 堀 下層	平瓦	[13.0]	[12.9]	2.1	高崎城 25 分類A。沈線あり。	破片
28	71	Ⅱ区 堀 下層	平瓦	[18.1]	[21.0]	1.7	高崎城 24 分類A。	破片
28	72	Ⅱ区 堀 上層	平瓦	[10.1]	[10.6]	1.7	高崎城 24 分類A。	破片
28	73	Ⅱ区 堀 下層	平瓦	[12.7]	[9.3]	2.0	高崎城 24 分類A。	破片
28	74	Ⅱ区 堀 下層	平瓦	[12.5]	[13.9]	1.8	高崎城 24 分類A。	破片

挿図	番号	出土位置	種別	法量 (): 推定 [] : 遺存			器形・成・整形等の特徴	遺存状況
				長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)		
28	75	Ⅱ区 堀下層	平瓦	[10.1]	[13.0]	1.9	高崎城 24 分類A。	破片
28	76	I区 廃土	平瓦	[12.7]	[11.6]	1.7	高崎城 24 分類A。裏面ハケ状工具痕あり。	破片
28	77	Ⅱ区 堀下層	平瓦	[14.0]	[14.5]	1.8	高崎城 24 分類Aか。	破片
28	78	I区 堀上層	平瓦	[13.8]	[14.6]	1.7	高崎城 24 分類Aか。	破片
28	79	Ⅱ区 堀上層	平瓦	[7.3]	[14.0]	1.9	高崎城 24 分類Aか。	破片
28	80	Ⅱ区 廃土	平瓦	[10.0]	[9.5]	1.7	高崎城 24 分類A。湾曲が小さく直線的。裏面ハケ状工具痕あり。	破片
28	81	Ⅱ区 廃土	平瓦	[12.0]	[9.3]	1.7	高崎城 24 分類A。湾曲が小さく直線的。	破片
28	82	Ⅱ区 堀下層	平瓦	[12.7]	[9.3]	1.7	高崎城 24 分類A。湾曲が小さく直線的。	破片
28	83	Ⅱ区 堀上層	平瓦	[8.6]	[9.5]	1.6	高崎城 24 分類A。湾曲が小さく直線的。	破片
28	84	Ⅱ区 堀下層	平瓦	[8.3]	[7.0]	1.7	高崎城 24 分類A。湾曲が小さく直線的。	破片
29	85	I区 堀下層	平瓦	[11.5]	[8.7]	2.1	高崎城 25 分類B。縁に「○にー」の刻印あり。	破片
29	86	I区 堀下層	平瓦	[8.5]	[10.2]	2.3	高崎城 24 分類B。沈線あり。	破片
29	87	I区 堀下層	平瓦	[14.7]	[14.4]	2.7	高崎城 24 分類B。釘穴・沈線あり。	破片
29	88	I区 堀下層	平瓦	[9.2]	[10.5]	2.6	高崎城 24 分類B。釘穴・沈線あり。	破片
29	89	Ⅱ区 表土	平瓦	[8.3]	[10.9]	2.4	高崎城 24 分類B。釘穴あり。	破片
29	90	I区 堀下層	平瓦	[12.2]	[13.8]	1.8	高崎城 24 分類B。釘穴あり。	破片
29	91	Ⅱ区 堀下層	平瓦	[15.8]	[13.5]	2.2	高崎城 24 分類B。	破片
29	92	I区 堀下層	平瓦	[17.5]	[14.0]	1.8	高崎城 24 分類B。	破片
29	93	I区 堀下層	平瓦	[14.0]	[10.0]	1.8	高崎城 24 分類B。	破片
29	94	I区 堀下層	平瓦	[11.8]	[14.2]	1.9	高崎城 24 分類B。	破片
29	95	I区 堀下層	平瓦	[16.1]	[8.2]	2.0	高崎城 24 分類B。	破片
29	96	Ⅱ区 表土	平瓦	[9.8]	[13.5]	1.9	高崎城 24 分類B。	破片
29	97	Ⅱ区 堀下層	平瓦	[12.5]	[5.7]	2.0	高崎城 24 分類B。湾曲が小さく直線的。	破片
29	98	Ⅱ区 堀下層	平瓦	[9.7]	[7.8]	1.9	高崎城 24 分類Bか。湾曲が小さく直線的。	破片
29	99	Ⅱ区 堀下層	平瓦	[9.4]	[6.0]	1.9	高崎城 24 分類Bか。湾曲が小さく直線的。	破片
29	100	Ⅱ区 堀下層	平瓦	[11.3]	[8.6]	1.8	高崎城 24 分類B。湾曲が小さく直線的。	破片
29	101	I区 廃土	平瓦	[11.6]	[11.0]	2.5	高崎城 24 分類B。湾曲が小さく直線的。	破片
29	102	I区 廃土	平瓦	[10.2]	[8.9]	2.3	高崎城 24 分類B。湾曲が小さく直線的。	破片
30	103	Ⅱ区 堀下層	軒棧瓦	[2.5]	[7.6]	—	高崎城 24 分類A。径 7.5cm。	破片
30	104	I区 廃土	軒棧瓦か	[8.5]	[8.0]	2.0	高崎城 24 分類B。	破片
30	105	I区 堀下層	棧瓦	[8.1]	[11.5]	1.7	高崎城 24 分類A。表面に変体仮名「耳又は曾乃乃 ●耳又は曾」、裏面に「威徳寺」と刻書される。●は天と読めるか。	破片
30	106	Ⅱ区 堀下層	棧瓦	[7.3]	[11.0]	1.7	高崎城 24 分類A。	破片
30	107	I区 堀下層	棧瓦	[7.7]	[10.7]	1.7	高崎城 24 分類A。	破片
30	108	I区 堀下層	棧瓦	[7.4]	[11.8]	1.7	高崎城 24 分類A。	破片
30	109	I区 廃土	棧瓦	[9.6]	[10.4]	1.8	高崎城 24 分類A。	破片
30	110	I区 表土	棧瓦	[13.2]	[10.5]	1.7	高崎城 24 分類A。裏面ハケ状工具痕あり。	破片
30	111	Ⅱ区 堀下層	棧瓦	[7.5]	[6.3]	1.7	高崎城 24 分類A。端部が丸くすぼまる。	破片
30	112	Ⅱ区 表土	棧瓦	[10.4]	[11.4]	1.8	高崎城 24 分類A。	破片
30	113	I区 堀下層	棧瓦	[14.3]	[15.2]	1.9	高崎城 24 分類A。	破片
30	114	I区 堀下層	棧瓦	[9.3]	[8.4]	2.2	高崎城 24 分類B。丸瓦に相当する部分に切り込みあり。	破片
30	115	I区 堀上層	棧瓦	[13.7]	[11.1]	1.9	高崎城 24 分類Bか。丸瓦に相当する部分に切り込みあり。	破片
30	116	I区 廃土	棧瓦	[10.8]	[11.9]	1.7	高崎城 24 分類B。	破片
30	117	Ⅱ区 堀下層	棧瓦	[8.4]	[12.3]	2.0	高崎城 24 分類Bか。	破片
31	118	I区 堀下層	不明	[10.8]	[4.8]	[6.6]	高崎城 24 分類B。	破片
31	119	I区 堀上層	不明	[9.0]	[9.0]	2.8	高崎城 24 分類B。飾り瓦の一部か。	破片
31	120	Ⅱ区 堀下層	引掛棧瓦	[7.1]	[5.3]	1.7	高崎城 24 分類A。明治初期に考案された瓦。	破片
31	121	Ⅱ区 堀下層	引掛棧瓦	[3.7]	[5.5]	1.6	高崎城 24 分類A。明治初期に考案された瓦。	破片
31	122	Ⅱ区 確認面	引掛棧瓦	[4.4]	[9.3]	1.4	高崎城 24 分類A。明治初期に考案された瓦。	破片
31	123	I区 廃土	平瓦	[8.7]	[7.4]	1.6	高崎城 24 分類A。裏に「□の中央に○和、左上群、右上馬」の刻印あり。	破片
31	124	Ⅱ区 確認面	平瓦	[9.7]	[7.0]	1.7	高崎城 24 分類A。裏に「□の中央に○和、左上群、右下藤、右下岡」の刻印あり。	破片
31	125	Ⅱ区 堀下層	平瓦	[8.9]	[8.2]	1.7	高崎城 26 分類A。縁に「永」の刻印あり。	破片
31	126	Ⅱ区 廃土	平瓦	[9.2]	[14.0]	1.6	高崎城 26 分類A。縁に「扇形の囲いに利藤」の刻印あり。	破片
35	11	I区 SK05	熨斗瓦	[8.0]	[12.2]	1.9	高崎城 24 分類A。	破片
35	12	I区 SK05	軒平瓦	[7.5]	[10.2]	1.8	高崎城 24 分類A。高さ 4.0cm。	破片
35	13	I区 SK05	平瓦	[9.0]	[8.1]	1.6	高崎城 24 分類A。	破片
35	14	I区 SK05	軒棧瓦	[8.0]	[15.2]	1.8	高崎城 24 分類A。軒丸部分は欠損。高さ 4.3cm。	破片
35	15	I区 SK05	棧瓦	[9.8]	[9.3]	1.6	高崎城 24 分類A。	破片

古代瓦観察表

挿図	番号	出土位置	種別	法量 (): 推定 [] : 遺存			器形・成・整形等の特徴	遺存状況
				長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)		
33	19	I区 堀下層	軒丸瓦	[3.6]	[10.0]	—	高さ [3.8]cm。	破片
33	20	Ⅱ区 堀上層	平瓦	[12.4]	[10.7]	1.8	表：布目痕。	破片
33	21	Ⅱ区 堀下層	平瓦	[9.4]	[5.6]	1.6	表：布目痕。	破片
33	22	Ⅱ区 堀下層	丸瓦	[8.8]	[10.6]	1.9	裏：布目痕。高さ 7.3cm。	破片
35	6	I区 SK05	丸瓦	[15.1]	[13.5]	1.8	裏：布目痕。高さ 7.6cm。	破片
36	4	I区 SE01	平瓦	[8.7]	[3.9]	1.7	表：布目痕。裏：縄目痕。	破片



I区調査区全景（真上から 上が北）



II区調査区全景（真上から 上が北）

写真図版2



I区調査区全景（西上空から）



II区調査区二ノ丸南堀全景（東上空から）



I区調査区二ノ丸南堀全景（西から）



I区調査区二ノ丸南堀犬走り全景（南西から）



II区調査区二ノ丸南堀全景（西から）



II区調査区二ノ丸南堀全景（東から）



I区調査区二ノ丸南堀東端部底面全景（西から）



I区調査区西端部二ノ丸南堀底面全景（東から）



I区調査区二ノ丸南堀全景（東から）



II区調査区二ノ丸南堀全景（西から）

写真図版 4



I区調査区西壁二ノ丸南堀土層断面B-B'① (東から)



I区調査区西壁二ノ丸南堀土層断面B-B'② (東から)



II区調査区東壁二ノ丸南堀土層断面① (西から)



II区調査区東壁二ノ丸南堀土層断面② (西から)



II区調査区西壁二ノ丸南堀土層断面C-C'① (東から)



II区調査区西壁二ノ丸南堀土層断面C-C'② (東から)



II区調査区北壁二ノ丸南堀土層断面① (南から)



II区調査区北壁二ノ丸南堀土層断面② (南から)



I 区調査区北壁二ノ丸南堀土層断面 A-A' (南から)



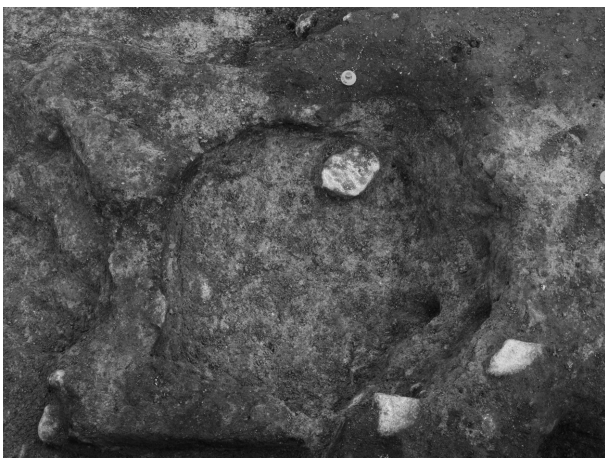
II 区調査区二ノ丸南堀杭出土状況 (東から)



1号土坑全景 (南から)



2号土坑全景 (南から)



3号土坑全景 (南から)



4号土坑全景 (南から)



5号土坑土層断面 (北から)



5号土坑全景 (南から)

写真図版 6



1号井戸跡土層断面 (東から)



1号井戸跡遺物出土状況 (東から)



1号溝跡A全景 (東から)



1号溝跡B全景 (東から)



1号溝跡C全景 (東から)



1号溝跡全景 (東から)



2号溝跡全景 (東から)



3号溝跡全景 (南から)



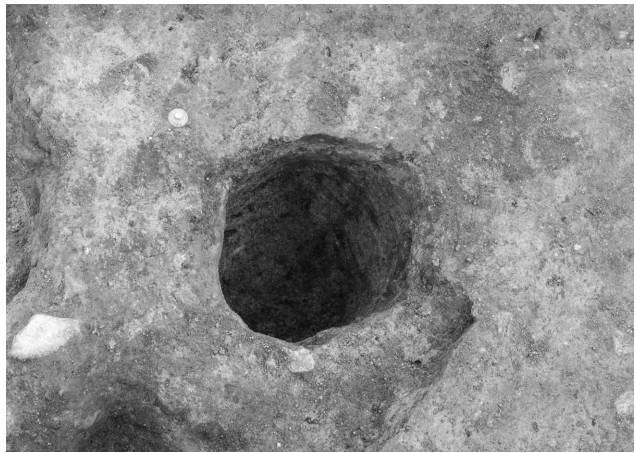
3号溝跡遺物出土状況（南から）



4号溝跡遺物出土状況（西から）



4号溝跡全景（西から）



1号ピット全景（南から）



2号ピット全景（南西から）



作業風景①



作業風景②



作業風景③

写真図版 8

二ノ丸南堀



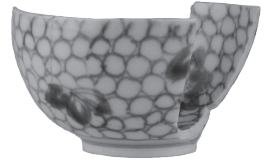
第8図1



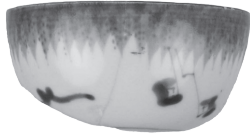
第8図2



第8図3



第8図6



第8図9



第8図14



第8図19



第8図22



第9図28



第9図29



第9図31



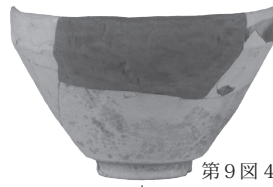
第9図35



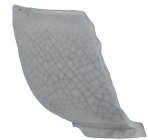
第9図38



第9図42



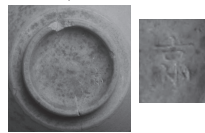
第9図45



第9図49



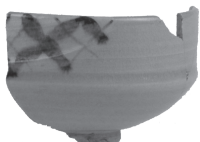
第9図39



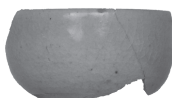
第9図50



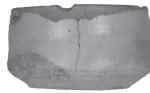
第9図52



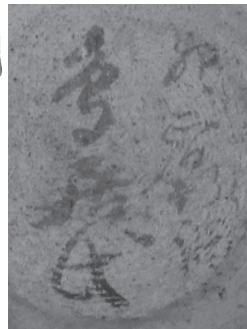
第9図54



第9図57



第10図61



第10図63



第10図59



第10図60



第10図66



第10図64



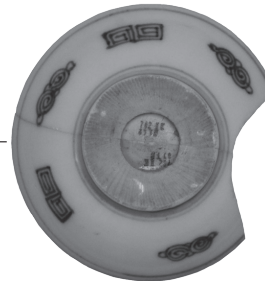
第10図67



第10図69



第10図73



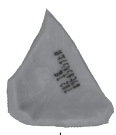
第10図77



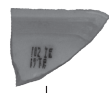
第10図83



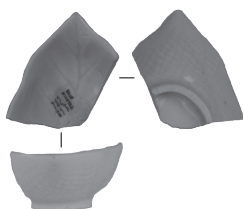
第10図78



第10図80



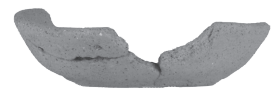
第10図81



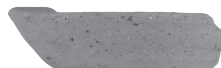
第10図84



第10図85



第11図87



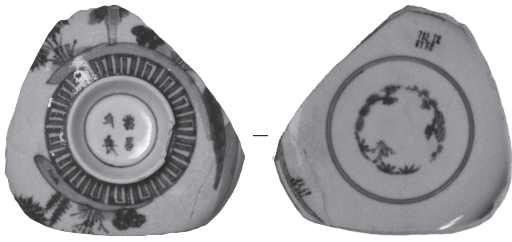
第11図86



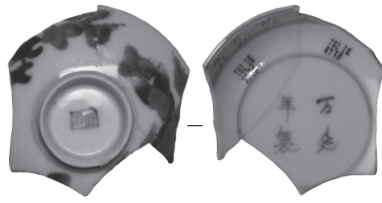
第11図88



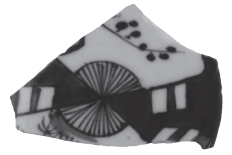
第11図90



第 11 图 93



第 11 图 94



第 11 图 98



第 11 图 104



第 11 图 105



第 12 图 109



第 13 图 113



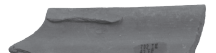
第 13 图 114



第 13 图 117



第 13 图 118



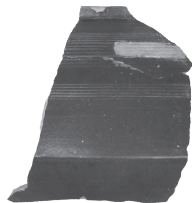
第 13 图 120



第 13 图 122



第 13 图 123



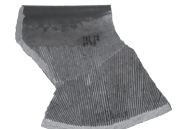
第 13 图 124



第 13 图 126



第 13 图 127



第 13 图 128



第 13 图 129



第 14 图 130



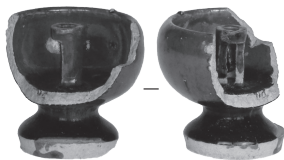
第 14 图 132



第 14 图 133



第 14 图 139



第 14 图 141



第 14 图 144



第 15 图 146



第 15 图 150



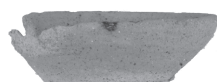
第 14 图 142



第 14 图 143



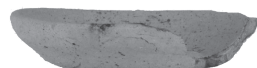
第 15 图 147



第 15 图 148



第 15 图 151



第 15 图 149



第 15 图 152



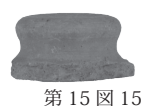
第 15 图 153



第 15 图 154



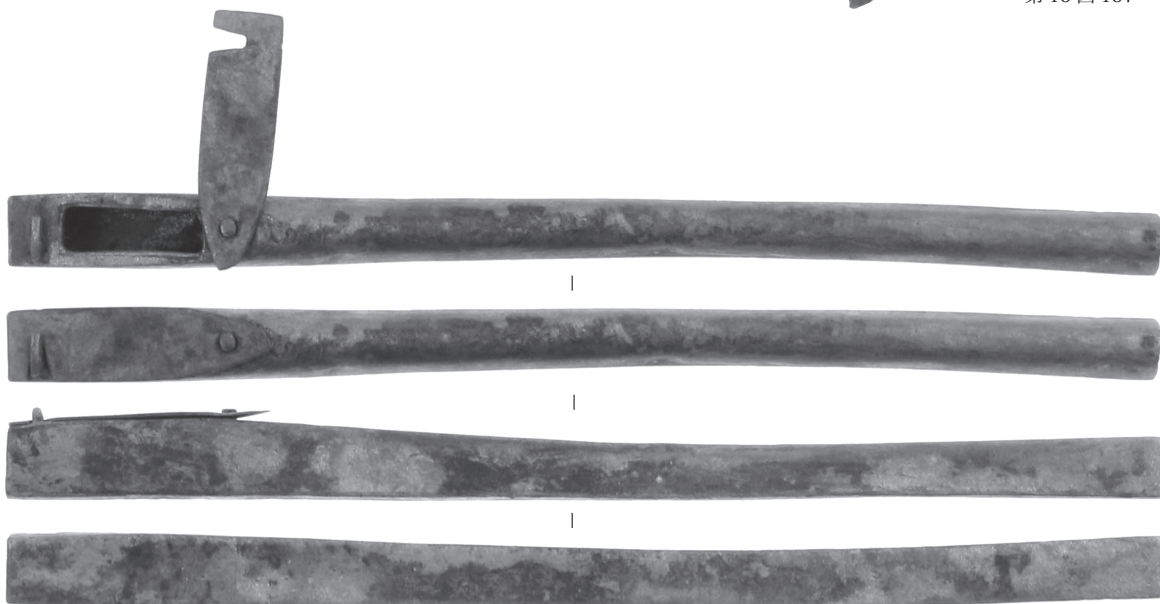
第 15 图 155



第 15 图 156



第 15 图 157



第 16 图 1



第 17 图 2

第 17 图 4



第 17 图 3

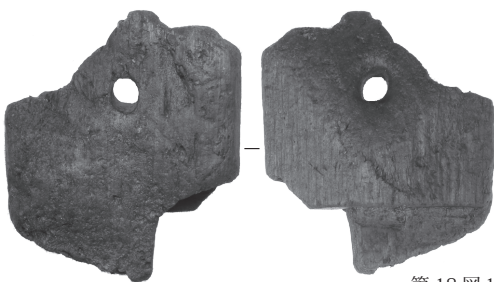
第 17 图 5



第 17 图 6



第 17 图 1



第 18 图 1



第 18 图 3



第 18 图 2



第 18 图 4



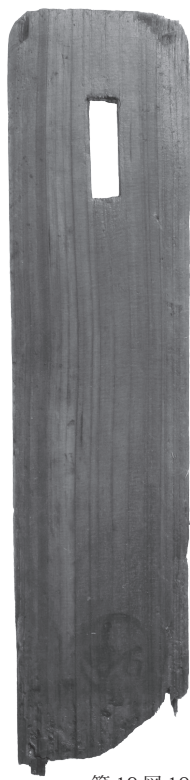
第 19 图 8



第 18 图 5



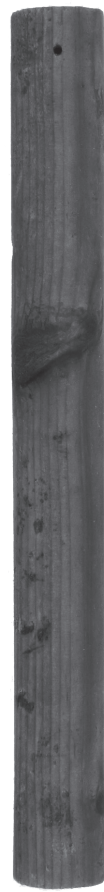
第 18 图 7



第 19 图 10



第 19 图 12



第 19 图 13



第 20 图 14



第 20 图 15



第 20 图 18



第 21 图 24



第 23 图 35



第 21 图 25



第 22 图 29



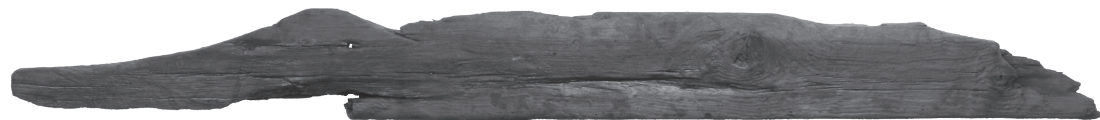
第 22 图 27



第 23 图 37



第 23 图 38



第 23 图 39

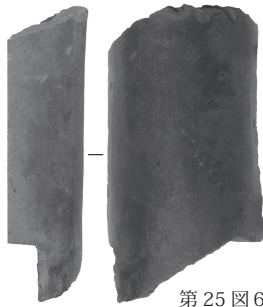
写真图版 12



第25图1



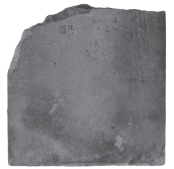
第25图3



第25图6



第25图9



第25图11



第25图13



第25图14



第25图15



第26图18



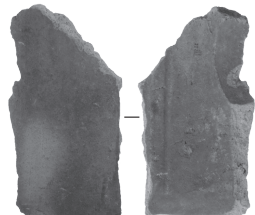
第26图19



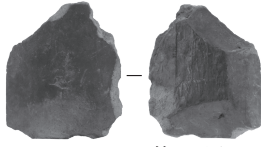
第26图23



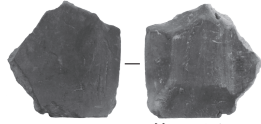
第26图24



第26图27



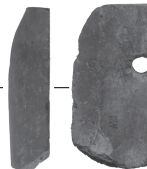
第26图28



第26图29



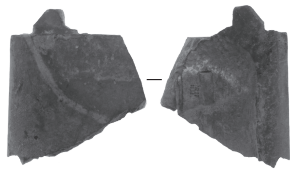
第26图31



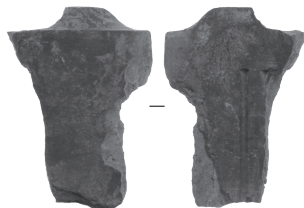
第26图32



第26图36



第27图39



第27图47



第27图54



第27图55



第27图58



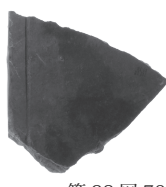
第27图62



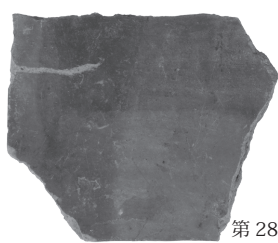
第27图60



第27图64



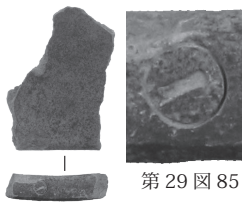
第28图70



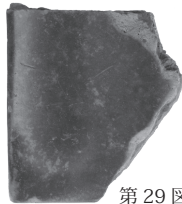
第28图71



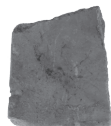
第28图77



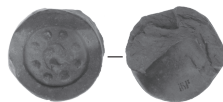
第29图85



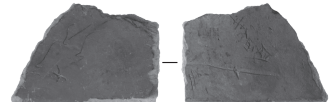
第29图91



第29图98



第30图103



第30图105



第30图109



第30图113



第30图116



第31图123
1/2



第31图124
1/2



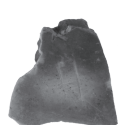
第31图125



第31图126



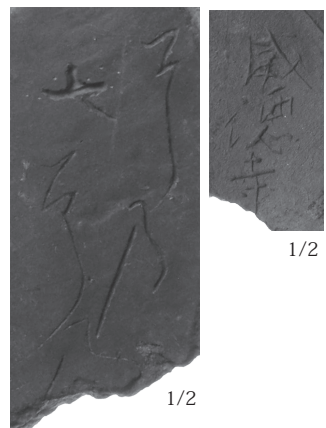
第31图118



第31图119



第31图122



1/2

1/2



第 32 図 1



第 32 図 2



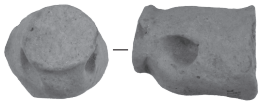
第 32 図 3



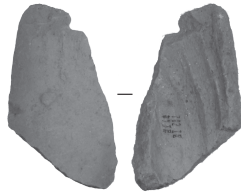
第 32 図 4



第 32 図 5



第 32 図 6



第 32 図 7



第 32 図 8



第 32 図 9



第 32 図 11



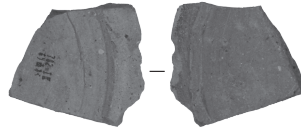
第 32 図 14



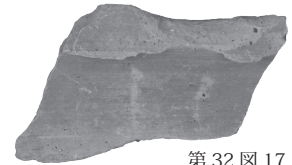
第 32 図 13



第 32 図 15



第 25 図 16



第 32 図 17



第 32 図 18

SK04

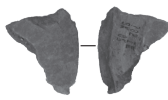


第 35 図 3



第 35 図 4

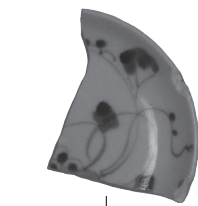
SK05



第 35 図 5

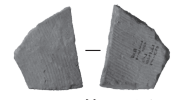


第 35 図 7



第 35 図 8

SE01

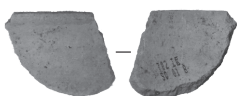


第 36 図 2



第 36 図 5

SD01



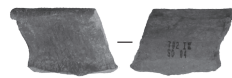
第 38 図 2

SD03

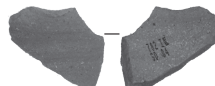


第 38 図 3

SD04



第 38 図 5

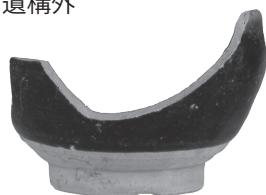


第 38 図 7

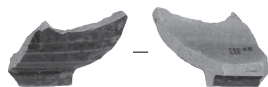


第 38 図 11

遺構外



第 40 図 10



第 40 図 11



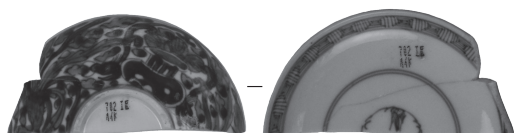
第 40 図 18



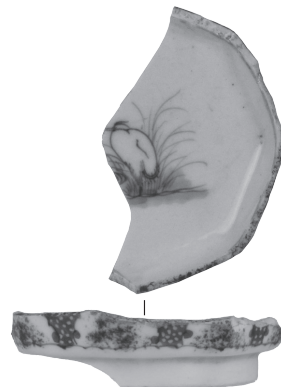
第 40 図 20



第 40 図 12



第 40 図 16



第 40 図 17



第 40 図 21

発掘調査報告書抄録

ふりがな	たかさきじょういせき 25
書名	高崎城遺跡 25
副書名	独立行政法人国立病院機構高崎総合医療センター病棟等増築整備工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
巻次	
シリーズ名	高崎市文化財調査報告書
シリーズ番号	第 408 集
編著者名	高林 真人
編集機関	株式会社 測研
所在地	〒 370 - 3517 群馬県高崎市引間町 712-2
発行年月日	平成 30 年 3 月 28 日

ふりがな 所収遺跡名	所在地	コード		北緯 (世界測地系)	東経 (世界測地系)	調査期間	調査面積 (㎡)	調査原因
		市町村	遺跡 番号					
たかさきじょういせき 高崎城遺跡 25	群馬県高崎市高松町 36 番地	102024	702	36° 19' 20"	139° 0' 6"	20170723 ～ 20171012	690	病棟建設

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
高崎城遺跡 25	城館跡	近世	二ノ丸南堀 1 条 土坑 3 基 溝跡 1 条	陶磁器・土師質土器・ 金属製品・木製品・ 石製品・瓦 かわらけ 土師器・須恵器・瓦	近世高崎城南中門西側の 二ノ丸南堀の東端部が確 認された。堀の中から「威 徳寺」刻書瓦・「鳥居氏」 墨書陶器が出土した。
		散布地	中世		
	平安時代		溝跡 1 条		
	時期不明		土坑 1 基 溝跡 1 条 ピット 3 基		
	近代		土坑 2 基		

要約	本遺跡は高崎台地上に立地する縄文時代～近現代までの遺構が確認される高崎城遺跡の第 25 次調査地点である。近世高崎城の南中門西側に位置する二ノ丸南堀の発掘調査を実施し、堀の東端部が確認された。堀からは近世陶磁器ほかの土器類、金属製品、木製品、石製品、瓦などの多種多様の遺物が多量に出土した。その中から線刻で表面に変体仮名・裏面に「威徳寺」と書かれた棧瓦、底面に「●●●● 鳥居氏」と墨書のある陶器小型碗が確認された。
----	--

高崎城遺跡 25

独立行政法人国立病院機構高崎総合医療センター病棟等増築整備工事に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書

2018 年 3 月 20 日 印刷
2018 年 3 月 28 日 発行

発行 独立行政法人国立病院機構高崎総合医療センター
高崎市教育委員会
株式会社 測研

印刷 上毎印刷工業株式会社